

第一回

心のゆれをとらえる

気持ちの名を急がず、その重なりと向きを言葉にする。

今日の中心漢字

哀 慰 怨 憎 怖 怪 慌 悩

いっしょに覚える漢字

恩	恋	慈	惨	愁	憾
慨	悦	患	癒	怠	慎

悲しみ・恐れ・悩みなどの違いを確かめたあと、一つに決めにくい心の動きを、言葉の向きから丁寧に読む文章を読みます。

意味の芯 → 熟語 → 使い分け → 短文 → 文章

一 今日の中心漢字の芯

字	主な読み	意味の芯／熟語	字	主な読み	意味の芯／熟語
哀	アイ・あわれ	かなしい／あわれに思う 哀れ・哀感・哀愁・悲哀	怖	フ・こわい	こわい／おそれる 怖い・恐怖・畏怖
慰	イ・なぐさめる	心をなだめる／苦しみをやわらげる 慰める・慰問・慰安・慰労	怪	カイ・あやしい	あやしい／ふしぎで変だ 怪しい・怪物・奇怪・怪談
怨	エン・うらむ	深くうらむ 怨み・怨念・怨恨・私怨	慌	コウ・あわてる	あわてる／落ち着きを失う 慌てる・慌ただし・恐慌
憎	ゾウ・にくむ	にくむ／強いやだと思う 憎む・憎悪・憎しみ・愛憎	悩	ノウ・なやむ	なやむ／心を苦しめる 悩む・悩み・苦悩・煩惱

二 いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の方向／熟語	字	主な読み	意味の方向／熟語
恩	オン	受けたありがたい働き 恩・恩人・恩返し	慨	ガイ・なげく	深く感じる／強く怒る 感慨・憤慨
恋	レン・こう	人を思い慕う気持ち 恋・恋愛・初恋	悦	エツ・よろこぶ	よろこぶ 喜悦・満悦
慈	ジ・いつくしむ	深いやさしさ 慈しむ・慈悲・慈愛	患	カン・わずらう	病気や心配をかかえる 患う・患者・患部
惨	サン・みじめ	ひどく痛ましい 惨い・惨事・悲惨	癒	ユ・いえる	苦しみや傷がやわらぐ 癒やす・治癒・癒着
愁	シュウ・うれえる	ものさびしい思い 愁い・哀愁・郷愁	怠	タイ・おこたる	なまける／力が抜ける 怠る・怠慢・倦怠
憾	カン・うらむ	残念に思う 遺憾・痛憾	慎	シン・つつしむ	軽くしないよう気をつける 慎む・慎重・謹慎

三 漢字の働きを考えよう

次の問いに答えなさい。

(1) 「哀」に共通する意味として最も近いものを選びなさい。

- ア 人の心をなだめること
- イ 急に落ち着きを失うこと
- ウ 人を強にくむこと
- エ かなしい、あわれに思うこと

(2) 「慰労」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア 相手を深くうらみ続けること。
- イ 働いた人の苦労をねぎらい、心をなだめること。
- ウ 病気の原因を調べること。
- エ こわい話を読んでおそれること。

(3) 「怨念」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア 心が静かに落ち着いていること。
- イ ありがたい行いに感謝する気持ち。
- ウ めずらしいものを見て喜ぶこと。
- エ 深いうらみの思い。

(4) 「憎悪」の意味として最も近いものを選びなさい。

- ア 物事を大まかにまとめること。
- イ 相手を強にくむ気持ち。
- ウ 心配ごとがなくなること。
- エ 人の苦労をいたわること。

(5) 「奇怪」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア とてもよろこばしい様子。
- イ 心がやさしく落ち着いている様子。
- ウ ものごとの原因と結果がはっきりしている様子。
- エ ふつうとは違って、あやしく不思議な様子。

(6) 「苦悩」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア すばやく走って遠くへ行くこと。
- イ 心の中で深く苦しみ、悩むこと。
- ウ 古い道具をきれいに磨くこと。
- エ 言葉の意味を分類すること。

四 熟語を広げよう

次の文に合う熟語を、語群から選んで書きなさい。

【語群】 哀感 哀愁 慰問 慰労 怨念 私怨 憎悪 愛憎 恐怖 畏怖 奇怪 怪談 慌ただし 苦悩

(1) 秋の夕方の町には、どこか静かな（ ）がただよっていた。

(8) 親しい相手ほど、好きな気持ちと反発する気持ちが入り混じる（ ）が生まれることもある。

(2) 古い写真を見ていると、言葉にしにくい（ ）を覚えた。

(9) 暗い廊下で物音がして、一瞬、強い（ ）を感じた。

(3) 生徒たちは、入院している友人を（ ）するために手紙を書いた。

(10) 大きな自然の力を前にして、人は（ ）の念を抱くことがある。

(4) 長い作業を終えた係の人たちを、先生が（ ）した。

(11) 夜の町で見た影は、どこか（ ）な形をしていた。

(5) 昔話の中には、長く残った（ ）が事件を起こす話もある。

(12) 夏の夜、祖父が昔の（ ）を話してくれた。

(6) 個人的な（ ）だけで人を責めてはいけない。

(13) 発表の準備が重なり、教室は朝から（ ）雰囲気だった。

(7) 差別や暴力への強い（ ）が、その文章には表れていた。

(14) 進路を決めるまで、友人は長い間（ ）していた。

五 似た語を使い分けよう

それぞれの語の違いとして、最も適切なものを選びなさい。

(1) 「哀れ」と「悲しい」の違いとして最も自然なものを選びなさい。

- ア 悲しいは人や物事を見てかわいそうだと感じる気持ちにも使い、哀れは自分の心が沈む気持ちを広く表しやすい。
イ 哀れは「別れを悲しむ」だけに、悲しいは「弱った子犬を（ ）に思う」だけに使う。
ウ 「弱った子犬を（ ）に思う」と「別れを悲しむ」では、哀れと悲しいを意味の違いなく入れ替えられる。
エ 哀れは人や物事を見てかわいそうだと感じる気持ちにも使い、悲しいは自分の心が沈む気持ちを広く表しやすい。

(2) 「慰める」と「癒やす」の違いとして最も自然なものを選びなさい。

- ア 慰めるは言葉や行動で相手のつらさをやわらげること、癒やすは傷や疲れ、心の痛みがやわらぐことに使いやすい。
イ 癒やすは言葉や行動で相手のつらさをやわらげること、慰めるは傷や疲れ、心の痛みがやわらぐことに使いやすい。
ウ 慰めるは「音楽に心を癒やされる」だけに、癒やすは「友人を（ ）」だけに使う。
エ 「友人を（ ）」と「音楽に心を癒やされる」では、慰めると癒やすを意味の違いなく入れ替えられる。

(3) 「怨み」と「憎しみ」の違いとして最も自然なものを選びなさい。

- ア 憎しみは相手から受けたことを根に持つ気持ちに使いやすく、怨みは相手を強くいやだと思い排したい気持ちに使いやすい。
イ 怨みは相手から受けたことを根に持つ気持ちに使いやすく、憎しみは相手を強くいやだと思い排したい気持ちに使いやすい。
ウ 怨みは「暴力を憎む」だけに、憎しみは「受けた仕打ちを怨む」だけに使う。
エ 「受けた仕打ちを怨む」と「暴力を憎む」では、怨みと憎しみを意味の違いなく入れ替えられる。

(4) 「怖い」と「怪しい」の違いとして最も自然なものを選びなさい。

- ア 怪しいは危険や不安を感じておそれる気持ち、怖いは正体や様子がはっきりせず疑わしいことを表しやすい。
イ 怖い「動きが（ ）」だけに、怪しいは「暗い道が（ ）」だけに使う。
ウ 怖い「危険や不安を感じておそれる気持ち、怪しいは正体や様子がはっきりせず疑わしいことを表しやすい。
エ 「暗い道が（ ）」と「動きが（ ）」では、怖いと怪しいを意味の違いなく入れ替えられる。

(5) A・Bに入る語の組合せとして、最も適切なものを選びなさい。A「弱った子犬を（A）に思う」 B「別れを（B）」

- ア A=哀れ／B=悲しい イ A=悲しい／B=哀れ
ウ A=哀れ／B=哀れ エ A=悲しい／B=悲しい

(6) A・Bに入る語の組合せとして、最も適切なものを選びなさい。A「受けた仕打ちを（A）」 B「暴力を（B）」

- ア A=憎しみ／B=怨み イ A=怨み／B=憎しみ
ウ A=怨み／B=怨み エ A=憎しみ／B=憎しみ

六 短文で使ってみよう

A カタカナを漢字に直しなさい。

- | | |
|--------------------------------|--------------------------------|
| (1) 戦争を扱った詩には、深いヒアイがにじんでいた。 | (9) 受賞の知らせに、会場は大きなキエツに包まれた。 |
| (2) 温泉地は、働く人々のイアン場として親しまれた。 | (10) 傷ついた人ヘジヒの心をもって接した。 |
| (3) 昔話では、山に住むカイブツを村人が恐れていた。 | (11) 列車事故のサンジを繰り返さぬよう、原因を調べた。 |
| (4) 長年のエンコンを捨て、両家はようやく和解した。 | (12) 故郷の歌を聞くと、強いキョウシュウに誘われる。 |
| (5) 金融キョウコウで、多くの会社が経営難に陥った。 | (13) 約束を破った相手の態度に、住民はフンガイした。 |
| (6) 寺では、人が抱えるボンノウについて説いている。 | (14) 医師は腫れているカンブを静かに触診した。 |
| (7) 命を救ってくれた医師を、彼はオンジンと呼んだ。 | (15) 手術後に組織がユチャクしないよう、経過を観察する。 |
| (8) 互いを尊重することが、健やかなレンアイの土台になる。 | |

B 次の熟語の読みを書きなさい。

- | | | | | |
|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| (16) 感慨 | (17) 患者 | (18) 治癒 | (19) 怠慢 | (20) 慎重 |
| () | () | () | () | () |

七 文章の中で考えよう

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

一つではない心の向き

第二冊に入って最初の授業で、先生は短い物語を配った。主人公が友人とけんかをし、しばらく口をきかなくなる話だった。読み終えたあと、先生は「この主人公の気持ちを、一つの言葉だけで言うとなんになるだろう」とたずねた。

先生は、同じ場面を読んだ三人のメモも示した。一人は「別れた友人への恋しさ」、一人は「受けた恩を返せなかった遺憾」、もう一人は「関係が壊れそうな怖さ」と書いている。怪しい物音に慌てたときの恐怖とは違い、人への思いには、慈しみや哀愁まで重なることがある。

【言葉を選ぶ前のメモ】 何が起きたか／だれに向いた気持ちか／失ったものはあるか／相手を遠ざけたいのか、関係を戻したいのか

何人かの生徒が「悲しい」と答えた。別の生徒は「怒っている」と言った。悠人は迷った。主人公はたしかに悲しんでいる。しかし、相手を少し憎んでいるようにも見えるし、自分の言い方を悔やんで悩んでいるようにも見える。そこへ、隣の席の真央が「ただ怒っているというより、傷ついて、どうしていいか分からなくなっている感じがする」と言った。

先生はうなずき、「心の動きは、一つの言葉にすぐ閉じこめられるとは限りません」と言った。哀しみ、怨み、憎しみ、恐怖、悩みは、どれも暗い気持ちに見える。しかし、それぞれ向いている方向が違う。哀しみは失ったものへ向かい、怨みは相手から受けたことへ向かい、憎しみは相手を強く拒む気持ちへ向かう。恐怖は危険や不安へ向かい、悩みは答えの出ない問いへ向かう。

授業の終わりに、悠人はノートにこう書いた。「心を読むには、強い言葉をすぐ選ぶのではなく、気持ちの向きを慎重に見る必要がある。」言葉を細かく選ぶことは、人の気持ちを慰めたり、自分の気持ちを整理したりすることにもつながるのだと、悠人は思った。

授業の後半には、入院中の患者へ送る手紙も読んだ。悲惨な出来事を詳しく書き連ねるより、回復を願い、心が少し癒える言葉を選ぶほうがよい。ただし、安易に「元気を出して」と勧めるだけでは、相手の苦悩を小さく扱うことにもなる。

真央は、相手を慰めるには、分かったつもりにならず、話を聞くことを怠らない姿勢が要ると言った。手紙を受け取った人が満悦になるとは限らない。それでも、言葉を慎重に置くこと自体が支えになる。その考えに、悠人は深い感慨を覚えた。

七 文章の中で考えよう（問い）

本文を根拠にして答えなさい。

(1) 本文中から、「心の中で苦しみ、答えを探していること」という意味で使われている熟語を抜き出さない。

(2) 「キョウフ」を漢字二字で書きなさい。

(3) 本文中の「憎んでいる」の意味として最も近いものを選びなさい。

- ア 相手を強くいやだと思っていること。
- イ 相手を静かに慰めていること。
- ウ 相手に深く感謝していること。
- エ 相手の名前を伏せていること。

(4) 本文中の「心の動きは、一つの言葉にすぐ閉じこめられるとは限りません」とは、どのようなことか。

- ア 人の気持ちはいつも単純なので、一つの言葉だけで必ず正確に表せるということ。
- イ 人の気持ちは複雑なことがあり、悲しみ・怒り・悩みなどが重なっている場合もあるということ。
- ウ 心の動きを表す言葉は、文章の中では使ってはいけないということ。
- エ 気持ちを考えるときは、言葉の違いを見なくてもよいということ。

(5) 心の動きを一つの言葉で決めつけないことが大切な理由を、45～55 字で説明しなさい。

(6) 「慎重」「慰める」の二語を用い、心を表す言葉の選び方について 70～90 字でまとめなさい。

三 漢字の働きを考えよう

- | | |
|-------------------------------------|-----------------------------------|
| (1) エ かなしい、あわれに思うこと | (4) イ 相手を強くにくむ気持ち。 |
| (2) イ 働いた人の苦労をねぎらい、心をなだめること。 | (5) エ ふつうとは違って、あやしく不思議な様子。 |
| (3) エ 深いうらみの思い。 | (6) イ 心の中で深く苦しみ、悩むこと。 |

四 熟語を広げよう

- | | |
|--------|-----------|
| (1) 哀愁 | (8) 愛憎 |
| (2) 哀感 | (9) 恐怖 |
| (3) 慰問 | (10) 畏怖 |
| (4) 慰労 | (11) 奇怪 |
| (5) 怨念 | (12) 怪談 |
| (6) 私怨 | (13) 慌ただし |
| (7) 憎悪 | (14) 苦悩 |

使い分けを確かめよう：哀れは人や物事を見てかわいそうだと感じる気持ちにも使い、悲しいは自分の心が沈む気持ちを広く表しやすい。

五 似た語を使い分けよう

(1) **エ** 哀れは人や物事を見てかわいそうだと感じる気持ちにも使い、悲しいは自分の心が沈む気持ちを広く表しやすい。

例：弱った子犬を哀れに思う／別れを悲しむ

(2) **ア** 慰めるは言葉や行動で相手のつらさをやわらげること、癒やすは傷や疲れ、心の痛みがやわらぐことに使いやすい。

例：友人を慰める／音楽に心を癒やされる

(3) **イ** 怨みは相手から受けたことを根に持つ気持ちに使いやすく、憎しみは相手を強くいやだと思い排したい気持ちに使いやすい。

例：受けた仕打ちを怨む／暴力を憎む

(4) **ウ** 怖いのは危険や不安を感じておそれる気持ち、怪しいは正体や様子がはっきりせず疑わしいことを表しやすい。

例：暗い道が怖い／動きが怪しい

(5) **ア** A=哀れ、B=悲しい。(1)の使い分けを参照。

(6) **イ** A=怨み、B=憎しみ。(3)の使い分けを参照。

六 短文で使ってみよう

(1) 悲哀	(11) 惨事
(2) 慰安	(12) 郷愁
(3) 怪物	(13) 憤慨
(4) 怨恨	(14) 患部
(5) 恐慌	(15) 癒着
(6) 煩惱	(16) かんがい
(7) 恩人	(17) かんじゃ
(8) 恋愛	(18) ちゆ
(9) 喜悅	(19) たいまん
(10) 慈悲	(20) しんちょう

七 文章の中で考えよう

- (1) **悩み** 本文中では「悩み」と表されている。
- (2) **恐怖**
- (3) **ア** 相手を強くいやだと思っていること。
- (4) **イ** 人の気持ちは複雑なことがあり、悲しみ・怒り・悩みなどが重なっている場合もあるということ。
- (5) **解答例** (49 字)

気持ちは一つとは限らず、何に向かう感情かを見分けることで、相手や自分の状態を丁寧に理解できるから。

見る点：本文中の判断と、その理由を結びつけていること

- (6) **解答例** (74 字)

強い感情語をすぐ当てず、何が起き、だれへどのような思いが向いているかを慎重に見る。そうすれば、相手の苦悩を小さく扱わず、慰める言葉を選びやすくなる。

見る点：指定語を用いたこと／本文の具体と結論を結んだこと

第二回

願いと意志

望む気持ちを、自分が引き受ける行動へつなげる。

今日の中心漢字

志 願 望 祈 欲 求 頼 託

いっしょに覚える漢字

任	委	請	承	諾	誓
約	念	恵	希	懇	勸

願い・希望・志・欲求の違いを確かめたあと、思いが目標や役目と結びつき、行動へ変わる過程を考える文章を読みます。

意味の芯 → 熟語 → 使い分け → 短文 → 文章

一 今日の中心漢字の芯

字	主な読み	意味の芯／熟語	字	主な読み	意味の芯／熟語
志	シ・シリング	心が目標へ向かう 志す・志望・意志・志	欲	ヨク・ほっする	ほしいと思う気持ち 欲しい・欲求・意欲・私欲
願	ガン・ねがう	ねがう／こうあってほしいと思う 願う・願望・祈願・願書	求	キュウ・もとめる	もとめる／必要として探す 求める・要求・追求・請求
望	ボウ・のぞむ	のぞむ／遠くを見る 望む・希望・志望・展望	頼	ライ・たのむ	たのむ／たよる 頼む・頼る・信頼・依頼
祈	キ・いのる	強くねがう／神仏などに願う 祈る・祈願・祈念	託	タク・かこつける	人にまかせる／思いをあずける 託す・委託・受託・信託

二 いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の方向／熟語	字	主な読み	意味の方向／熟語
任	ニン・まかせる	まかせる／引き受ける 任せる・任務・責任	約	ヤク・つづまる	とり決める 約束・契約・予約
委	イ・ゆだねる	ゆだねる／まかせる 委ねる・委任・委員	念	ネン	心に思い続ける 念じる・信念・念願
請	セイ・こう	願い求める 請う・請求・請願	恵	ケイ・めぐむ	めぐみ／助けとなるもの 恵み・恩恵・知恵
承	ショウ・うけたまわる	受け入れる／聞き入れる 承る・承知・承認	希	キ・まれ	まれ／のぞむ 希望・希少
諾	ダク	引き受ける返事をする 承諾・快諾・諾否	懇	コン・ねんごろ	心をこめる 懇願・懇談・懇切
誓	セイ・ちかう	かたく約束する 誓う・誓約・宣誓	勸	カン・すすめる	相手にすすめる 勧める・勧誘・勧告

三 漢字の働きを考えよう

次の問いに答えなさい。

(1) 「志」に共通する意味として最も近いものを選びなさい。

- ア 心が目標へ向かい、それを目指そうとすること
- イ 人にまかせて、自分は何もしないこと
- ウ 物の値段を数で表すこと
- エ 強い光をさえぎること

(2) 「願望」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア 相手を深くうらむ気持ち。
- イ 資料を時代ごとに分けること。
- ウ こうなってほしい、こうしたいと望む気持ち。
- エ 文章の中の大まかなまとめ。

(3) 「祈願」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア 神仏などに、強く願いをかけること。
- イ 必要なものを店で買い集めること。
- ウ 人に仕事を強く命令すること。
- エ 似た言葉の違いを考えること。

(4) 「欲求」の意味として最も近いものを選びなさい。

- ア 大切なものを危険から守ること。
- イ ものが古くなって状態が悪くなること。
- ウ 何かを手に入れたい、満たしたいと求める気持ち。
- エ 道をたどって目的地へ進むこと。

(5) 「要求」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア 必要なことやしてほしいことを相手に求めること。
- イ 心の中で静かに悲しむこと。
- ウ 人の名前を伏せておくこと。
- エ 水が自然に流れること。

(6) 「委託」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア 願いを持たず、何も考えないこと。
- イ ものを細かくこわすこと。
- ウ 仕事や役目を、他の人や団体にまかせること。
- エ 人の気持ちを怪しく思うこと。

四 熟語を広げよう

次の文に合う熟語を、語群から選んで書きなさい。

【語群】 志望 意志 願望 祈願 希望 展望 欲求 意欲 要求 追求 信頼 依頼 委託 受託

(1) 将来入りたい学校を、面談で（ ）校として伝えた。

(8) 新しい課題に取り組む（ ）が、発表の声にも表れていた。

(2) 最後までやりぬく強い（ ）を持つことが大切だ。

(9) 係の人に、資料をもう一度見せてほしいと（ ）した。

(3) 物語の主人公には、遠くの町へ行きたいという（ ）があった。

(10) なぜその出来事が起きたのかを、最後まで（ ）した。

(4) 合格を（ ）して、家族で神社へ行った。

(11) 約束を守る人は、周りからの（ ）を得やすい。

(5) 困難な状況でも、小さな（ ）をもち続けることが支えになる。

(12) 発表で使う資料の確認を、友人に（ ）した。

(6) これから町がどう変わるか、長い目で（ ）を考える。

(13) 町の調査の一部を、専門の団体に（ ）することになった。

(7) 眠りたい、食べたいという気持ちは、人間の基本的な（ ）である。

(14) 頼まれた仕事を正式に（ ）し、期限までに終えた。

五 似た語を使い分けよう

それぞれの語の違いとして、最も適切なものを選びなさい。

(1) 「志望」と「希望」の違いとして最も自然なものを選びなさい。

- ア 希望は進学先や職業など、目指す対象がはっきりしている場合に使いやすく、志望はこうなってほしいという望みを広く表しやすい。
- イ 志望は進学先や職業など、目指す対象がはっきりしている場合に使いやすく、希望はこうなってほしいという望みを広く表しやすい。
- ウ 志望は「平和を（ ）する」だけに、希望は「医学部を（ ）する」だけに使う。
- エ 「医学部を（ ）する」と「平和を（ ）する」では、志望と希望を意味の違いなく入れ替えられる。

(2) 「願う」と「祈る」の違いとして最も自然なものを選びなさい。

- ア 祈るはこうなってほしいと思うことを広く表し、願うは神仏や大きな力に向けて強く願う場合にも使いやすい。
- イ 願うと祈るは意味の違いがなく、どの文でもそのまま入れ替えられる。
- ウ 願うはこうなってほしいと思うことを広く表し、祈るは神仏や大きな力に向けて強く願う場合にも使いやすい。
- エ 願うは祈るの改まった言い方にすぎず、指す内容や使う場面は同じである。

(3) 「欲求」と「要求」の違いとして最も自然なものを選びなさい。

- ア 要求は心や体が何かを求める気持ち、欲求は相手に対して必要なことやしてほしいことを求めることに使いやすい。
- イ 欲求は「改善を（ ）する」だけに、要求は「睡眠への（ ）」だけに使う。
- ウ 「睡眠への（ ）」と「改善を（ ）する」では、欲求と要求を意味の違いなく入れ替えられる。
- エ 欲求は心や体が何かを求める気持ち、要求は相手に対して必要なことやしてほしいことを求めることに使いやすい。

(4) 「頼む」と「託す」の違いとして最も自然なものを選びなさい。

- ア 頼むは相手に何かをしてほしいとお願いすること、託すは仕事や思いなどを相手にまかせて預けることに使いやすい。
- イ 託すは相手に何かをしてほしいとお願いすること、頼むは仕事や思いなどを相手にまかせて預けることに使いやすい。
- ウ 頼むは「後事を（ ）」だけに、託すは「手伝いを（ ）」だけに使う。
- エ 「手伝いを（ ）」と「後事を（ ）」では、頼むと託すを意味の違いなく入れ替えられる。

(5) A・Bに入る語の組合せとして、最も適切なものを選びなさい。A「睡眠への（A）」 B「改善を（B）する」

- ア A=要求／B=欲求 イ A=欲求／B=欲求
- ウ A=欲求／B=要求 エ A=要求／B=要求

(6) A・Bに入る語の組合せとして、最も適切なものを選びなさい。A「医学部を（A）する」 B「平和を（B）する」

- ア A=希望／B=志望 イ A=志望／B=志望
- ウ A=希望／B=希望 エ A=志望／B=希望

六 短文で使ってみよう

A カタカナを漢字に直しなさい。

- | | |
|-----------------------------|------------------------------|
| (1) シヨクを優先せず、全体の利益を考えて判断した。 | (9) 住民は、道路整備を求めるセイガン書を提出した。 |
| (2) 受験のガンショに必要事項を記入した。 | (10) 湿地には、キショウな鳥が生息している。 |
| (3) 修理代のセイキュウ書が、翌月に届いた。 | (11) 患者は痛みを抑えてほしいと医師へコンガンした。 |
| (4) 式典の成功をキネンして、関係者が集まった。 | (12) 証人は法廷で、真実を述べるとセンセイした。 |
| (5) 資産の管理を専門会社へシントクした。 | (13) 反対されても、自分のシンネンを曲げなかった。 |
| (6) 引き受けた仕事には、最後までセキニンを持つ。 | (14) 失敗から学ぶには、知識だけでなくチエも要る。 |
| (7) 小さなヤクソクでも、守ることで信頼が育つ。 | (15) 急な依頼だったが、先輩はカイダクしてくれた。 |
| (8) 文化祭の実行イインに選ばれた。 | |

B 次の熟語の読みを書きなさい。

- | | | | | |
|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| (16) 承知 | (17) 諾否 | (18) 念願 | (19) 恩恵 | (20) 勧告 |
| () | () | () | () | () |

七 文章の中で考えよう

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

願いを引き受ける

第一回の授業で、悠人たちは心の動きを表す言葉について考えた。次の授業では、先生が一枚の作文を配った。題名は「将来の志」だった。作文を書いた生徒は、町の古い建物を守る仕事に就きたいと書いていた。

先生は、念願の仕事に就いた人への聞き取り記録も配った。その人は、幼いころに古い町並みの恩恵を受け、建物の保存を祈るだけでなく、自分も修理に関わりたいたと考えたという。周囲の勧めで専門学校を志望し、学ぶ機会を得たことが、願いを意志へ変えた。

【願いを行動へ移す表】 見学を申請する／協力者に懇切な依頼をする／承諾を得る／自分の任務と期限を決める

しかし、読み進めるうちに、悠人は少し迷った。その文章には、「人の役に立ちたい」という希望もあれば、「祖父が大切にしていた町を残したい」という願いもあった。また、「壊れかけた建物を直す技術を学びたい」という欲求も感じられた。どれも似ているようで、同じではない。

先生は、「願いは、こうなってほしいと思う気持ちです。志は、その願いを自分の進む方向として引き受けるときに強く表れます」と言った。真央は、「ただ望んでいるだけでなく、自分が何をするかまで考えているかどうかが大事なかもしれない」とつぶやいた。

授業のあと、悠人は図書委員の仕事を友人から頼まれた。最初は少し迷ったが、これまで図書館で学んだことを思い出し、その役目を引き受けることにした。人から託された仕事をただ受けるだけでなく、自分の意志で向き合えば、それは小さな志につながるのかもしれない。悠人はそう考えながら、次の委員会で使う資料を整理し始めた。

委員会では、仕事を引き受ける人だけでなく、だれに何を委任するかも決めた。悠人は資料整理を受託し、真央は案内文の確認を承諾した。二人は、期限を守ると誓約書に書くほど大げさにはしなかったが、口にした約束にも責任が伴うと確かめ合った。

「願いは未来の姿を描き、志は今日の一步を選ばせる。」

七 文章の中で考えよう（問い）

本文を根拠にして答えなさい。

(1) 本文中から、「心が目標へ向かい、それを目指そうとすること」という意味で使われている熟語を抜き出しなさい。

(2) 「キボウ」を漢字二字で書きなさい。

(3) 本文中の「欲求」の意味として最も近いものを選びなさい。

- ア 相手を強くにくむ気持ち。
- イ 何かをしたい、手に入れたいと求める気持ち。
- ウ 資料を光から守ること。
- エ 文章の全体を大まかにまとめること。

(4) 本文中の「志は、その願いを自分の進む方向として引き受けるときに強く表れます」とは、どのようなことか。

- ア 志とは、自分では何もせず、ただ人に頼む気持ちだけを表すということ。
- イ 志は、願いや希望とはまったく関係のない言葉だということ。
- ウ 願いが、自分の目標や行動の方向として受け止められると、志と呼べるものになるということ。
- エ 志は、必ず他人に命令されたときだけ生まれるということ。

(5) 本文に即して、「願い」と「志」の違いを 45～55 字で説明しなさい。

(6) 「託す」「責任」の二語を用い、役目を引き受ける意味を 70～90 字でまとめなさい。

三 漢字の働きを考えよう

- | | |
|------------------------------------|--------------------------------------|
| (1) ア 心が目標へ向かい、それを目指そうとすること | (4) ウ 何かを手に入れたい、満たしたいと求める気持ち。 |
| (2) ウ こうなってほしい、こうしたいと望む気持ち。 | (5) ア 必要なことやしてほしいことを相手に求めること。 |
| (3) ア 神仏などに、強く願いをかけること。 | (6) ウ 仕事や役目を、他の人や団体にまかせること。 |

四 熟語を広げよう

- | | |
|--------|---------|
| (1) 志望 | (8) 意欲 |
| (2) 意志 | (9) 要求 |
| (3) 願望 | (10) 追求 |
| (4) 祈願 | (11) 信頼 |
| (5) 希望 | (12) 依頼 |
| (6) 展望 | (13) 委託 |
| (7) 欲求 | (14) 受託 |

使い分けを確かめよう：志望は進学先や職業など、目指す対象がはっきりしている場合に使いやすく、希望はこうな
ってほしいという望みを広く表しやすい。

五 似た語を使い分けよう

(1) **イ** 志望は進学先や職業など、目指す対象がはっきりしている場合に使いやすく、希望はこうなってほしいという望みを広く表しやすい。

例：医学部を志望する／平和を希望する

(2) **ウ** 願うはこうなってほしいと思うことを広く表し、祈るは神仏や大きな力に向けて強く願う場合にも使いやすい。

(3) **エ** 欲求は心や体が何かを求める気持ち、要求は相手に対して必要なことやしてほしいことを求めることに使いやすい。

例：睡眠への欲求／改善を要求する

(4) **ア** 頼むは相手に何かをしてほしいとお願いすること、託すは仕事や思いなどを相手にまかせて預けることに使いやすい。

例：手伝いを頼む／後事を託す

(5) **ウ** A＝欲求、B＝要求。(3)の使い分けを参照。

(6) **エ** A＝志望、B＝希望。(1)の使い分けを参照。

六 短文で使ってみよう

(1) 私欲	(11) 懇願
(2) 願書	(12) 宣誓
(3) 請求	(13) 信念
(4) 祈念	(14) 知恵
(5) 信託	(15) 快諾
(6) 責任	(16) しょうち
(7) 約束	(17) だくひ
(8) 委員	(18) ねんがん
(9) 請願	(19) おんけい
(10) 希少	(20) かんこく

七 文章の中で考えよう

- (1) **志** 本文中では「志」と表されている。
- (2) **希望**
- (3) **イ** 何かをしたい、手に入れたいと求める気持ち。
- (4) **ウ** 願いが、自分の目標や行動の方向として受け止められると、志と呼べるものになるということ。
- (5) **解答例** (52 字)

願いは実現してほしいと思う気持ちであり、志はその思いを自分の目標や行動の方向として引き受けたものである。

見る点：本文中の判断と、その理由を結びつけていること

- (6) **解答例** (76 字)

人から仕事を託されたとき、ただ受け取るだけでなく、自分の意志で期限や方法を決めて向き合うことが大切である。その行動を選び続ける責任が、小さな志を育てる。

見る点：指定語を用いたこと／本文の具体と結論を結んだこと

第三回

迷いと判断

正しさを急がず、何を認め、何を改めるかを考える。

今日の中心漢字

迷 択 許 否 可 誤 是 非

いっしょに覚える漢字

宜	妥	適	確	決	断
裁	責	義	謝	慮	了

許可・許容・拒否、是非・適否などを使い分けたあと、複数の事情を比べながら判断を組み立てる文章を読みます。

意味の芯 → 熟語 → 使い分け → 短文 → 文章

一 今日の中心漢字の芯

字	主な読み	意味の芯／熟語	字	主な読み	意味の芯／熟語
迷	メイ・まよう	まよう／道や考えが定まらない 迷う・迷路・迷惑・迷信	可	カ・-べき	よい／できる／認められる 可能・許可・可決・可否
択	タク・えらぶ	えらぶ 選択・採択・二者択一	誤	ゴ・あやまる	あやまる／まちがえる 誤る・誤解・誤字・錯誤
許	キョ・ゆるす	ゆるす／認める 許す・許可・許容・免許	是	ゼ・これ	正しい／これ 是非・是正・国是
否	ヒ・いな	そうではない／こばむ 否定・拒否・可否・安否	非	ヒ・あらず	正しくない／そうでない 非行・非常・非難・是非

二 いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の方向／熟語	字	主な読み	意味の方向／熟語
宜	ギ・よろしい	ちょうどよい 適宜・便宜・時宜	裁	サイ・たつ	判断して処理する 裁く・裁判・裁量
妥	ダ	おだやかに落ち着く 妥当・妥協	責	セキ・せめる	負うべきこと 責める・責任・責務
適	テキ・かなう	ふさわしい 適切・適当・適応	義	ギ	正しさ／意味 正義・義務・意義
確	カク・たしか	はっきりしている 確か・確認・確実	謝	シャ・あやまる	あやまる／ありがたく思う 謝る・謝罪・感謝
決	ケツ・きめる	きめる 決める・決定・決断	慮	リョ・おもんばく る	よく考える 配慮・考慮・遠慮
断	ダン・たつ	きる／きっぱり決める 断る・判断・断定	了	リョウ	おわる／わかる 了解・了承・終了

三 漢字の働きを考えよう

次の問いに答えなさい。

(1) 「迷」に共通する意味として最も近いものを選びなさい。

- ア 相手を深くうらむこと
- イ 心や進む道が定まらず、どうすればよいか分からないこと
- ウ 物をきれいに磨くこと
- エ 大切なものを危険から守ること

(2) 「選択」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア 相手の名前を隠しておくこと。
- イ 古いものが時間とともに悪くなること。
- ウ 水が自然に流れていくこと。
- エ いくつかの中から、よいと思うものを選ぶこと。

(3) 「許可」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア まったく分からないままにしておくこと。
- イ してもよいと認めること。
- ウ 似たものを仲間ごとに分けること。
- エ 心が深く悲しむこと。

(4) 「可否」の意味として最も近いものを選びなさい。

- ア 高いか低いかの違い。
- イ 古いか新しいかの順番。
- ウ 近いか遠いかの距離。
- エ よいか悪いか、できるかできないか。

(5) 「誤解」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア 相手に仕事や思いをまかせること。
- イ 相手の考えや物事の意味を、まちがって理解すること。
- ウ 資料を光から守ること。
- エ 心の痛みをやわらげること。

(6) 「是正」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア 人の考えをすべて否定すること。
- イ よく考えずに急いで決めること。
- ウ 言葉を声に出して読むこと。
- エ 正しくないところを、正しい状態へ直すこと。

四 熟語を広げよう

次の文に合う熟語を、語群から選んで書きなさい。

【語群】 迷路 迷惑 選択 採択 許可 許容 否定 拒否 可能 可決 誤解 誤字 是正 非難

(1) 細い道が入り組んだ（ ）のような町を、地図を見ながら歩いた。

(8) 無理な要求だったので、先生はていねいに（ ）した。

(2) 大きな声で話し続けると、周りの人の（ ）になることがある。

(9) 時間を工夫すれば、今日中に作業を終えることも（ ）だ。

(3) 二つの案のうち、どちらを選ぶかを慎重に（ ）した。

(10) 委員会で提案された規則は、多数の賛成で（ ）された。

(4) 話し合いの結果、多くの人が賛成した案が（ ）された。

(11) 言葉が足りなかったために、友人との間に（ ）が生まれた。

(5) 資料室に入るには、係の人の（ ）が必要だった。

(12) プリントに（ ）があったので、先生が黒板で訂正した。

(6) 少しの違いなら（ ）できるが、大きな誤りは直す必要がある。

(13) 話し合いで見つかった問題点を、次の活動で（ ）することにした。

(7) 友人の意見をすぐに（ ）せず、まず理由を聞いた。

(14) 相手の事情を聞かずに強く（ ）するのは、判断を誤るもとなる。

五 似た語を使い分けよう

それぞれの語の違いとして、最も適切なものを選びなさい。

(1) 「迷う」と「悩む」の違いとして最も自然なものを選びなさい。

- ア 悩むは選ぶ道や答えが定まらないときに使いやすく、迷うは心の中で苦しみながら考え続けるときに使いやすい。
イ 迷うは「失敗を（ ）」だけに、悩むは「進路に（ ）」だけに使う。
ウ 「進路に（ ）」と「失敗を（ ）」では、迷うと悩むを意味の違いなく入れ替えられる。
エ 迷うは選ぶ道や答えが定まらないときに使いやすく、悩むは心の中で苦しみながら考え続けるときに使いやすい。

(2) 「許可」と「許容」の違いとして最も自然なものを選びなさい。

- ア 許可は相手にしてもよいと認めること、許容は一定の範囲まで受け入れることに使いやすい。
イ 許容は相手にしてもよいと認めること、許可は一定の範囲まで受け入れることに使いやすい。
ウ 許可は「多少の誤差を（ ）する」だけに、許容は「入室を（ ）する」だけに使う。
エ 「入室を（ ）する」と「多少の誤差を（ ）する」では、許可と許容を意味の違いなく入れ替えられる。

(3) 「否定」と「拒否」の違いとして最も自然なものを選びなさい。

- ア 拒否は内容や考えをそうではないとすること、否定は申し出や要求などを受け入れないことに使いやすい。
イ 否定は内容や考えをそうではないとすること、拒否は申し出や要求などを受け入れないことに使いやすい。
ウ 否定は「要求を（ ）する」だけに、拒否は「主張を（ ）する」だけに使う。
エ 「主張を（ ）する」と「要求を（ ）する」では、否定と拒否を意味の違いなく入れ替えられる。

(4) 「誤り」と「非」の違いとして最も自然なものを選びなさい。

- ア 非はまちがいそのものを表し、誤りは正しくない点や責められるべき点を表しやすい。
イ 誤りは「自分の（ ）を認める」だけに、非は「計算の（ ）」だけに使う。
ウ 誤りはまちがいそのものを表し、非は正しくない点や責められるべき点を表しやすい。
エ 「計算の（ ）」と「自分の（ ）を認める」では、誤りと非を意味の違いなく入れ替えられる。

(5) A・Bに入る語の組合せとして、最も適切なものを選びなさい。A「主張を（A）する」 B「要求を（B）する」

- ア A=否定／B=拒否 イ A=拒否／B=否定
ウ A=否定／B=否定 エ A=拒否／B=拒否

(6) A・Bに入る語の組合せとして、最も適切なものを選びなさい。A「進路に（A）」 B「失敗を（B）」

- ア A=悩む／B=迷う イ A=迷う／B=悩む
ウ A=迷う／B=迷う エ A=悩む／B=悩む

六 短文で使ってみよう

A カタカナを漢字に直しなさい。

- | | |
|--------------------------------|------------------------------|
| (1) 根拠のないメイシンに惑わされず、事実を確かめた。 | (9) 公務員には、住民へ説明するセキムがある。 |
| (2) 進学か就職かのニシャタクイツを迫られた。 | (10) 状況に応じて、テキセツな言葉を選びたい。 |
| (3) 運転メンキョを取るため、教習所へ通った。 | (11) 確認を重ね、カクジツな情報だけを報告した。 |
| (4) 時間があれば、ゼヒ展示を見に来てください。 | (12) 話し合いの結果、来月の実施がケッテイした。 |
| (5) 地震のあと、離れて暮らす家族のアンピを確かめた。 | (13) 一つの資料だけで原因をダンテイしてはいけない。 |
| (6) 少年のヒコウを責めるだけでなく、背景にも目を向けた。 | (14) 見学者のベンギを図り、駅から送迎車を出した。 |
| (7) 契約をめぐる争いは、サイバンで判断された。 | (15) 地域の祭りを残すイギについて話し合った。 |
| (8) 互いに譲れる点を探し、現実的なダキョウ案を作った。 | |

B 次の熟語の読みを書きなさい。

- | | | | | |
|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| (16) 適宜 | (17) 義務 | (18) 謝罪 | (19) 遠慮 | (20) 了承 |
| () | () | () | () | () |

七 文章の中で考えよう

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

許す範囲を決める

図書委員の仕事を引き受けた悠人は、真央たちと一緒に、図書室の新しい利用ルールを考えることになった。最近、昼休みに図書室で話し声が大きくなり、静かに本を読みたい生徒の迷惑になっているという意見が出ていたからだ。

委員たちは、二者択一で決める前に、選択肢を増やした。会話を全面的に否とする案、時間帯で区切る案、席を分ける案である。それぞれの利点と不都合を確かめ、目的に適しているか、制限が妥当かを比べることにした。

【判断表】 選択肢／許可する行為／許容できる範囲／認められない行為／利用者への配慮／見直す時期

最初に出た案は、「昼休みの会話をすべて禁止する」というものだった。たしかに、その案なら静かになるかもしれない。しかし、調べものをするときには、友人と小さな声で相談する必要もある。悠人は、すぐに賛成か反対かを決めることに迷った。真央も、「静けさを守ることと、学び合いを認めることの両方を考えてい」と言った。

話し合いの中で、先生は「判断するときには、何を許可し、何を許容し、何を拒否するのかを分けて考える」とよい」と助言した。そこで委員たちは、「大きな声での雑談は控える」「調べものの相談は小声なら可とする」「注意を受けても続く場合は、席を移動してもらう」という案にまとめた。

悠人は、最初の案をそのまま否定するのではなく、問題点を見つけて是正することが大切なのと思った。判断とは、正しいか誤りかを急いで決めつけることだけではない。何を守り、どこまで認め、どの点を直すべきかを、理由とともに考えることなのだ。

結論を伝えるとき、委員会は「便宜上こう決めた」とだけ書かず、理由と責任の所在も示した。静けさを守る義務は全員にあるが、是非を論じて、違反した人の人格まで裁くものではない。誤解を招いた掲示については委員側も謝り、内容を直した。

新しい案は一度で完成とはしなかった。試行後に適否を確認し、問題があれば是正する。その条件を利用者にも了承してもらうことで、判断は一方的な命令ではなく、確かめ直せる約束になった。

七 文章の中で考えよう（問い）

本文を根拠にして答えなさい。

(1) 本文中から、「ほかの人にとって困ること」という意味で使われている熟語を抜き出さない。

(2) 「キョカ」を漢字二字で書きなさい。

(3) 本文中の「拒否」の意味として最も近いものを選びなさい。

ア 人に仕事をまかせること。

イ 心の痛みをやわらげること。

ウ 申し出や要求などを受け入れないこと。

エ 資料を年代ごとに分けること。

(4) 本文中の「すぐに賛成か反対かを決めることに迷った」とは、どのようなことか。

ア 図書室の問題にまったく関心がなかったということ。

イ 先生の意見を聞く前から、すべての答えが決まっていたということ。

ウ 図書室ではどんな会話も自由にしてよいと考えていたということ。

エ 静かにする必要も、相談する必要もあるため、どちらか一方だけを選んでよいか判断しにくかったということ。

(5) 委員会が会話を全面禁止にしなかった理由を、45～55 字で説明しなさい。

(6) 「許可」「許容」「拒否」の三語を用い、判断の手順を 70～90 字でまとめなさい。

三 漢字の働きを考えよう

(1) **イ** 心や進む道が定まらず、どうすればよいか分からないこと

(4) **エ** よいか悪いか、できるかできないか。

(2) **エ** いくつかの中から、よいと思うものを選ぶこと。

(5) **イ** 相手の考えや物事の意味を、まちがって理解すること。

(3) **イ** してもよいと認めること。

(6) **エ** 正しくないところを、正しい状態へ直すこと。

四 熟語を広げよう

(1) 迷路

(8) 拒否

(2) 迷惑

(9) 可能

(3) 選択

(10) 可決

(4) 採択

(11) 誤解

(5) 許可

(12) 誤字

(6) 許容

(13) 是正

(7) 否定

(14) 非難

使い分けを確かめよう：迷うは選ぶ道や答えが定まらないときに使いやすく、悩むは心の中で苦しみながら考え続けるときに使いやすい。

五 似た語を使い分けよう

(1) **エ** 迷うは選ぶ道や答えが定まらないときに使いやすく、悩むは心の中で苦しみながら考え続けるときに使いやすい。

例：進路に迷う／失敗を悩む

(2) **ア** 許可は相手にしてもよいと認めること、許容は一定の範囲まで受け入れることに使いやすい。

例：入室を許可する／多少の誤差を許容する

(3) **イ** 否定は内容や考えをそうではないとすること、拒否は申し出や要求などを受け入れないことに使いやすい。

例：主張を否定する／要求を拒否する

(4) **ウ** 誤りはまちがいそのものを表し、非は正しくない点や責められるべき点を表しやすい。

例：計算の誤り／自分の非を認める

(5) **ア** A=否定、B=拒否。(3)の使い分けを参照。

(6) **イ** A=迷う、B=悩む。(1)の使い分けを参照。

六 短文で使ってみよう

(1) 迷信	(11) 確実
(2) 二者択一	(12) 決定
(3) 免許	(13) 断定
(4) 是非	(14) 便宜
(5) 安否	(15) 意義
(6) 非行	(16) てきざ
(7) 裁判	(17) ぎむ
(8) 妥協	(18) しゃざい
(9) 責務	(19) えんりょ
(10) 適切	(20) りょうしょう

七 文章の中で考えよう

- (1) **迷惑** 本文中では「迷惑」と表されている。
- (2) **許可**
- (3) **ウ** 申し出や要求などを受け入れないこと。
- (4) **エ** 静かにする必要も、相談する必要もあるため、どちらか一方だけを選んでよいか判断しにくかったということ。

(5) **解答例** (51 字)

静かに読みたい人を守る一方、調べものの相談も必要なので、目的に応じて許す範囲を分ける必要があったから。

見る点：本文中の判断と、その理由を結びつけていること

(6) **解答例** (83 字)

判断では、してよいと認める行為を許可し、一定の範囲まで受け入れる行為を許容し、認められない行為は拒否する。その境界を理由とともに示し、試行後に見直すことが大切である。

見る点：指定語を用いたこと／本文の具体と結論を結んだこと

第四回

調べて確かめる

印象を記録と照らし合わせ、見えなかった事情を探す。

今日の中心漢字

検 査 審 討 探 索 照 鑑

いっしょに覚える漢字

録	報	告	測	計	量
程	準	標	数	料	定

検査・調査・検索・照合などの違いを確かめたあと、記録や数値が判断をどのように変えるかを考える文章を読みます。

意味の芯 → 熟語 → 使い分け → 短文 → 文章

一 今日の中心漢字の芯

字	主な読み	意味の芯／熟語	字	主な読み	意味の芯／熟語
検 査 審 討	ケン・しらべる	調べて確かめる 検査・検討・検索・点検	探 索 照 鑑	タン・さぐる	さがす／奥まで調べる 探す・探求・探検・探究
	サ	くわしく調べる 調査・検査・査定・監査		サク	手がかりをたどってさがす 検索・索引・探索・思索
	シン・つまびらか	よく見て判断する 審査・審議・審判・不審		ショウ・てる	てらす／比べて確かめる 照らす・照明・参照・照合
	トウ・うつ	問題に向き合って考える 検討・討論・討議・討伐		カン・かんがみる	よく見て見きわめる 鑑定・鑑賞・図鑑・鑑別

二 いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の方向／熟語	字	主な読み	意味の方向／熟語
録 報 告 測 計 量	ロク・しるす	残しておく 記録・録音・登録	程 準 標 数 料 定	テイ・ほど	ほど／進み方 程度・日程・過程
	ハウ・むくいる	知らせる 報告・報道・情報		ジュン・じゅんじ る	よりどころ／そなえる 準備・基準・標準
	コク・つげる	伝え知らせる 告げる・報告・広告		ヒョウ・しるべ	目じるし 目標・標識・標本
	ソク・はかる	はかる 測る・測定・観測		スウ・かず	かず 数字・数値・多数
	ケイ・はかる	はかる／考えて決める 計る・計画・合計		リョウ	もとなるもの 資料・材料・料金
	リョウ・はかる	かさ／多さ 量る・数量・分量		テイ・さだめる	きめる／落ち着く 定める・決定・安定

三 漢字の働きを考えよう

次の問いに答えなさい。

(1) 「検」に共通する意味として最も近いものを選びなさい。

- ア 人の心を慰めること
- イ 相手に仕事をまかせること
- ウ 調べて確かめること
- エ 強い怒りを表すこと

(2) 「調査」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア 物事の様子や原因などを、くわしく調べること。
- イ 相手の意見をすぐに否定すること。
- ウ ものを箱に入れて隠すこと。
- エ 遠くの場所へ移動すること。

(3) 「審査」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア ものが古くなり、状態が悪くなること。
- イ 言葉を声に出して読むこと。
- ウ 内容や出来をよく見て、よいかどうかを判断すること。
- エ 道に迷って出口を探すこと。

(4) 「検討」の意味として最も近いものを選びなさい。

- ア 問題や案について、よく調べ考えること。
- イ 相手を深くうらむこと。
- ウ 資料を光から守ること。
- エ 心の痛みをやわらげること。

(5) 「検索」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア 人に何かを強く願うこと。
- イ 物を高いか低いかで比べること。
- ウ 必要な情報を、手がかりをもとに探し出すこと。
- エ 文章の最後だけを読むこと。

(6) 「照合」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア 二つ以上のものを比べて、合っているか確かめること。
- イ 人の名前を出さずに書くこと。
- ウ 水辺の道を歩くこと。
- エ ばらばらのものを散らかすこと。

四 熟語を広げよう

次の文に合う熟語を、語群から選んで書きなさい。

【語群】 検査 調査 審査 検討 討論 探求 探索 検索 参照 照合 鑑定 鑑賞 記録 報告

- | | |
|-------------------------------------|------------------------------------|
| (1) 健康状態を確かめるため、学校で簡単な () を受けた。 | (8) 必要な本を見つけるため、図書館の機械で題名を () した。 |
| (2) 町の歴史を知るために、古い地図や写真を使って () した。 | (9) 分からない言葉があったので、辞書を () した。 |
| (3) 作文コンクールでは、内容や表現を見て先生たちが () する。 | (10) 名簿と出席表を () して、名前のまちがいを直した。 |
| (4) 新しいルールを決める前に、いくつかの案を () した。 | (11) 古い絵が本物かどうか、専門家に () してもらった。 |
| (5) 一つの問題について、賛成と反対に分かれて () した。 | (12) 美術館で絵を () し、色や形の工夫を考えた。 |
| (6) なぜ人は昔の記録を残すのかという問いを、授業で () した。 | (13) 話し合いで決まったことを、ノートに () した。 |
| (7) なくなった資料を探すため、図書室の棚を一つずつ () した。 | (14) 委員会で分かったことを、先生に () した。 |

五 似た語を使い分けよう

それぞれの語の違いとして、最も適切なものを選びなさい。

(1) 「検査」と「調査」の違いとして最も自然なものを選びなさい。

- ア 調査は異常や問題がないかを確認めることに使いやすく、検査は物事の実態や原因をくわしく調べることに使いやすい。
- イ 検査は異常や問題がないかを確認めることに使いやすく、調査は物事の実態や原因をくわしく調べることに使いやすい。
- ウ 検査は「原因を（ ）する」だけに、調査は「製品を（ ）する」だけに使う。
- エ 「製品を（ ）する」と「原因を（ ）する」では、検査と調査を意味の違いなく入れ替えられる。

(2) 「検討」と「討論」の違いとして最も自然なものを選びなさい。

- ア 討論は案や問題をよく調べ考えること、検討は意見を出し合って論じることに使いやすい。
- イ 検討と討論は意味の違いがなく、どの文でもそのまま入れ替えられる。
- ウ 検討は案や問題をよく調べ考えること、討論は意見を出し合って論じることに使いやすい。
- エ 検討は討論の改まった言い方にすぎず、指す内容や使う場面は同じである。

(3) 「検索」と「探索」の違いとして最も自然なものを選びなさい。

- ア 探索は情報を手がかりで探すことに使いやすく、検索は場所や範囲をたどって探すことに使いやすい。
- イ 検索は「森を（ ）する」だけに、探索は「語句を（ ）する」だけに使う。
- ウ 「語句を（ ）する」と「森を（ ）する」では、検索と探索を意味の違いなく入れ替えられる。
- エ 検索は情報を手がかりで探すことに使いやすく、探索は場所や範囲をたどって探すことに使いやすい。

(4) 「参照」と「照合」の違いとして最も自然なものを選びなさい。

- ア 参照は資料などを見て参考にする、照合は二つ以上のものを比べて合っているか確認めることに使いやすい。
- イ 照合は資料などを見て参考にする、参照は二つ以上のものを比べて合っているか確認めることに使いやすい。
- ウ 参照は「名簿と（ ）する」だけに、照合は「資料を（ ）する」だけに使う。
- エ 「資料を（ ）する」と「名簿と（ ）する」では、参照と照合を意味の違いなく入れ替えられる。

(5) A・Bに入る語の組合せとして、最も適切なものを選びなさい。A「製品を（A）する」 B「原因を（B）する」

- ア A＝調査／B＝検査 イ A＝検査／B＝検査
- ウ A＝検査／B＝調査 エ A＝調査／B＝調査

(6) A・Bに入る語の組合せとして、最も適切なものを選びなさい。A「資料を（A）する」 B「名簿と（B）する」

- ア A＝照合／B＝参照 イ A＝参照／B＝参照
- ウ A＝照合／B＝照合 エ A＝参照／B＝照合

六 短文で使ってみよう

A カタカナを漢字に直しなさい。

- | | |
|------------------------------|--------------------------------|
| (1) 出発前に、自転車のブレーキをテンケンした。 | (9) 発表の練習をロクオンし、話す速さを確かめた。 |
| (2) 調査隊は、未踏の洞窟をタンケンした。 | (10) 痛みのテイドを、数字で医師に伝えた。 |
| (3) 中古品は状態を見て価格をサテイする。 | (11) 災害現場の様子が、全国へホウドウされた。 |
| (4) 巻末のサクインから、目的の項目を探した。 | (12) 駅のポスターを見て、新商品のコウコクだと分かった。 |
| (5) 法案は委員会で慎重にシングされた。 | (13) 表に並んだスウジを、単位まで注意して読んだ。 |
| (6) 展示品が見やすいよう、ショウメイの角度を変えた。 | (14) 作業のケイカクを立て、必要な時間を見積もった。 |
| (7) 四人の班で、町の課題についてトウギした。 | (15) 倉庫に残る品のスウリョウを正確に数えた。 |
| (8) 鳥の特徴を、写真入りのズカンで調べた。 | |

B 次の熟語の読みを書きなさい。

- | | | | | |
|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|
| (16) 測定 | (17) 基準 | (18) 標識 | (19) 材料 | (20) 安定 |
| () | () | () | () | () |

七 文章の中で考えよう

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

席を分ける前に

前回、悠人たちは図書室の新しい利用ルールについて話し合った。大きな声での雑談は控えるが、調べものの相談は小声なら可とする。そう決めかけたところで、先生は「本当にその案でよいか、少し調べてから判断しましょう」と言った。

調査の前に、何を測定するかを決めた。利用者の数と滞在時間は計量しやすいが、声の大きさや落ち着きやすさは単純な数量だけでは表しにくい。そこで、共通の基準と三段階の標準を設け、記録する人による差を小さくした。

【一日の観察項目】 利用人数／満席になった時刻／相談の件数／注意が必要だった場面／席を替えたあとの変化

そこで図書委員たちは、一週間だけ図書室の様子を記録することにした。何人くらいが利用しているのか、どの時間帯に声が大きくなるのか、調べものをしている生徒はどれくらいいるのか。悠人は、感じた印象だけで決めるのではなく、数や記録をもとに検討することが大切なのだと気づいた。

真央は、去年の委員会が残した報告書を見つけた。そこには、同じような問題について行った調査の結果が書かれていた。二人は、今年の記録と去年の資料を照合した。すると、声が大きくなるのは昼休みの後半に多く、静かに本を読みたい生徒と、友人と調べものをしたい生徒が同じ机を使っていることが分かった。

委員会では、その結果をもとにもう一度案を審査した。ただ禁止するのではなく、静かに読む席と相談できる席を分けるほうがよいのではないか。悠人はそう提案した。調べて確かめることは、すぐに答えを出すためだけではない。見えていなかった事情を探し、より適切な判断に近づくための過程なのだ。

資料を検索すれば、情報はすぐ見つかる。しかし、図書室のどこで何が起きるかは、場所を歩いて探索しなければ分からなかった。二人は、数字と観察記録を照らし、資料を見極める鑑識眼を持つつもりで、食い違いの理由まで探した。

調べる手順を一定にすると、別の日の記録とも比較できる。悠人は、測ることは人の感じ方を消すためではなく、感じたことをほかの人と検討できる形にするためなのだと考えた。

七 文章の中で考えよう（問い）

本文を根拠にして答えなさい。

(1) 本文中から、「話し合いや調べたことの内容を残しておくこと」という意味で使われている熟語を抜き出ささい。

(2) 「ホウコク」を漢字二字で書きなさい。

(3) 本文中の「照合」の意味として最も近いものを選びなさい。

- ア 相手の気持ちを慰めること。
- イ 人に仕事をまかせること。
- ウ 資料を光から守ること。
- エ 二つ以上のものを比べて、合っている点や違いを確かめること。

(4) 本文中の「感じた印象だけで決めるのではなく、数や記録をもとに検討する」とは、どのようなことか。

- ア なんとなくの印象だけで判断せず、実際の様子を調べた資料をもとに考えるということ。
- イ 自分が最初に思ったことだけを信じて、記録は見ないということ。
- ウ 数字や記録を見れば、理由を考えなくても自動的に正解が出るということ。
- エ 話し合いをせず、すべて先生に決めてもらうということ。

(5) 記録と照合が委員会の案をどのように変えたか、45～55 字で説明しなさい。

(6) 「検討」「基準」の二語を用い、調べて確かめる意義を 70～90 字でまとめなさい。

三 漢字の働きを考えよう

- | | |
|--|--|
| (1) ウ 調べて確かめること | (4) ア 問題や案について、よく調べ考えること。 |
| (2) ア 物事の様子や原因などを、くわしく調べること。 | (5) ウ 必要な情報を、手がかりをもとに探し出すこと。 |
| (3) ウ 内容や出来をよく見て、よいかどうかを判断すること。 | (6) ア 二つ以上のものを比べて、合っているか確かめること。 |

四 熟語を広げよう

- | | |
|--------|---------|
| (1) 検査 | (8) 検索 |
| (2) 調査 | (9) 参照 |
| (3) 審査 | (10) 照合 |
| (4) 検討 | (11) 鑑定 |
| (5) 討論 | (12) 鑑賞 |
| (6) 探求 | (13) 記録 |
| (7) 探索 | (14) 報告 |

使い分けを確かめよう：検査は異常や問題がないかを確かめることに使いやすく、調査は物事の実態や原因をくわしく調べることに使いやすい。

五 似た語を使い分けよう

(1) **イ** 検査は異常や問題がないかを確かめることに使いやすく、調査は物事の実態や原因をくわしく調べることに使いやすい。

例：製品を検査する／原因を調査する

(2) **ウ** 検討は案や問題をよく調べ考えること、討論は意見を出し合って論じることに使いやすい。

(3) **エ** 検索は情報を手がかりで探すことに使いやすく、探索は場所や範囲をたどって探すことに使いやすい。

例：語句を検索する／森を探索する

(4) **ア** 参照は資料などを見て参考にすること、照合は二つ以上のものを比べて合っているか確かめることに使いやすい。

例：資料を参照する／名簿と照合する

(5) **ウ** A＝検査、B＝調査。(1)の使い分けを参照。

(6) **エ** A＝参照、B＝照合。(4)の使い分けを参照。

六 短文で使ってみよう

(1) 点検	(11) 報道
(2) 探検	(12) 広告
(3) 査定	(13) 数字
(4) 索引	(14) 計画
(5) 審議	(15) 数量
(6) 照明	(16) そくてい
(7) 討議	(17) きじゅん
(8) 図鑑	(18) ひょうしき
(9) 録音	(19) ざいりょう
(10) 程度	(20) あんてい

七 文章の中で考えよう

- (1) **記録** 本文中では「記録」と表されている。
- (2) **報告**
- (3) **エ** 二つ以上のものを比べて、合っている点や違いを確かめること。
- (4) **ア** なんとなくの印象だけで判断せず、実際の様子を調べた資料をもとに考えるということ。
- (5) **解答例** (51 字)

声の大きさだけでなく席の使われ方が問題だと分かり、全面禁止ではなく席を分ける案へ考え直すことができた。

見る点：本文中の判断と、その理由を結びつけていること

- (6) **解答例** (76 字)

共通の基準で数や様子を記録し、過去の資料とも照合すれば、印象だけでは見えない事情が分かる。その事実をもとに案を検討することで、理由のある判断へ近づける。

見る点：指定語を用いたこと／本文の具体と結論を結んだこと

第五回

言葉で伝える

事実と意思を、相手に届く形へ言い直す。

今日の中心漢字

伝 陳 申 訴 唱 詠 謡 語

いっしょに覚える漢字

談	誌	謀	詰	誇	謙
謹	講	訟	叫	喚	吟

伝える・語る・訴えるなどの働きを学んだあと、調査結果を相手の受け取り方まで考えて文章にする過程を読みます。

意味の芯 → 熟語 → 使い分け → 短文 → 文章

一 今日の中心漢字の芯

字	主な読み	意味の芯／熟語	字	主な読み	意味の芯／熟語
伝	デン・つたわる	つたえる／受けつぐ 伝える・伝言・伝統・伝達	唱	ショウ・となえる	声に出して言う／となえる 唱える・合唱・暗唱・主唱
陳	チン・ひねる	並べて述べる／古くなる 陳述・陳列・陳情・陳腐	詠	エイ・よむ	詩歌をよむ／歌にする 詠む・詠歌・朗詠・詠嘆
申	シン・もうす	申し上げる／言う 申す・申請・申し出・申告	謡	ヨウ・うたい	うたう／うたいもの 謡う・民謡・童謡・歌謡
訴	ソ・うったえる	うったえる 訴える・訴訟・告訴・哀訴	語	ゴ・かたる	ことば／かたる 語る・言語・物語・語句

二 いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の方向／熟語	字	主な読み	意味の方向／熟語
談	ダン	話し合う 相談・談話・対談	謹	キン・つつしむ	つつしむ 謹む・謹慎・謹賀
誌	シ	書き記したもの 雑誌・日誌・記念誌	講	コウ	説き聞かせる 講義・講演・受講
謀	ボウ・はかる	はかりごとをする 謀る・計謀・参謀	訟	ショウ	うったえ争う 訴訟・争訟
詰	キツ・つめる	つめる／きびしく問う 詰める・質問攻め・追及	叫	キョウ・さけぶ	大声を出す 叫ぶ・絶叫・叫声
誇	コ・ほこる	ほこる／大きく言う 誇る・誇張・誇示	喚	カン・わめく	呼び出す／大声を出す 喚起・召喚・叫喚
謙	ケン・へりくだる	へりくだる 謙虚・謙遜・謙讓	吟	ギン	じっくり味わう／詩歌をうたう 吟味・吟詠・詩吟

三 漢字の働きを考えよう

次の問いに答えなさい。

(1) 「伝」に共通する意味として最も近いものを選びなさい。

- ア ものの表面をきれいに磨くこと
- イ 相手を深くうらむこと
- ウ 問題点を調べて判断すること
- エ 言葉や考え、技術などを相手へ届けたり受けついたりすること

(2) 「陳述」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア 古い道具をきれいに修理すること。
- イ 自分の考えや事実を、順序立てて述べること。
- ウ 歌を声に出してうたうこと。
- エ 相手に仕事をまかせること。

(3) 「申請」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア 相手の意見をすぐに否定すること。
- イ 文章の大まかな内容をまとめること。
- ウ ものが時間とともに悪くなること。
- エ 必要な許可や認めを求めて、正式に申し出ること。

(4) 「訴訟」の意味として最も近いものを選びなさい。

- ア 神仏などに願いをかけること。
- イ 裁判所などにうたえて、争いを解決しようとする事。
- ウ 資料を二つ比べて確かめること。
- エ 詩を静かに味わって読むこと。

(5) 「暗唱」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア 言葉の意味をまちがって理解すること。
- イ 相手のつらさをやわらげること。
- ウ 案をいくつかに分けて選ぶこと。
- エ 文章や詩を覚えて、見ずに声に出して言うこと。

(6) 「物語」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア 数や記録をもとに測定すること。
- イ 人物や出来事などを、言葉で語り伝えるもの。
- ウ 危険を避けるために逃げる事。
- エ 物を棚にきちんと並べる事。

四 熟語を広げよう

次の文に合う熟語を、語群から選んで書きなさい。

【語群】 伝達 伝統 陳述 陳列 申請 申告 訴訟 哀訴 合唱 暗唱 朗詠 民謡 物語 言語

(1) 委員会で決まったことを、各クラスへ正確に
() した。

(8) その手紙には、助けてほしいという () の言葉
が書かれていた。

(2) 祭りには、その町で長く受けつがれてきた ()
が残っている。

(9) 音楽の授業で、全員で同じ曲を () した。

(3) 話し合いでは、自分の考えを落ち着いて () す
ることが求められた。

(10) 短い詩を何度も読んで、見ずに () できるよう
にした。

(4) 資料館には、昔の道具が年代順に () されてい
た。

(11) 式では、代表の生徒が古い詩を静かに () し
た。

(5) 図書室を使うための特別な許可を、先生に ()
した。

(12) 祖母は、その地方に昔から伝わる () を歌って
くれた。

(6) 調査で分かった内容を、決められた用紙に ()
した。

(13) 一枚の写真から、家族の長い () が見えてき
た。

(7) 争いが長引き、ついには () にまで進んだ。

(14) 人は () によって、考えや気持ちを伝え合う。

五 似た語を使い分けよう

それぞれの語の違いとして、最も適切なものを選びなさい。

(1) 「伝える」と「語る」の違いとして最も自然なものを選びなさい。

ア 語るは情報や考えを相手に届けることに使いやすく、伝えるは出来事や思いをまとまりのある言葉として話すことに使いやすい。

イ 伝えるは「経験を物（ ）」だけに、語るは「予定を（ ）」だけに使う。

ウ 「予定を（ ）」と「経験を物（ ）」では、伝えると語るを意味の違いなく入れ替えられる。

エ 伝えるは情報や考えを相手に届けることに使いやすく、語るは出来事や思いをまとまりのある言葉として話すことに使いやすい。

(2) 「申請」と「申告」の違いとして最も自然なものを選びなさい。

ア 申請は許可や認めを求めて申し出ること、申告は決められた内容や事実を届け出ることにより使いやすい。

イ 申告は許可や認めを求めて申し出ること、申請は決められた内容や事実を届け出ることにより使いやすい。

ウ 申請は「所得を（ ）する」だけに、申告は「使用を（ ）する」だけに使う。

エ 「使用を（ ）する」と「所得を（ ）する」では、申請と申告を意味の違いなく入れ替えられる。

(3) 「訴える」と「叫ぶ」の違いとして最も自然なものを選びなさい。

ア 叫ぶは不満や苦しみ、考えなどを相手に強く伝えること、訴えるは大きな声を出すことに使いやすい。

イ 訴えるは不満や苦しみ、考えなどを相手に強く伝えること、叫ぶは大きな声を出すことに使いやすい。

ウ 訴えるは「助けを求めて（ ）」だけに、叫ぶは「改善を（ ）」だけに使う。

エ 「改善を（ ）」と「助けを求めて（ ）」では、訴えると叫ぶを意味の違いなく入れ替えられる。

(4) 「詠む」と「謡う」の違いとして最も自然なものを選びなさい。

ア 謡うは詩歌を作ったり味わって読んだりすることに使いやすく、詠むは節をつけて歌うことや歌として伝わるものに使いやすい。

イ 詠むは「謡曲を（ ）」だけに、謡うは「短歌を（ ）」だけに使う。

ウ 詠むは詩歌を作ったり味わって読んだりすることに使いやすく、謡うは節をつけて歌うことや歌として伝わるものに使いやすい。

エ 「短歌を（ ）」と「謡曲を（ ）」では、詠むと謡うを意味の違いなく入れ替えられる。

(5) A・Bに入る語の組合せとして、最も適切なものを選びなさい。A「予定を（A）」 B「経験を物（B）」

ア A=伝える／B=語る イ A=語る／B=伝える

ウ A=伝える／B=伝える エ A=語る／B=語る

(6) A・Bに入る語の組合せとして、最も適切なものを選びなさい。A「改善を（A）」 B「助けを求めて（B）」

ア A=叫ぶ／B=訴える イ A=訴える／B=叫ぶ

ウ A=訴える／B=訴える エ A=叫ぶ／B=叫ぶ

六 短文で使ってみよう

A カタカナを漢字に直しなさい。

- | | |
|-------------------------------|-------------------------------|
| (1) 帰宅が遅れるというデンゴンを、家族へ頼んだ。 | (9) 規則を破った選手は、一週間のキンシンとなった。 |
| (2) 新しい教育法を最初にシュショウした研究者である。 | (10) 土地の境界をめぐるソウショウが長く続いた。 |
| (3) 住民は騒音対策を求め、市ヘチンジョウした。 | (11) 暗闇から突然声がして、思わずゼッキョウした。 |
| (4) 神前で古いエイカを静かに唱えた。 | (12) 効果をコチョウせず、確認できた事実だけを述べた。 |
| (5) 子どもたちは、季節のドウヨウを声をそろえて歌った。 | (13) 一枚の写真が、環境問題への関心をカンキした。 |
| (6) 被害者は詐欺の疑いで相手をコクソした。 | (14) 図書室で科学のザッシを読み、最新の研究を知った。 |
| (7) 難しいゴクの意味を、前後の文から考えた。 | (15) 卒業生を招き、進路についてのコウエンを開いた。 |
| (8) 首相のダンワが、夕方に発表された。 | |

B 次の熟語の読みを書きなさい。

- | | | | | |
|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| (16) 日誌 | (17) 謀略 | (18) 謙虚 | (19) 講義 | (20) 吟味 |
| () | () | () | () | () |

七 文章の中で考えよう

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

届く言葉に直す

図書室の利用ルールについて調査を終えたあと、悠人たちは、その結果を全校に伝える文章を書くことになった。記録や数値はそろっている。しかし、それをただ並べるだけでは、なぜ新しいルールが必要なのが伝わりにくい。先生は、「調べたことを、相手に届く言葉にするとところまでが大切です」と言った。

委員たちは、調査結果の陳述、変更の申請、利用者への呼びかけを一つの文章へ詰め込みすぎていた。校内誌に載せる報告、講堂で読む原稿、入口に置く掲示では、必要な長さも語調も違う。真央は、誇張せず、謙虚で謹んだ言い方を保ちながら、要点を分けようと提案した。

【伝え方の点検】 事実と意見を分けたか／相手を追い詰める表現はないか／お願いする理由が見えるか／読んだあと何をすればよいか分かるか

最初に悠人が書いた文章は、少し固かった。「昼休み後半に声量の上昇が確認されたため、座席区分の変更を申請する」と書いたところ、真央は首をかしげた。「間違っていないけれど、読む人には少し伝わりにくいかもしれないね。」そこで二人は、調査の結果を説明したあと、「静かに本を読みたい人も、友人と調べものをしたい人も、どちらも使いやすい図書室にしたい」と書き加えた。

その文章には、誰かを非難する言葉は入れなかった。大きな声で話していた生徒を責めるのではなく、図書室の使い方をみんなで考えたいと訴えることにしたのだ。悠人は、同じ内容でも、言葉の選び方によって、命令のようにも、相談のようにも、お願いのようにも聞こえるのだと気づいた。

発表の日、真央は文章を読み上げた。最後に、悠人は「図書室は、物語を読む場所でもあり、自分たちの学校生活を少しずつ作っていく場所でもあります」と語った。言葉で伝えるとは、情報を届けるだけではない。相手にどう受け取ってほしいのかを考えながら、思いを形にすることでもある。

先生は、声に出す言葉にも多くの働きがあると補った。考えを唱える、詩を詠む、謡曲を謡う、句を吟じる、危険を知らせて叫ぶ。叫喚するほどの苦しみを訴える場合もあれば、訴訟のように定められた手続で主張を示す場合もある。

さらに「謀」は、計画をめぐらす意味を持ち、共謀のように悪い計画にも用いられると知った。同じ「伝える」周辺の字でも、場面と目的は異なる。言葉の働きを見分ければ、大声や難しい語に頼らずとも、相手へ届く道を選べる。

七 文章の中で考えよう（問い）

本文を根拠にして答えなさい。

(1) 本文中から、「調べたことなどを相手へ届けること」という意味で使われている熟語を抜き出しなさい。

(2) 「シンセイ」を漢字二字で書きなさい。

(3) 本文中の「訴える」の意味として最も近いものを選びなさい。

- ア 考えや願いを相手に強く伝えること。
- イ 詩を節をつけて歌うこと。
- ウ 資料を年代順に並べること。
- エ 相手に仕事をまかせること。

(4) 本文中の「それをただ並べるだけでは、なぜ新しいルールが必要なのが伝わりにくい」とは、どのようなことか。

- ア 記録や数値を出せば、理由を説明しなくても全員が必ず納得するということ。
- イ 調査結果を示すだけでなく、その結果がどんな意味を持つのかを言葉にする必要があるということ。
- ウ 数字や記録は文章に入れてはいけないということ。
- エ 新しいルールは、説明せずに決めたほうが伝わりやすいということ。

(5) 調査結果を並べるだけでは言葉が届きにくい理由を、45～55 字で説明しなさい。

(6) 「訴える」「謙虚」の二語を用い、相手へ伝えるときの姿勢を 70～90 字でまとめなさい。

三 漢字の働きを考えよう

- | | |
|---|---|
| (1) エ 言葉や考え、技術などを相手へ届けたり受けつ
いだりすること | (4) イ 裁判所などにうたて、争いを解決しようと
すること。 |
| (2) イ 自分の考えや事実を、順序立てて述べること。 | (5) エ 文章や詩を覚えて、見ずに声に出して言うこ
と。 |
| (3) エ 必要な許可や認めを求めて、正式に申し出るこ
と。 | (6) イ 人物や出来事などを、言葉で語り伝えるもの。 |

四 熟語を広げよう

- | | |
|--------|---------|
| (1) 伝達 | (8) 哀訴 |
| (2) 伝統 | (9) 合唱 |
| (3) 陳述 | (10) 暗唱 |
| (4) 陳列 | (11) 朗詠 |
| (5) 申請 | (12) 民謡 |
| (6) 申告 | (13) 物語 |
| (7) 訴訟 | (14) 言語 |

使い分けを確かめよう：伝えるは情報や考えを相手に届けることに使いやすく、語るは出来事や思いをまとまりのある言葉として話すことに使いやすい。

五 似た語を使い分けよう

(1) **エ** 伝えるは情報や考えを相手に届けることに使いやすく、語るは出来事や思いをまとまりのある言葉として話すことに使いやすい。

例：予定を伝える／経験を語る

(2) **ア** 申請は許可や認めを求めて申し出ること、申告は決められた内容や事実を届け出ることにより使いやすい。

例：使用を申請する／所得を申告する

(3) **イ** 訴えるは不満や苦しみ、考えなどを相手に強く伝えること、叫ぶは大きな声を出すことに使いやすい。

例：改善を訴える／助けを求めて叫ぶ

(4) **ウ** 詠むは詩歌を作ったり味わって読んだりすることに使いやすく、謡うは節をつけて歌うことや歌として伝わるものに使いやすい。

例：短歌を詠む／謡曲を謡う

(5) **ア** A=伝える、B=語る。(1)の使い分けを参照。

(6) **イ** A=訴える、B=叫ぶ。(3)の使い分けを参照。

六 短文で使ってみよう

(1) 伝言	(11) 絶叫
(2) 主唱	(12) 誇張
(3) 陳情	(13) 喚起
(4) 詠歌	(14) 雑誌
(5) 童謡	(15) 講演
(6) 告訴	(16) にっし
(7) 語句	(17) ぼうりゃく
(8) 談話	(18) けんきょ
(9) 謹慎	(19) こうぎ
(10) 争訟	(20) ぎんみ

七 文章の中で考えよう

- (1) **伝える** 本文中では「伝える」と表されている。
- (2) **申請**
- (3) **ア** 考えや願いを相手に強く伝えること。
- (4) **イ** 調査結果を示すだけでなく、その結果がどんな意味を持つのかを言葉にする必要があるということ。
- (5) **解答例** (51 字)

数値や記録の意味と、なぜ変更が必要かを示さなければ、読み手は自分に関わる提案として受け取りにくいから。

見る点：本文中の判断と、その理由を結びつけていること

- (6) **解答例** (75 字)

考えを訴えるときは、事実と意見を分け、相手を責める言い方を避ける。自分の案にも限界があると謙虚に認め、読んだ人が理由と次の行動を理解できる表現を選ぶ。

見る点：指定語を用いたこと／本文の具体と結論を結んだこと

第六回

変化と改まり

新旧を単純に分けず、変えたあとの働きまで確かめる。

今日の中心漢字

増 減 盛 衰 拡 縮 改 革

いっしょに覚える漢字

化	旧	新	長	短	広
狭	遅	速	降	換	枯

増加と拡大、改善と改革などを使い分けたあと、変化の結果を確かめ、残すものと改めるものを考える文章を読みます。

意味の芯 → 熟語 → 使い分け → 短文 → 文章

一 今日の中心漢字の芯

字	主な読み	意味の芯／熟語	字	主な読み	意味の芯／熟語
増	ゾウ・ます	ふえる／ふやす 増える・増加・増減・増幅	拡	カク・ひろがる	ひろげる 拡大・拡張・拡散
減	ゲン・へる	へる／へらす 減る・減少・削減・軽減	縮	シュク・ちぢむ	ちぢむ／小さくする 縮む・縮小・短縮・収縮
盛	セイ・もる	さかんになる／高くもる 盛る・盛大・盛況・全盛	改	カイ・あらためる	あらためる／よく直す 改める・改善・改正・改良
衰	スイ・おとろえる	おとろえる／弱くなる 衰える・衰退・衰弱・盛衰	革	カク・かわ	大きくあらためる 革・改革・革新・変革

二 いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の方向／熟語	字	主な読み	意味の方向／熟語
化	カ・ばける	変わる 変化・文化・悪化	狭	キョウ・せまい	せまい 狭い・狭小・広狭
旧	キュウ・ふるい	古い／以前の 旧式・旧友・新旧	遅	チ・おくれる	おそい 遅い・遅刻・遅延
新	シン・あたらしい	あたらしい 新しい・新年・新旧	速	ソク・はやい	はやい 速い・速度・迅速
長	チョウ・ながい	ながい／すぐれた点 長い・長所・成長	降	コウ・おりる	下がる／おりる 降る・下降・降下
短	タン・みじかい	みじかい／足りない点 短い・短所・短縮	換	カン・かえる	入れかえる 換える・交換・変換
広	コウ・ひろい	ひろい 広い・広大・広報	枯	コ・かれる	かれる／力がなくなる 枯れる・枯木・枯渇

三 漢字の働きを考えよう

次の問いに答えなさい。

(1) 「増」に共通する意味として最も近いものを選びなさい。

- ア 物の数や量がふえること
- イ 物の数や量がへること
- ウ 古いものを隠しておくこと
- エ 相手に願いを伝えること

(2) 「減少」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア 物事がさかんになること。
- イ 考えを声に出して唱えること。
- ウ 数や量が少なくなること。
- エ 内容をくわしく調べること。

(3) 「盛衰」の意味として最も近いものを選びなさい。

- ア 物事がさかんになることと、おとろえること。
- イ 新しいものと古いものの違い。
- ウ 文章を短くまとめること。
- エ 相手の気持ちを慰めること。

(4) 「拡大」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア 小さく折りたたんでしまうこと。
- イ 時間がたって力が弱くなること。
- ウ ものごとの範囲や規模を広げること。
- エ 人の名前を出さずに書くこと。

(5) 「縮小」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア 規模や大きさを小さくすること。
- イ 悪いところをよい状態に直すこと。
- ウ 多くの人に知らせて伝えること。
- エ 心が目標へ向かうこと。

(6) 「改革」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア 資料を年代順に並べること。
- イ 相手に仕事をまかせること。
- ウ 決まっている仕組みや制度を、大きく改めること。
- エ 声を合わせて歌うこと。

四 熟語を広げよう

次の文に合う熟語を、語群から選んで書きなさい。

【語群】 増加 減少 盛況 衰退 拡大 縮小 改善 改正 改革 変革 新旧 長短 広狭 交換

(1) 図書室の利用者数は、新しいルールを知らせてから少しずつ () した。

(8) 古くなった校則の一部を、今の学校生活に合わせて () した。

(2) 昼休みの大きな話し声は、席を分けたことで () した。

(9) 学校全体の仕組みを見直すような大きな () は、時間をかけて進める必要がある。

(3) 読書会には多くの生徒が集まり、会場は () だった。

(10) 生活や考え方を大きく変える出来事を、社会の () と呼ぶことがある。

(4) 町の商店街は、駅前に大きな店ができてから少しずつ () していった。

(11) 資料室には、 () の新聞が並べて置かれていた。

(5) 活動が続けるうちに、図書委員会の取り組みは学校全体へ () した。

(12) 二つの案の () を比べると、それぞれに良い点と足りない点があった。

(6) 人数が少ない日は、使う席の範囲を () することにした。

(13) 教室の () によって、机の並べ方を変える必要がある。

(7) 話し合いで出た意見をもとに、利用ルールを () した。

(14) 古くなった掲示を、新しいものと () した。

五 似た語を使い分けよう

それぞれの語の違いとして、最も適切なものを選びなさい。

(1) 「増加」と「拡大」の違いとして最も自然なものを選びなさい。

- ア 拡大は数や量がふえること、増加は範囲や規模が広がることに使いやすい。
- イ 増加は数や量がふえること、拡大は範囲や規模が広がることに使いやすい。
- ウ 増加は「区域を（ ）する」だけに、拡大は「人数が（ ）する」だけに使う。
- エ 「人数が（ ）する」と「区域を（ ）する」では、増加と拡大を意味の違いなく入れ替えられる。

(2) 「減少」と「縮小」の違いとして最も自然なものを選びなさい。

- ア 縮小は数や量が少なくなること、減少は範囲や規模を小さくすることに使いやすい。
- イ 減少は「規模を（ ）する」だけに、縮小は「売上が（ ）する」だけに使う。
- ウ 減少は数や量が少なくなること、縮小は範囲や規模を小さくすることに使いやすい。
- エ 「売上が（ ）する」と「規模を（ ）する」では、減少と縮小を意味の違いなく入れ替えられる。

(3) 「改善」と「改革」の違いとして最も自然なものを選びなさい。

- ア 改革は悪い点や不便な点をよく直すこと、改善は仕組みや制度を大きく改めることに使いやすい。
- イ 改善は「制度を（ ）する」だけに、改革は「表示を（ ）する」だけに使う。
- ウ 「表示を（ ）する」と「制度を（ ）する」では、改善と改革を意味の違いなく入れ替えられる。
- エ 改善は悪い点や不便な点をよく直すこと、改革は仕組みや制度を大きく改めることに使いやすい。

(4) 「衰える」と「枯れる」の違いとして最も自然なものを選びなさい。

- ア 衰えるは力や勢いが弱くなること、枯れるは植物が水分を失ったり、資源や才能などが尽きたりすることに使いやすい。
- イ 枯れるは力や勢いが弱くなること、衰えるは植物が水分を失ったり、資源や才能などが尽きたりすることに使いやすい。
- ウ 衰えると枯れるは意味の違いがなく、どの文でもそのまま入れ替えられる。
- エ 衰えるは枯れるの改まった言い方にすぎず、指す内容や使う場面は同じである。

(5) A・Bに入る語の組合せとして、最も適切なものを選びなさい。A「表示を（A）する」 B「制度を（B）する」

- ア A＝改革／B＝改善 イ A＝改善／B＝改善
- ウ A＝改善／B＝改革 エ A＝改革／B＝改革

(6) A・Bに入る語の組合せとして、最も適切なものを選びなさい。A「売上が（A）する」 B「規模を（B）する」

- ア A＝縮小／B＝減少 イ A＝減少／B＝減少
- ウ A＝縮小／B＝縮小 エ A＝減少／B＝縮小

六 短文で使ってみよう

A カタカナを漢字に直しなさい。

- | | |
|-----------------------------|------------------------------|
| (1) 気温のゾウゲンを、折れ線グラフに表した。 | (9) 敷地がキョウショウなので、建物を縦に伸ばした。 |
| (2) 利用者が増えたため、図書室をカクチョウした。 | (10) シンネンの朝、家族で近くの神社へ参った。 |
| (3) 荷物を分けて持ち、一人の負担をケイゲンした。 | (11) 車のソクドを落とし、横断歩道の前で止まった。 |
| (4) 説明の重複を省き、発表時間をタンシュクした。 | (12) 相手の話をよく聞けることが、彼のチョウショだ。 |
| (5) 創立記念の式典が、セイダイに行われた。 | (13) 自分のタンショを知れば、補う方法も考えられる。 |
| (6) 使いにくい取っ手をカイリョウし、形も見直した。 | (14) 草原の向こうにコウダイな空が広がっていた。 |
| (7) 暑さで体がスイジャクし、病院へ運ばれた。 | (15) 冬のカレキにも、小さな鳥が羽を休めていた。 |
| (8) 新技術の導入が、産業にカクシンをもたらした。 | |

B 次の熟語の読みを書きなさい。

- | | | | | |
|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| (16) 悪化 | (17) 旧式 | (18) 遅延 | (19) 下降 | (20) 変換 |
| () | () | () | () | () |

七 文章の中で考えよう

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

変えたあとを測る

図書委員会が新しい利用ルールを伝えてから、二週間がたった。悠人たちは、もう一度、図書室の様子を調べることにした。昼休みの利用者は以前より少し増加していたが、大きな声での雑談は減少していた。静かに読む席と相談できる席を分けたことで、どちらの生徒も使いやすくなったようだった。

【変更前後の記録】利用者数は増加／注意の回数は減少／相談席の範囲は拡大／静読席の面積は維持／掲示を大判へ交換

数字だけを見ると成功に見えたが、先生は変化の速度にも目を向けさせた。急速に広げれば混乱が起こり、遅すぎれば不便が長引く。長所と短所、広い席と狭い通路を一緒に確かめると、増減だけでは見えない関係が分かった。

しかし、問題がすべてなくなったわけではない。相談できる席が少なく、調べものをする生徒が増えると、すぐに場所が足りなくなる。また、掲示の文字が小さく、遠くからは読みづらいという意見もあった。真央は、「これは失敗ではなく、改善するための材料だと思う」と言った。

委員会では、利用できる机の範囲を少し拡大し、掲示を大きなものに交換することにした。一方で、静かに読む席まで広げすぎると、かえって落ち着ける場所が縮小してしまう。そこで、席の広さや数を見ながら、少しずつ調整することになった。

悠人は、変化には二つの面があると思った。ただ新しくすればよいわけではない。古い決まりにも、守るべき理由があることがある。けれど、今の状況に合わなくなった部分は改める必要がある。大切なのは、旧いものをすべて否定することでも、新しいものを何でも受け入れることでもない。何を残し、何を変えるかを考えながら、少しずつよい形へ近づけていくことなのだ。

町の商店街にも、店が栄える時期と衰える時期がある。古い看板を新しく換えても、来る人が減る理由を考えなければ盛衰は変わらない。図書室の改革も同じで、見た目を一新するだけでは十分ではなかった。

植物は気温が低下し水が足りなければ枯れるが、決まりは古いというだけで役目を失うわけではない。悠人は、変化をよい悪いで急いで分けず、何が残り、何が働かなくなったかを確かめることが改まりの出発点だと考えた。

七 文章の中で考えよう（問い）

本文を根拠にして答えなさい。

(1) 本文中から、「数や量がふえること」という意味で使われている熟語を抜き出さない。

(2) 「カイゼン」を漢字二字で書きなさい。

(3) 本文中の「縮小」の意味として最も近いものを選びなさい。

ア 数や量がふえること。

イ 範囲や規模が小さくなること。

ウ 相手に仕事をまかせること。

エ 詩を声に出して読むこと。

(4) 本文中の「これは失敗ではなく、改善するための材料だと思う」とは、どのようなことか。

ア 問題点が見つかったので、もう図書室の活動はやめるべきだということ。

イ 問題点を見つけても、何も変えずに隠しておけばよいということ。

ウ 問題点は、よりよい形に直していくための手がかりになるということ。

エ 意見が出たら、すべての古い決まりをすぐに捨てるべきだということ。

(5) 本文が、変化を単純に新旧だけで判断していない理由を、45～55 字で説明しなさい。

(6) 「増加」「拡大」「縮小」の三語を用い、図書室の改善を 70～90 字で説明しなさい。

三 漢字の働きを考えよう

- | | |
|------------------------------------|--------------------------------------|
| (1) ア 物の数や量がふえること | (4) ウ ものごとの範囲や規模を広げること。 |
| (2) ウ 数や量が少なくなること。 | (5) ア 規模や大きさを小さくすること。 |
| (3) ア 物事がさかんになることと、おとろえること。 | (6) ウ 決まっている仕組みや制度を、大きく改めること。 |

四 熟語を広げよう

- | | |
|--------|---------|
| (1) 増加 | (8) 改正 |
| (2) 減少 | (9) 改革 |
| (3) 盛況 | (10) 変革 |
| (4) 衰退 | (11) 新旧 |
| (5) 拡大 | (12) 長短 |
| (6) 縮小 | (13) 広狭 |
| (7) 改善 | (14) 交換 |

使い分けを確かめよう：増加は数や量がふえること、拡大は範囲や規模が広がることに使いやすい。

五 似た語を使い分けよう

(1) **イ** 増加は数や量がふえること、拡大は範囲や規模が広がることに使いやすい。

例：人数が増加する／区域を拡大する

(2) **ウ** 減少は数や量が少なくなること、縮小は範囲や規模を小さくすることに使いやすい。

例：売上が減少する／規模を縮小する

(3) **エ** 改善は悪い点や不便な点をよく直すこと、改革は仕組みや制度を大きく改めることに使いやすい。

例：表示を改善する／制度を改革する

(4) **ア** 衰えるは力や勢いが弱くなること、枯れるは植物が水分を失ったり、資源や才能などが尽きたりすることに使いやすい。

(5) **ウ** A＝改善、B＝改革。(3)の使い分けを参照。

(6) **エ** A＝減少、B＝縮小。(2)の使い分けを参照。

六 短文で使ってみよう

(1) 増減	(11) 速度
(2) 拡張	(12) 長所
(3) 軽減	(13) 短所
(4) 短縮	(14) 広大
(5) 盛大	(15) 枯木
(6) 改良	(16) あっか
(7) 衰弱	(17) きゅうしき
(8) 革新	(18) ちえん
(9) 狭小	(19) かこう
(10) 新年	(20) へんかん

七 文章の中で考えよう

- (1) **増加** 本文中では「増加」と表されている。
- (2) **改善**
- (3) **イ** 範囲や規模が小さくなること。
- (4) **ウ** 問題点は、よりよい形に直していくための手がかりになるということ。
- (5) **解答例** (51 字)

古い決まりにも守る理由があり、新しい方法にも不便が生じるため、実際の働きを確かめて選ぶ必要があるから。

見る点：本文中の判断と、その理由を結びつけていること

- (6) **解答例** (82 字)

利用者の増加に合わせて相談席を拡大しても、静読席まで縮小すれば別の不便が生じる。数と範囲を分けて記録し、変えたあとの影響を確かめながら調整することが改善につながる。

見る点：指定語を用いたこと／本文の具体と結論を結んだこと

第七回

進む・導く

目的地へ連れるだけでなく、自分で動けるよう支える。

今日の中心漢字

導 誘 迎 迫 到 越 遣 赴

いっしょに覚える漢字

運	送	追	戻	返	通
往	復	輸	航	巡	渡

導く・誘う・迎える・送るなどの違いを確かめたあと、相手の目的を見ながら道を示すことについて考えます。

意味の芯 → 熟語 → 使い分け → 短文 → 文章

一 今日の中心漢字の芯

字	主な読み	意味の芯／熟語	字	主な読み	意味の芯／熟語
導	ドウ・みちびく	みちびく／進む方向を示す 導く・指導・誘導・導入	到	トウ・いたる	いたる／目的地に着く 到着・到達・到来・周到
誘	ユウ・さそう	さそう／ある方向へ引き入れる 誘う・誘導・勧誘・誘惑	越	エツ・こす	こえる／向こう側へ行く 越える・越境・超越・引越し
迎	ゲイ・むかえる	むかえる 迎える・歓迎・送迎・迎合	遣	ケン・つかう	つかわす／行かせる／気を配る 派遣・遣う・気遣い・使者派遣
迫	ハク・せまる	せまる／近づいてくる 迫る・接近・緊迫・迫力	赴	フ・おもむく	おもむく／ある場所へ向かう 赴く・赴任・赴援

二 いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の方向／熟語	字	主な読み	意味の方向／熟語
運	ウン・はこぶ	はこぶ／動く 運ぶ・運動・運命	往	オウ・いく	行く 往復・往来・往年
送	ソウ・おくる	おくる 送る・送信・送迎	復	フク・また	もどる／くり返す 復習・往復・回復
追	ツイ・おう	あとを追う 追う・追跡・追求	輸	ユ	はこぶ 輸送・輸入・輸出
戻	レイ・もどす	もどる 戻る・返戻・差し戻し	航	コウ	船や飛行機で進む 航海・航空・航路
返	ヘン・かえす	かえす 返す・返却・返信	巡	ジュン・めぐる	まわる 巡る・巡回・一巡
通	ツウ・とおる	とおる／かよう 通る・通学・交通	渡	ト・わたる	わたる／受け渡す 渡る・横断・譲渡

三 漢字の働きを考えよう

次の問いに答えなさい。

(1) 「導」に共通する意味として最も近いものを選びなさい。

- ア 相手を深くうらむこと
- イ 進む方向を示し、みちびくこと
- ウ 数や量が少なくなること
- エ ものを年代ごとに並べること

(2) 「誘導」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア 相手の願いを正式に受け入れること。
- イ 資料を光から守ること。
- ウ ものが古くなって状態が悪くなること。
- エ 人や物を、決まった方向へみちびくこと。

(3) 「歓迎」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア 相手を強く非難すること。
- イ 来た人を喜んでむかえること。
- ウ ある考えをそうではないとすること。
- エ 問題の原因をくわしく調べること。

(4) 「緊迫」の意味として最も近いものを選びなさい。

- ア 気持ちや状況がゆるみ、安心しきっていること。
- イ 昔の歌を声に出して読むこと。
- ウ 道具を別のものと交換すること。
- エ 期限や危険などが近づき、張りつめた状態になること。

(5) 「到達」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア 自分の意見を順序立てて述べること。
- イ 目標や目的地にたどり着くこと。
- ウ 人に仕事をまかせること。
- エ 水がにごること。

(6) 「派遣」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア 文章の大まかな内容をまとめること。
- イ 強い悲しみを感ずること。
- ウ 相手の言葉をまちがって理解すること。
- エ 必要な場所へ人を行かせること。

四 熟語を広げよう

次の文に合う熟語を、語群から選んで書きなさい。

【語群】 指導 誘導 導入 勧誘 歓迎 送迎 緊迫 迫力 到着 到達 越境 派遣 気遣い 赴任

(1) 先生は、発表の仕方について生徒たちをていねいに () した。

(8) その絵には、近くで見ると強い () があった。

(2) 混雑を防ぐため、係の人が来場者を出口まで () した。

(9) 電車が遅れたため、予定より十分おくれて会場に () した。

(3) 授業のはじめに短い話を入れて、今日の内容を自然に () した。

(10) 何度も練習した結果、ようやく目標の点数に () した。

(4) 部活動に入ってもらうため、先輩が一年生を () した。

(11) 山を越えて県の外へ出ることを、文章では () と表すことがある。

(5) 交流会では、他校から来た生徒を全員で () した。

(12) 市の図書館から、説明のために職員が学校へ () された。

(6) 駅から会場まで、先生が参加者を () することになった。

(13) 相手の立場を考える () が、よい案内文には必要だ。

(7) 発表の時間が近づき、教室には少し () した空気が流れた。

(14) 父は春から別の町の支店へ () することになった。

五 似た語を使い分けよう

それぞれの語の違いとして、最も適切なものを選びなさい。

(1) 「導く」と「誘う」の違いとして最も自然なものを選びなさい。

ア 誘うは進む方向や考え方を示してみちびくこと、導くは相手に来たり行動したりするよう働きかけることに使いやすい。

イ 導くは「友人を映画に（ ）」だけに、誘うは「生徒を（ ）」だけに使う。

ウ 「生徒を（ ）」と「友人を映画に（ ）」では、導くと誘うを意味の違いなく入れ替えられる。

エ 導くは進む方向や考え方を示してみちびくこと、誘うは相手に来たり行動したりするよう働きかけることに使いやすい。

(2) 「迎える」と「送る」の違いとして最も自然なものを選びなさい。

ア 迎えるは来る人や時を受け入れること、送るは人や物を相手や目的地へ行かせることに使いやすい。

イ 送るは来る人や時を受け入れること、迎えるは人や物を相手や目的地へ行かせることに使いやすい。

ウ 迎えるは「荷物を（ ）」だけに、送るは「客を（ ）」だけに使う。

エ 「客を（ ）」と「荷物を（ ）」では、迎えると送るを意味の違いなく入れ替えられる。

(3) 「迫る」と「近づく」の違いとして最も自然なものを選びなさい。

ア 近づくは期限・危険・強い力などが近づいてくる感じを表しやすく、迫るは距離や時間が近くなることを広く表す。

イ 迫るは期限・危険・強い力などが近づいてくる感じを表しやすく、近づくは距離や時間が近くなることを広く表す。

ウ 迫ると近づくは意味の違いがなく、どの文でもそのまま入れ替えられる。

エ 迫るは近づくの改まった言い方にすぎず、指す内容や使う場面は同じである。

(4) 「到着」と「到達」の違いとして最も自然なものを選びなさい。

ア 到達は場所に着くこと、到着は目標や段階にたどり着くことにも使いやすい。

イ 到着は「目標へ（ ）する」だけに、到達は「駅に（ ）する」だけに使う。

ウ 到着は場所に着くこと、到達は目標や段階にたどり着くことにも使いやすい。

エ 「駅に（ ）する」と「目標へ（ ）する」では、到着と到達を意味の違いなく入れ替えられる。

(5) A・Bに入る語の組合せとして、最も適切なものを選びなさい。A「生徒を（A）」 B「友人を映画に（B）」

ア A=導く／B=誘う イ A=誘う／B=導く

ウ A=導く／B=導く エ A=誘う／B=誘う

(6) A・Bに入る語の組合せとして、最も適切なものを選びなさい。A「駅に（A）する」 B「目標へ（B）する」

ア A=到達／B=到着 イ A=到着／B=到達

ウ A=到着／B=到着 エ A=到達／B=到達

六 短文で使ってみよう

A カタカナを漢字に直しなさい。

- | | |
|---------------------------------|------------------------------|
| (1) 待ち望んだ春のトウライを、梅の花が知らせた。 | (9) 必要書類に不備があり、申請書がヘンレイされた。 |
| (2) 甘い言葉のユウワクに負けず、断ることができた。 | (10) 展示室をイチジュンすると、時代の流れが分かる。 |
| (3) 作品は時代や地域をチョウエツして読み継がれている。 | (11) 所有する土地を市ヘジョウトする契約を結んだ。 |
| (4) 周囲の意見へ安易にゲイゴウせず、自分で考えた。 | (12) 駅前の道は、人や車のオウライが絶えない。 |
| (5) 人生の出来事を、変えがたいウンメイと受け止めた。 | (13) 国内で作れない原料を海外からユニユウする。 |
| (6) 端末から写真を添えてメールをソウシンした。 | (14) 船は長いコウカイを終え、港へ戻った。 |
| (7) 授業後にノートを見直し、その日の内容をフクシュウした。 | (15) 質問へのヘンシンは、三日以内をお願いします。 |
| (8) 研究者は発信源をツイセキシ、経路を確かめた。 | |

B 次の熟語の読みを書きなさい。

- | | | | | |
|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|
| (16) 往復 | (17) 輸送 | (18) 航空 | (19) 返却 | (20) 通学 |
| () | () | () | () | () |

七 文章の中で考えよう

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

自分で歩き出せる案内

図書室の利用ルールが少しずつ整ってきたころ、学校では一年生向けの図書室案内を行うことになった。先生は、図書委員に「ただ場所を説明するだけでなく、一年生が安心して使えるように導いてください」と言った。悠人たちは、入口から本棚、静かに読む席、相談できる席まで、どの順番で回るかを考えた。

案内までの日が迫ると、委員会は往路と復路が重ならない順路を作った。通路の幅を測り、階段を越える場所には補助役を配置する。先生は、玄関へ二人を派遣し、到着した班を迎えて図書室へ送る役を任せた。

【案内の巡回路】 玄関で迎える→掲示を読む→本棚を巡る→閲覧席へ赴く→返却台を通る→入口へ戻る

当日、図書室の前には少し緊張した一年生たちが集まっていた。真央は「ようこそ」と笑顔で迎え、悠人は「まずは入口の掲示から見ていきましょう」と声をかけた。大勢が一度に動くとは混乱するので、委員たちは小さな班に分けて誘導した。案内の途中で、返却する本をどこへ置けばよいのか、質問する生徒もいた。

途中、一人の生徒が列から離れ、奥の本棚へ向かおうとした。悠人はあわてて止めそうになったが、その生徒が地図の本を探していることに気づいた。そこで、ただ「戻って」と言うのではなく、「あとでその棚にも行くから、今は順番に見てみよう」と伝えた。人を導くには、相手の動きを押さえつけるだけでなく、その人がどこへ向かおうとしているのかを見ることも必要なのだと思った。

案内が終わるころには、一年生たちの表情も少しやわらいでいた。図書室に到着することと、図書室を使えるようになることは同じではない。ただ目的地へ連れていくだけでなく、そこから自分で動き出せるようにすること。それが、本当の意味で導くことなのかもしれない。

地図の本を探していた一年生は、案内後に自分で棚へ戻り、海を渡る船の航路を見つけた。そこには、人の移動だけでなく、物資の運送や輸送、川を渡航する方法まで描かれていた。進むという一語の中にも、多くの経路がある。

悠人は、列を追い立てるのではなく、遅れた人の目的を聞いて導けたかを振り返った。目的地への到達は案内の終わりではない。自分で調べ、迷ったら道を尋ね、また戻れることまで含めて、場所を使えるようになるのだ。

七 文章の中で考えよう（問い）

本文を根拠にして答えなさい。

(1) 本文中から、「進む方向を示し、みちびくこと」という意味で使われている語を抜き出しなさい。

(2) 「ユウドウ」を漢字二字で書きなさい。

(3) 本文中の「迎え」の意味として最も近いものを選びなさい。

ア 相手を強く非難すること。

イ 道具を新しいものと交換すること。

ウ 来た人を受け入れること。

エ 資料を詳しく調査すること。

(4) 本文中の「ただ『戻って』と言うのではなく」とは、どのようなことか。

ア 生徒が列を離れたら、何も言わずに放っておくということ。

イ 図書室の案内では、順番をまったく決めないほうがよいということ。

ウ 質問した生徒を強く責める必要があるということ。

エ 生徒の行動を理由も聞かずに止めるのではなく、何をしようとしているのかを見て声をかけるということ。

(5) 目的地へ連れていくことと、人を導くことの違いを 45～55 字で説明しなさい。

(6) 「往復」「到達」の二語を用い、よい案内に必要なことを 70～90 字でまとめなさい。

三 漢字の働きを考えよう

- | | |
|----------------------------------|--|
| (1) イ 進む方向を示し、みちびくこと | (4) エ 期限や危険などが近づき、張りつめた状態になること。 |
| (2) エ 人や物を、決まった方向へみちびくこと。 | (5) イ 目標や目的地にたどり着くこと。 |
| (3) イ 来た人を喜んでむかえること。 | (6) エ 必要な場所へ人を行かせること。 |

四 熟語を広げよう

- | | |
|--------|----------|
| (1) 指導 | (8) 迫力 |
| (2) 誘導 | (9) 到着 |
| (3) 導入 | (10) 到達 |
| (4) 勧誘 | (11) 越境 |
| (5) 歓迎 | (12) 派遣 |
| (6) 送迎 | (13) 気遣い |
| (7) 緊迫 | (14) 赴任 |

使い分けを確かめよう：導くは進む方向や考え方を示してみちびくこと、誘うは相手に来たり行動したりするよう働きかけることに使いやすい。

五 似た語を使い分けよう

(1) **エ** 導くは進む方向や考え方を示してみちびくこと、誘うは相手に来たり行動したりするよう働きかけることに使いやすい。

例：生徒を導く／友人を映画に誘う

(2) **ア** 迎えるは来る人や時を受け入れること、送るは人や物を相手や目的地へ行かせることに使いやすい。

例：客を迎える／荷物を送る

(3) **イ** 迫るは期限・危険・強い力などが近づいてくる感じを表しやすく、近づくは距離や時間が近くなることを広く表す。

(4) **ウ** 到着は場所に着くこと、到達は目標や段階にたどり着くことにも使いやすい。

例：駅に到着する／目標へ到達する

(5) **ア** A＝導く、B＝誘う。(1)の使い分けを参照。

(6) **イ** A＝到着、B＝到達。(4)の使い分けを参照。

六 短文で使ってみよう

(1) 到来	(11) 譲渡
(2) 誘惑	(12) 往来
(3) 超越	(13) 輸入
(4) 迎合	(14) 航海
(5) 運命	(15) 返信
(6) 送信	(16) おうふく
(7) 復習	(17) ゆそう
(8) 追跡	(18) こうくう
(9) 返戻	(19) へんきやく
(10) 一巡	(20) つうがく

七 文章の中で考えよう

(1) **導く** 本文中では「導く」と表されている。

(2) **誘導**

(3) **ウ** 来た人を受け入れること。

(4) **エ** 生徒の行動を理由も聞かずに止めるのではなく、何をしようとしているのかを見て声をかけるということ。

(5) **解答例** (51 字)

導くとは場所へ連れるだけでなく、相手の目的を理解し、到着後に自分で選び動けるよう道筋を示すことである。

見る点：本文中の判断と、その理由を結びつけていること

(6) **解答例** (82 字)

よい案内には、目的地へ到達する往路だけでなく、迷ったときに戻れる復路や質問できる場所も必要である。相手が次から自分で往復できるよう支えることが、導くことにつながる。

見る点：指定語を用いたこと／本文の具体と結論を結んだこと

第八回

受ける・与える

物の移動だけでなく、思いと責任の受け渡しを見る。

今日の中心漢字

授 受 賜 供 給 貸 借 預

いっしょに覚える漢字

配	贈	貢	献	奉	納
収	益	損	得	負	担

貸す・借りる・預かる・贈るなどを使い分けたあと、人から受けたものをどう扱い、次へ渡すかを考える文章を読みます。

意味の芯 → 熟語 → 使い分け → 短文 → 文章

一 今日の中心漢字の芯

字	主な読み	意味の芯／熟語	字	主な読み	意味の芯／熟語
授	ジュ・さずける	さずける／教え与える 授ける・授業・授与・教授	給	キュウ・たまう	必要なものを与える 給食・支給・補給・給与
受	ジュ・うける	うける／受け取る 受ける・受信・受験・受賞	貸	タイ・かす	かす 貸す・貸出・賃貸・貸与
賜	シ・たまわる	目上の人などからいただく／たまわる 賜る・恩賜・下賜・賜物	借	シャク・かりる	かりる 借りる・借用・借金・借家
供	キョウ・そなえる	そなえる／差し出す 供える・供給・提供・供述	預	ヨ・あずける	あずける／あずかる 預ける・預金・預託・保管預かり

二 いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の方向／熟語	字	主な読み	意味の方向／熟語
配	ハイ・くばる	くばる／置き分ける 配る・配布・配置	収	シュウ・おさめる	おさめる／集める 収める・収集・収益
贈	ゾウ・おくる	おくる 贈る・贈与・寄贈	益	エキ・ます	役に立つ／もうけ 利益・収益・有益
貢	コウ・みつぐ	ささげる／役立つ 貢ぐ・貢献・年貢	損	ソン・そこなう	失う／不利益 損・損失・破損
献	ケン・たてまつる	ささげる 献げる・貢献・献身	得	トク・える	手に入れる 得る・所得・損得
奉	ホウ・たてまつる	つつしんでささげる 奉仕・奉納・奉公	負	フ・まける	背負う／受け持つ 負う・負担・勝負
納	ノウ・おさめる	おさめる／入れる 納める・納入・収納	担	タン・かつぐ	受け持つ 担う・担当・負担

三 漢字の働きを考えよう

次の問いに答えなさい。

(1) 「授」に共通する意味として最も近いものを選びなさい。

- ア 相手から物を借りること
- イ ものを小さくすること
- ウ 教えや役目などを与えること
- エ 人を強く責めること

(2) 「受賞」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア 賞を受け取ること。
- イ 賞を他人に貸すこと。
- ウ 賞をなくして損をすること。
- エ 賞の意味を否定すること。

(3) 「賜物」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア 自然に減っていくもの。
- イ 人に返す必要のある借金。
- ウ 努力や助けなどのおかげで得られたもの。
- エ 物を配るための場所。

(4) 「提供」の意味として最も近いものを選びなさい。

- ア 必要なものや情報を差し出して使えるようにすること。
- イ 相手の意見をすぐに拒否すること。
- ウ 道に迷って進めなくなること。
- エ 人の名前を出さずに書くこと。

(5) 「貸与」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア 何かを受け取らずに断ること。
- イ 物を永久に捨ててしまうこと。
- ウ 返してもらうことを前提に、物を貸し与えること。
- エ 相手の苦しみを慰めること。

(6) 「預託」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア 大切なものを相手にあずけること。
- イ 資料を年代ごとに分類すること。
- ウ 強い声で意見を訴えること。
- エ 数や量が少なくなること。

四 熟語を広げよう

次の文に合う熟語を、語群から選んで書きなさい。

【語群】 授業 授与 受信 受賞 賜物 提供 供給 支給 補給 貸出 貸与 借用 預金 預託

(1) 先生の () では、言葉の使い分けをくわしく学んだ。

(8) 学校から、発表に必要な用紙が全員に () された。

(2) 大会の最後に、代表の生徒へ賞状が () された。

(9) 運動の途中で水分を () する。

(3) 災害時には、正しい情報を () することが大切だ。

(10) 図書室では、一人三冊まで本の () ができる。

(4) 読書感想文の発表で、真央は学校の賞を () した。

(11) 学校のタブレットは、授業のために生徒へ () される。

(5) 今の成果は、一人の力だけでなく多くの人の助けの () である。

(12) 友人から地図を一日だけ () した。

(6) 図書委員は、一年生に本の探し方を () した。

(13) 毎月少しずつ銀行に () している。

(7) 水や食料を安定して () する仕組みを考える。

(14) 大切な資料を、専門の施設へ () することになった。

五 似た語を使い分けよう

それぞれの語の違いとして、最も適切なものを選びなさい。

(1) 「授ける」と「与える」の違いとして最も自然なものを選びなさい。

- ア 与えるは知識・役目・賞などを改まった形で与える場合に使いやすく、授けるは物や影響などを広く相手にもたらし場合に使いやすい。
- イ 授けるは知識・役目・賞などを改まった形で与える場合に使いやすく、与えるは物や影響などを広く相手にもたらし場合に使いやすい。
- ウ 授けるは「影響を（ ）」だけに、与えるは「知恵を（ ）」だけに使う。
- エ 「知恵を（ ）」と「影響を（ ）」では、授けると与えるを意味の違いなく入れ替えられる。

(2) 「提供」と「供給」の違いとして最も自然なものを選びなさい。

- ア 供給は必要な物や情報を相手が使えるよう差し出すこと、提供は必要な物を継続的・安定的に送り届けることに使いやすい。
- イ 提供は「電力を（ ）する」だけに、供給は「資料を（ ）する」だけに使う。
- ウ 提供は必要な物や情報を相手が使えるよう差し出すこと、供給は必要な物を継続的・安定的に送り届けることに使いやすい。
- エ 「資料を（ ）する」と「電力を（ ）する」では、提供と供給を意味の違いなく入れ替えられる。

(3) 「貸す」と「預かる」の違いとして最も自然なものを選びなさい。

- ア 預かるは相手に使わせて後で返してもらうこと、貸すは相手の物や役目を一時的に引き受けて保管・管理することに使いやすい。
- イ 貸すは「荷物を（ ）」だけに、預かるは「本を（ ）」だけに使う。
- ウ 「本を（ ）」と「荷物を（ ）」では、貸すと預かるを意味の違いなく入れ替えられる。
- エ 貸すは相手に使わせて後で返してもらうこと、預かるは相手の物や役目を一時的に引き受けて保管・管理することに使いやすい。

(4) 「借りる」と「受け取る」の違いとして最も自然なものを選びなさい。

- ア 借りるはあとで返すことを前提に相手の物を使うこと、受け取るは相手から渡された物や情報などを手にすることを広く表す。
- イ 受け取るはあとで返すことを前提に相手の物を使うこと、借りるは相手から渡された物や情報などを手にすることを広く表す。
- ウ 借りるは「手紙を（ ）」だけに、受け取るは「傘を（ ）」だけに使う。
- エ 「傘を（ ）」と「手紙を（ ）」では、借りると受け取るを意味の違いなく入れ替えられる。

(5) A・Bに入る語の組合せとして、最も適切なものを選びなさい。A「傘を（A）」 B「手紙を（B）」

- ア A=受け取る／B=借りる イ A=借りる／B=借りる
- ウ A=借りる／B=受け取る エ A=受け取る／B=受け取る

(6) A・Bに入る語の組合せとして、最も適切なものを選びなさい。A「資料を（A）する」 B「電力を（B）する」

- ア A=供給／B=提供 イ A=提供／B=提供
- ウ A=供給／B=供給 エ A=提供／B=供給

六 短文で使ってみよう

A カタカナを漢字に直しなさい。

- | | |
|------------------------------|--------------------------------|
| (1) 大学で長くキョウジュを務めた先生が退職した。 | (9) 祖父は蔵書の一部を学校へゾウヨした。 |
| (2) 地元の野菜を使ったキュウショクが出された。 | (10) 売上から費用を引き、今月のリエキを計算した。 |
| (3) 第一志望の大学を目指して、来年ジュケンする。 | (11) 農民は収穫の一部をネングとして納めた。 |
| (4) 駅に近いチンタイ住宅を探している。 | (12) 停電による営業のソンシツを見積もった。 |
| (5) 記念館には、天皇からのオンシ品が保存されている。 | (13) 被災地で働く人々のケンシ的な姿に頭が下がる。 |
| (6) 必要のないシャッキンを増やさないう注意する。 | (14) 私は資料整理をタントウし、友人は発表を受け持った。 |
| (7) 目撃者は、見たことを警察でキョウジュツした。 | (15) 海岸で見つけた石を分類してシュウシュウした。 |
| (8) 会場の入口で、案内図をハイフした。 | |

B 次の熟語の読みを書きなさい。

- | | | | | |
|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| (16) 奉仕 | (17) 納入 | (18) 収益 | (19) 損得 | (20) 負担 |
| () | () | () | () | () |

七 文章の中で考えよう

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

返す日までが貸出

一年生向けの図書室案内が終わったあと、図書委員会では本の貸出について見直すことになった。最近、借りた本を返す日を忘れる生徒が増えていたからだ。先生は、「本を貸すことと、ただ本を渡すことは同じではありません」と言った。

図書室には、町の人から賜った本や、卒業生が寄贈した本も多い。背表紙には「惠贈を賜る」と改まった言葉で記されたものもあった。先生は、知識を授ける本を安定して供給するには、購入、整理、修理を続ける人の貢献が必要だと説明した。

【図書室で起こる受け渡し】 貸借＝返却を前提に貸し借りする／寄贈＝相手のために贈る／預かり＝一時的に保管する／配布＝複数の人へ分けて渡す

悠人は、その言葉の意味を考えた。本を借りる人は、読みたいという気持ちを受け取るだけでなく、その本を大切に扱い、期限までに返す責任も受け取っている。図書室が本を貸すのは、返ってくことを信頼しているからである。真央は、「借りるということは、相手のものを一時的に預かることにも近いのかもしれないね」と言った。

その日の委員会では、返却日を書いた小さな紙を本にはさむことになった。また、新しく入った本の紹介文を配り、一年生にも本を選びやすくすることにした。卒業生から寄贈された本もあり、その本には「後輩たちの学びに役立ててください」と書かれていた。悠人は、本を贈ることも、本を貸すことも、ただ物を動かすだけではないと思った。そこには、相手に役立ててほしいという思いがこめられている。

最後に先生は、「受け取ることは、ただ得をすることではありません。受け取ったものをどう扱うかまで考えることが大切です」と言った。悠人はうなずいた。言葉でも、本でも、役目でも、人から受けたものには、次の人へどう渡すかを考える責任が少しずつ含まれているのだ。

先生は、奉納、寄付、贈答も同じではないと話した。神社や寺へ品を納める奉納、公共のために金品を差し出す寄付、相手との関係の中で贈る贈答には、それぞれ異なる目的がある。与える側の思いだけでなく、受ける側の扱い方も問われる。

古本市の収益で新しい本を買う案も出たが、準備の負担や売れ残りによる損失も考えなければならない。得だけを数えず、だれが時間や費用を負担するかまで確かめることで、受け渡しの全体が見えてきた。

七 文章の中で考えよう（問い）

本文を根拠にして答えなさい。

(1) 本文中から、「本などを一時的に使わせ、あとで返してもらうこと」という意味で使われている熟語を抜き出さなさい。

(2) 「キゾウ」を漢字二字で書きなさい。

(3) 本文中の「借りる」の意味として最も近いものを選びなさい。

- ア 自分の物を相手に永久に与えること。
- イ 相手の意見を強く否定すること。
- ウ 資料を細かく調査すること。
- エ あとで返すことを前提に、相手の物を使うこと。

(4) 本文中の「本を貸すことと、ただ本を渡すことは同じではありません」とは、どのようなことか。

- ア 本を貸すときには、返してもらうことや大切に扱うことへの信頼と責任が関わっているということ。
- イ 本を貸すことは、相手に本を捨ててもよいと認めることだということ。
- ウ 本を渡すなら、返却日や使い方を考える必要はまったくないということ。
- エ 本を貸すことは、相手に本を読ませないための行為だということ。

(5) 本を借りることに責任も含まれるのはなぜか、45～55 字で説明しなさい。

(6) 「貸借」「預かる」の二語を用い、受け渡しで大切なことを 70～90 字でまとめなさい。

三 漢字の働きを考えよう

(1) **ウ** 教えや役目などを与えること

(4) **ア** 必要なものや情報を差し出して使えるようにすること。

(2) **ア** 賞を受け取ること。

(5) **ウ** 返してもらうことを前提に、物を貸し与えること。

(3) **ウ** 努力や助けなどのおかげで得られたもの。

(6) **ア** 大切なものを相手にあずけること。

四 熟語を広げよう

(1) 授業

(8) 支給

(2) 授与

(9) 補給

(3) 受信

(10) 貸出

(4) 受賞

(11) 貸与

(5) 賜物

(12) 借用

(6) 提供

(13) 預金

(7) 供給

(14) 預託

使い分けを確かめよう：授けるは知識・役目・賞などを改まった形で与える場合に使いやすく、与えるは物や影響などを広く相手にもたらす場合に使いやすい。

五 似た語を使い分けよう

(1) **イ** 授けるは知識・役目・賞などを改まった形で与える場合に使いやすく、与えるは物や影響などを広く相手にもたらす場合に使いやすい。

例：知恵を授ける／影響を与える

(2) **ウ** 提供は必要な物や情報を相手が使えるよう差し出すこと、供給は必要な物を継続的・安定的に送り届けることに使いやすい。

例：資料を提供する／電力を供給する

(3) **エ** 貸すは相手に使わせて後で返してもらうこと、預かるは相手の物や役目を一時的に引き受けて保管・管理することに使いやすい。

例：本を貸す／荷物を預かる

(4) **ア** 借りるはあとで返すことを前提に相手の物を使うこと、受け取るは相手から渡された物や情報などを手にすることを広く表す。

例：傘を借りる／手紙を受け取る

(5) ウ A＝借りる、B＝受け取る。(4)の使い分けを参照。

(6) エ A＝提供、B＝供給。(2)の使い分けを参照。

六 短文で使ってみよう

(1) 教授	(11) 年貢
(2) 給食	(12) 損失
(3) 受験	(13) 献身
(4) 賃貸	(14) 担当
(5) 恩賜	(15) 収集
(6) 借金	(16) ほうし
(7) 供述	(17) のうにゅう
(8) 配布	(18) しゅうえき
(9) 贈与	(19) そんとく
(10) 利益	(20) ふたん

七 文章の中で考えよう

- (1) **貸出** 本文中では「貸出」と表されている。
- (2) **寄贈**
- (3) **エ** あとで返すことを前提に、相手の物を使うこと。
- (4) **ア** 本を貸すときには、返してもらうことや大切に扱うことへの信頼と責任が関わっているということ。
- (5) **解答例** (51 字)

本は返却を前提に一時的に預かるものであり、次の人も使えるよう大切に扱い、期限までに返す必要があるから。

見る点：本文中の判断と、その理由を結びつけていること

- (6) **解答例** (79 字)

貸借では、物を受け取る側も相手の所有物を一時的に預かる責任を負う。得られる利益だけでなく、保管や返却の条件、だれが負担するかまで確かめて扱うことが大切である。

見る点：指定語を用いたこと／本文の具体と結論を結んだこと

第九回

争いと勝敗

競う目的を見失わず、勝敗の外にある成果も捉える。

今日の中心漢字

争 戦 競 勝 敗 攻 撃 敵

いっしょに覚える漢字

闘	勇	武	兵	隊	軍
将	旗	陣	略	占	領

争う・競う・戦う、攻撃と批判などの違いを確かめたあと、競争が学びを磨く場合と損なう場合を考えます。

意味の芯 → 熟語 → 使い分け → 短文 → 文章

一 今日の中心漢字の芯

字	主な読み	意味の芯／熟語	字	主な読み	意味の芯／熟語
争	ソウ・あらそう	あらそう／取り合う 争う・争点・競争・論争	敗	ハイ・やぶれる	まける／やぶれる 敗れる・敗北・失敗・勝敗
戦	セン・いくさ	たたかう 戦う・戦争・作戦・苦戦	攻	コウ・せめる	せめる 攻める・攻撃・攻略・専攻
競	キョウ・きそう	きそう／くらべて勝とうとする 競う・競争・競技・競売	撃	ゲキ・うつ	うつ／強くせめる 撃つ・攻撃・打撃・反撃
勝	ショウ・かつ	かつ／すぐれる 勝つ・勝利・優勝・勝敗	敵	テキ・かたき	たたかう相手／対立する相手 敵・敵意・強敵・対敵

二 いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の方向／熟語	字	主な読み	意味の方向／熟語
闘	トウ・たたかう	力を尽くしてたたかう 闘う・闘争・奮闘	将	ショウ・まさに	ひきいる人／これから 将来・将軍・主将
勇	ユウ・いさむ	おそれず進む心 勇気・勇敢・勇者	旗	キ・はた	目じるしとなる布 旗・国旗・旗手
武	ブ・たけ	たたかう力や技 武器・武道・武力	陣	ジン	たたかうための構え 陣地・陣営・布陣
兵	ヘイ・つわもの	たたかう人や道具 兵士・兵隊・兵器	略	リャク・ほぼ	はぶく／はかりごと 略す・戦略・省略
隊	タイ	集まって動く組 隊・部隊・隊列	占	セン・しめる	自分のものにする 占める・占領・独占
軍	グン・いくさ	たたかう集団 軍隊・軍事・将軍	領	リョウ・えり	おさめる範囲 領地・領土・占領

三 漢字の働きを考えよう

次の問いに答えなさい。

(1) 「争」に共通する意味として最も近いものを選びなさい。

- ア 相手に物をあずけること
- イ 数や量が少なくなること
- ウ 言葉を静かに味わうこと
- エ 意見や物などをめぐってあらそうこと

(2) 「競争」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア 相手を助けるために物を与えること。
- イ 相手とくらべ、勝とうとしてきそうこと。
- ウ いくつかの物を年代ごとに分けること。
- エ 人の名前を出さずに書くこと。

(3) 「勝敗」の意味として最も近いものを選びなさい。

- ア 新しいことと古いこと。
- イ 貸すことと借りること。
- ウ 願うことと祈ること。
- エ 勝つことと負けること。

(4) 「攻略」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア 文章をすべて暗唱すること。
- イ 相手や難しい問題を、工夫して攻め落としたり解決したりすること。
- ウ 古い物をきれいに修復すること。
- エ 相手のつらさを慰めること。

(5) 「反撃」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア 自分の意見を取り下げて、何も言わないこと。
- イ 本を読んだあと、感想を書くこと。
- ウ 物の数がふえること。
- エ 相手から受けた攻撃に対して、こちらから攻め返すこと。

(6) 「敵意」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア 相手を助けたいと思う気持ち。
- イ 相手に対して、対立したり害を加えたりしようとする気持ち。
- ウ 相手から受けた恩に感謝する気持ち。
- エ 相手に仕事を任せる気持ち。

四 熟語を広げよう

次の文に合う熟語を、語群から選んで書きなさい。

【語群】 争点 論争 競争 競技 勝利 優勝 敗北 失敗 攻撃 攻略 打撃 反撃 敵意 強敵

(1) 話し合いでは、まず何が () なのかをはっきりさせる必要がある。

(8) 発表での () を次に生かすため、原因を振り返った。

(2) その問題について、新聞でも長い () が続いていた。

(9) 相手の意見を強い言葉で () するだけでは、よい話し合いにはならない。

(3) 速さをくらべるだけでなく、考え方を高め合う () もある。

(10) 難しい問題を () するには、いくつかの方法を試す必要がある。

(4) 運動会では、学年ごとにさまざまな () が行われた。

(11) 大切な選手がけがをしたことは、チームにとって大きな () だった。

(5) 最後まであきらめずに戦った結果、チームは () を手にした。

(12) 相手の批判に対して、落ち着いて () した。

(6) 大会で一位になり、学校として初めて () した。

(13) 相手に () を向けたままでは、話し合いは進みにくい。

(7) 試合には負けたが、その () から学べることも多かった。

(14) 次の対戦相手は、これまで何度も勝っている () である。

五 似た語を使い分けよう

それぞれの語の違いとして、最も適切なものを選びなさい。

(1) 「争う」と「競う」の違いとして最も自然なものを選びなさい。

ア 競うは物・意見・立場などをめぐって対立すること、争うは相手と比べてよりよい結果を出そうとすることに使いやすい。

イ 争うは「速さを（ ）」だけに、競うは「領土を（ ）」だけに使う。

ウ 「領土を（ ）」と「速さを（ ）」では、争うと競うを意味の違いなく入れ替えられる。

エ 争うは物・意見・立場などをめぐって対立すること、競うは相手と比べてよりよい結果を出そうとすることに使いやすい。

(2) 「戦う」と「闘う」の違いとして最も自然なものを選びなさい。

ア 戦うは相手や困難に向かうことを広く表し、闘うは苦しみや困難に力を尽くして向かう感じを出しやすい。

イ 闘うは相手や困難に向かうことを広く表し、戦うは苦しみや困難に力を尽くして向かう感じを出しやすい。

ウ 戦うは「病気と（ ）」だけに、闘うは「相手と（ ）」だけに使う。

エ 「相手と（ ）」と「病気と（ ）」では、戦うと闘うを意味の違いなく入れ替えられる。

(3) 「攻撃」と「批判」の違いとして最も自然なものを選びなさい。

ア 批判は相手をせめる働きが強く、攻撃はよい点・悪い点を考えて意見を述べる場合にも使える。

イ 攻撃は相手をせめる働きが強く、批判はよい点・悪い点を考えて意見を述べる場合にも使える。

ウ 攻撃は「政策を（ ）する」だけに、批判は「相手を（ ）する」だけに使う。

エ 「相手を（ ）する」と「政策を（ ）する」では、攻撃と批判を意味の違いなく入れ替えられる。

(4) 「敗北」と「失敗」の違いとして最も自然なものを選びなさい。

ア 失敗は相手との勝負に負けること、敗北は物事が思ったようにうまくいかないことに使いやすい。

イ 敗北は「実験に（ ）する」だけに、失敗は「試合で（ ）する」だけに使う。

ウ 敗北は相手との勝負に負けること、失敗は物事が思ったようにうまくいかないことに使いやすい。

エ 「試合で（ ）する」と「実験に（ ）する」では、敗北と失敗を意味の違いなく入れ替えられる。

(5) A・Bに入る語の組合せとして、最も適切なものを選びなさい。A「領土を（A）」 B「速さを（B）」

ア A=争う／B=競う イ A=競う／B=争う

ウ A=争う／B=争う エ A=競う／B=競う

(6) A・Bに入る語の組合せとして、最も適切なものを選びなさい。A「相手を（A）する」 B「政策を（B）する」

ア A=批判／B=攻撃 イ A=攻撃／B=批判

ウ A=攻撃／B=攻撃 エ A=批判／B=批判

六 短文で使ってみよう

A カタカナを漢字に直しなさい。

- | | |
|-----------------------------|-----------------------------|
| (1) 最後まで結果の読めないショウハイとなった。 | (9) 限られた人員で進めるセンリャクを立てた。 |
| (2) 長いセンソウが、人々の暮らしを大きく変えた。 | (10) 救援ブタイが、被害の大きい地域へ派遣された。 |
| (3) 大学では近代文学をセンコウしている。 | (11) 国境付近にグンタイが配置された。 |
| (4) 貴重な絵画が、公開のキョウバイにかけられた。 | (12) 領主が治めたリョウチの範囲を地図で確かめた。 |
| (5) 砦の兵は、接近する軍へのタイテキ策を練った。 | (13) 選手たちは悪天候の中でもフントウした。 |
| (6) 十年後のショウライを想像し、学ぶ分野を選んだ。 | (14) 礼を重んじるブドウの精神を学んだ。 |
| (7) 消防士のユウカンな行動が、多くの命を救った。 | (15) 賛成派と反対派のジンエイが、意見を交わした。 |
| (8) 祝日には、校門にコッキを掲げた。 | |

B 次の熟語の読みを書きなさい。

- | | | | | |
|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|
| (16) 闘争 | (17) 武器 | (18) 兵士 | (19) 陣地 | (20) 占領 |
| () | () | () | () | () |

七 文章の中で考えよう

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

負けた発表の収穫

図書室の活動が少し広がったころ、学校では「おすすめ本紹介大会」が開かれることになった。各班が一冊の本を選び、その魅力を三分で伝える。最後には、聞いていた生徒たちの投票で優勝班が決まる。真央は「競争になると、少し緊張するね」と言った。

準備中、ある班は「敵を倒す作戦を立てよう」と冗談を言い、別の班は机に旗を立てて陣を構えた。競争を戦争にたとえると気持ちは高まるが、相手への攻撃まで正当なものに見えてしまう。先生は、比喻が考え方を狭めることもあると注意した。

【似て見える言葉の境界】 競争＝共通の規則の下で成果を競う／戦争＝軍や兵隊が武力を用いて争う／占領＝場所を力で支配する／批判＝根拠を示して評価する

悠人の班では、どの本を紹介するかで意見が分かれた。一人は物語を選びたいと言い、別の一人は調べ学習に役立つ本を選びたいと言った。話し合いは少し熱くなり、相手の案を攻撃するような言い方も出かかった。悠人は、前に学んだことを思い出し、「まず、何を争点にしているのかを整理しよう」と言った。面白さを重視するのか、役立ちやすさを重視するのか。それが分からないままでは、ただの言い合いになってしまう。

大会当日、どの班の発表にも工夫があった。声の出し方で迫力を出す班もあれば、静かに本の世界を語る班もあった。悠人たちの班は優勝できなかったが、聞いていた一年生から「その本を読んでみたい」と言われた。真央は「勝敗だけを見ると負けかもしれないけれど、伝えたいことは届いたんじゃないかな」と言った。

悠人はうなずいた。競うことは、相手を敵として憎むこととは違う。勝つことを目指すからこそ、自分たちの考えを磨くこともある。けれど、勝利だけを求めて相手を傷つければ、学びは小さくなる。争いも競争も、何を目指しているのかを忘れないことが大切なのだ。

敗れたあとに相手の工夫を認めるには、別の勇気が要る。悠人たちは優勝班の発表を分析し、声の強弱や本の見せ方を次の戦略へ取り入れた。武器のような強い言葉で相手を傷つけなくても、自分の弱点とは粘り強く闘える。

大会を指揮した生徒は、勝った班だけをたたえず、全隊が同じ目標へ向かったと総括した。将となって命令したわけではない。規則を整え、互いの発表から学べる場を守ったのである。勝敗の外にも、競うことで得られる領域があった。

七 文章の中で考えよう（問い）

本文を根拠にして答えなさい。

(1) 本文中から、「意見の対立で問題になっている点」という意味で使われている熟語を抜き出さない。

(2) 「ユウショウ」を漢字二字で書きなさい。

(3) 本文中の「攻撃」の意味として最も近いものを選びなさい。

ア 相手の案や立場を強くせめること。

イ 相手に本を貸すこと。

ウ 人を案内して導くこと。

エ 資料を年代順に並べること。

(4) 本文中の「ただの言い合いになってしまう」とは、どのようなことか。

ア 意見を言う人が一人もいなくなるということ。

イ 何を問題にしているのかを整理しないまま、互いの意見をぶつけるだけになるということ。

ウ 発表の準備がすべて終わるということ。

エ 全員が同じ本を読んで、必ず優勝するということ。

(5) 悠人たちが優勝できなくても成果を得たと言える理由を、45～55 字で説明しなさい。

(6) 「勝敗」「批判」の二語を用い、競争から学ぶ姿勢を 70～90 字でまとめなさい。

三 漢字の働きを考えよう

(1) **エ** 意見や物などをめぐってあらそうこと

(4) **イ** 相手や難しい問題を、工夫して攻め落とししたり解決したりすること。

(2) **イ** 相手とくらべ、勝とうとしてきそうこと。

(5) **エ** 相手から受けた攻撃に対して、こちらから攻め返すこと。

(3) **エ** 勝つことと負けること。

(6) **イ** 相手に対して、対立したり害を加えたりしようとする気持ち。

四 熟語を広げよう

(1) 争点

(8) 失敗

(2) 論争

(9) 攻撃

(3) 競争

(10) 攻略

(4) 競技

(11) 打撃

(5) 勝利

(12) 反撃

(6) 優勝

(13) 敵意

(7) 敗北

(14) 強敵

使い分けを確かめよう：争うは物・意見・立場などをめぐって対立すること、競うは相手と比べてよりよい結果を出そうとすることに使いやすい。

五 似た語を使い分けよう

(1) **エ** 争うは物・意見・立場などをめぐって対立すること、競うは相手と比べてよりよい結果を出そうとすることに使いやすい。

例：領土を争う／速さを競う

(2) **ア** 戦うは相手や困難に向かうことを広く表し、闘うは苦しみや困難に力を尽くして向かう感じを出しやすい。

例：相手と戦う／病気と闘う

(3) **イ** 攻撃は相手をせめる働きが強く、批判はよい点・悪い点を考えて意見を述べる場合にも使える。

例：相手を攻撃する／政策を批判する

(4) **ウ** 敗北は相手との勝負に負けること、失敗は物事が思ったようにうまくいかないことに使いやすい。

例：試合で敗北する／実験に失敗する

(5) **ア** A=争う、B=競う。(1)の使い分けを参照。

(6) **イ** A=攻撃、B=批判。(3)の使い分けを参照。

六 短文で使ってみよう

(1) 勝敗	(11) 軍隊
(2) 戦争	(12) 領地
(3) 専攻	(13) 奮闘
(4) 競売	(14) 武道
(5) 対敵	(15) 陣営
(6) 将来	(16) とうそう
(7) 勇敢	(17) ぶき
(8) 国旗	(18) へいし
(9) 戦略	(19) じんち
(10) 部隊	(20) せんりょう

七 文章の中で考えよう

- (1) **争点** 本文中では「争点」と表されている。
- (2) **優勝**
- (3) **ア** 相手の案や立場を強くせめること。
- (4) **イ** 何を問題にしているのかを整理しないまま、互いの意見をぶつけるだけになるということ。
- (5) **解答例** (44 字)

紹介した本の魅力が一年生に届き、他班の工夫から次の発表を改善する手がかりも得られたから。

見る点：本文中の判断と、その理由を結びつけていること

- (6) **解答例** (77 字)

競争では勝敗を目標の一つにしても、相手を敵として攻撃してはならない。発表のよい点と改善点を根拠とともに批判し、互いの工夫を次へ生かせば、負けからも学べる。

見る点：指定語を用いたこと／本文の具体と結論を結んだこと

第十回

社会ときまり

きまりを受け取る側から、つくり支える側へ視点に移す。

今日の中心漢字

法 律 制 規 則 条 憲 令

いっしょに覚える漢字

府	省	官	政	治	党
議	票	民	国	市	郡

法律・規則・制度・自治などを学んだあと、話し合いと投票によって生活のきまりをつくる意味を考える文章を読みます。

意味の芯 → 熟語 → 使い分け → 短文 → 文章

一 今日の中心漢字の芯

字	主な読み	意味の芯／熟語	字	主な読み	意味の芯／熟語
法律 制 規	ホウ・のり	きまり／やり方 法律・方法・法則・法人	則 条 憲 令	ソク・のっとる	きまり／それに従う 規則・法則・原則・則る
	リツ	きまり／ととのった調子 法律・規律・自律・旋律		ジョウ・えだ	一つ一つに分けたきまり／条件 条文・条件・条約・簡条
	セイ	しくみを決める／おさえる 制度・制限・制服・制御		ケン	国の基本となるきまり 憲法・憲章・立憲・違憲
	キ	きまり／基準 規則・規模・規準・規範		レイ	命じる／きまりとして出す 命令・法令・政令・号令

二 いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の方向／熟語	字	主な読み	意味の方向／熟語
府 省 官 政 治 党	フ	政治を行うところ／地域名 政府・府県・府庁	議 票 民 国 市 郡	ギ	話し合って考える 議論・会議・議会
	セイ・かえりみる	役所／かえりみる／はぶく 省庁・反省・省略		ヒョウ	意見や選択を示す札 投票・票数・得票
	カン	公の仕事をする人や組織 官庁・官民・警官		ミン・たみ	人々 市民・国民・民間
	セイ・まつりごと	世の中を治める働き 政治・政府・政策		コク・くに	くに 国・国家・国民
	ジ・おさめる	おさめる／なおす 治める・政治・自治		シ・いち	まち／地方公共団体 市・市役所・市民
	トウ・なかま	同じ考えを持つ集まり 政党・党员・与党		ゲン・こおり	いくつかの町村を含む地域 郡・郡部・郡名

三 漢字の働きを考えよう

次の問いに答えなさい。

(1) 「法」に共通する意味として最も近いものを選びなさい。

- ア きまりや、物事を行うためのやり方
- イ 心の中で強く願うこと
- ウ 相手を強く攻撃すること
- エ 数や量がふえること

(2) 「法律」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア 人の心を慰めるための言葉。
- イ 古い物を新しい物と交換すること。
- ウ 社会の中で守るべきものとして定められたきまり。
- エ 本を借りてあとで返すこと。

(3) 「制度」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア 社会や学校などを動かすために決められたしくみ。
- イ 相手に何かをお願いする気持ち。
- ウ 強い声で相手を呼ぶこと。
- エ 資料を光から守ること。

(4) 「規則」の意味として最も近いものを選びなさい。

- ア 自分だけが心の中で思っている願い。
- イ ものが自然にこわれること。
- ウ 多くの人を守るように決められたきまり。
- エ 詩を声に出して読むこと。

(5) 「条件」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア あることが成り立つために必要な事柄。
- イ 相手から本を一時的に借りること。
- ウ 言葉を年代順に並べること。
- エ 心が目標へ向かうこと。

(6) 「命令」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア 相手の話を聞いて深く感謝すること。
- イ 調べた内容を記録に残すこと。
- ウ 相手に何かをするように言いつけること。
- エ ものの価値を比べて選ぶこと。

四 熟語を広げよう

次の文に合う熟語を、語群から選んで書きなさい。

【語群】 法律 法則 制度 制限 規則 原則 条文 条件 憲法 法令 政府 省庁 自治 議会

(1) 社会には、人々の生活を守るための（ ）がある。

(8) 大会に参加するには、決められた（ ）を満たす必要がある。

(2) 自然の現象にも、一定の（ ）が見られることがある。

(9) 国の基本となるきまりを（ ）という。

(3) 学校の委員会には、それぞれの役割を決める（ ）がある。

(10) 社会で守るべききまりをまとめて、（ ）と呼ぶことがある。

(4) 図書室では、一度に借りられる本の冊数に（ ）がある。

(11) 国全体の政治を行う中心の組織を（ ）という。

(5) 多くの人が同じ場所を使うときは、守るべき（ ）が必要になる。

(12) 国の仕事を分けて受け持つ役所を、まとめて（ ）と呼ぶ。

(6) 話し合いでは、まず相手の意見を最後まで聞くことを（ ）にした。

(13) 自分たちの地域のことを、自分たちで考えて治めることを（ ）という。

(7) きまりの一つ一つの文を、法律では（ ）と呼ぶことがある。

(14) 市や県などで、代表者が集まって話し合う場を（ ）という。

五 似た語を使い分けよう

それぞれの語の違いとして、最も適切なものを選びなさい。

(1) 「法律」と「規則」の違いとして最も自然なものを選びなさい。

ア 規則は国が定める社会全体のきまりに使いやすく、法律は学校・団体・場所などで守るきまりにも広く使いやすい。

イ 法律は国が定める社会全体のきまりに使いやすく、規則は学校・団体・場所などで守るきまりにも広く使いやすい。

ウ 法律は「学校の（ ）」だけに、規則は「国の（ ）」だけに使う。

エ 「国の（ ）」と「学校の（ ）」では、法律と規則を意味の違いなく入れ替えられる。

(2) 「制度」と「制限」の違いとして最も自然なものを選びなさい。

ア 制限は物事を動かすためのしくみ、制度は範囲や数などを決めておさえることに使いやすい。

イ 制度は「人数を（ ）する」だけに、制限は「教育（ ）」だけに使う。

ウ 制度は物事を動かすためのしくみ、制限は範囲や数などを決めておさえることに使いやすい。

エ 「教育（ ）」と「人数を（ ）する」では、制度と制限を意味の違いなく入れ替えられる。

(3) 「条件」と「条文」の違いとして最も自然なものを選びなさい。

ア 条文はあることが成り立つために必要な事柄、条件は法律や規則などを一つ一つの文として書いたものに使いやすい。

イ 条件と条文は意味の違いがなく、どの文でもそのまま入れ替えられる。

ウ 条件は条文の改まった言い方にすぎず、指す内容や使う場面は同じである。

エ 条件はあることが成り立つために必要な事柄、条文は法律や規則などを一つ一つの文として書いたものに使いやすい。

(4) 「政治」と「自治」の違いとして最も自然なものを選びなさい。

ア 政治は国や地域を治める働き全体を表し、自治は自分たちの地域や集団のことを自分たちで治めることに使いやすい。

イ 自治は国や地域を治める働き全体を表し、政治は自分たちの地域や集団のことを自分たちで治めることに使いやすい。

ウ 政治は「地域の（ ）」だけに、自治は「国の（ ）」だけに使う。

エ 「国の（ ）」と「地域の（ ）」では、政治と自治を意味の違いなく入れ替えられる。

(5) A・Bに入る語の組合せとして、最も適切なものを選びなさい。A「国の（A）」 B「学校の（B）」

ア A＝規則／B＝法律 イ A＝法律／B＝法律

ウ A＝法律／B＝規則 エ A＝規則／B＝規則

(6) A・Bに入る語の組合せとして、最も適切なものを選びなさい。A「国の（A）」 B「地域の（B）」

ア A＝自治／B＝政治 イ A＝政治／B＝政治

ウ A＝自治／B＝自治 エ A＝政治／B＝自治

六 短文で使ってみよう

A カタカナを漢字に直しなさい。

- | | |
|-------------------------------|---------------------------------|
| (1) 資料を整理するハウホウを、班で相談した。 | (9) 自分の言動をハンセイし、相手へ謝った。 |
| (2) 集団生活では、時間を守るキリツが求められる。 | (10) 申請の手続を確認するため、担当のカンチヨウを訪れた。 |
| (3) 二国は平和と通商に関するジョウヤクを結んだ。 | (11) 子育てを支える新しいセイサクが発表された。 |
| (4) 温度を一定に保つため、装置を自動セイギョする。 | (12) コッカの仕組みを、憲法と議会から考えた。 |
| (5) 国際組織は、人権を掲げるケンショウを採択した。 | (13) 転居届を出すため、シヤクショへ行った。 |
| (6) 計画のキボが大きくなり、予算も増えた。 | (14) 結論を急がず、根拠を示してギロンした。 |
| (7) 避難するようメイレイが出され、住民は高台へ移った。 | (15) 開票後、候補者ごとのヒョウスウが発表された。 |
| (8) 地図では、都道フケンごとに色を分けた。 | |

B 次の熟語の読みを書きなさい。

- | | | | | |
|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| (16) 政党 | (17) 会議 | (18) 投票 | (19) 国民 | (20) 郡部 |
| () | () | () | () | () |

七 文章の中で考えよう

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

一票の向こう側

おすすめ本紹介大会のあと、悠人たちの学校では、生徒会の選挙が近づいていた。図書室の活動を通して、悠人は学校のきまりに少し関心を持つようになっていた。これまで、規則はただ守るものだと思っていた。しかし、図書室のルールを見直した経験から、きまりは人々の生活をよくするために作られ、必要に応じて改められるものでもあると感じ始めていた。

【社会のきまりをつくる場】 国＝国会と政府／府県・市町村＝地方議会と行政／省や官庁＝分野ごとの仕事／
学校＝生徒会・委員会・校則

国民が政治に関わる方法は、選挙だけではない。政党の案を比べ、議員へ意見を伝え、地域の会議に参加することもできる。都市と郡部では事情が異なる場合もあり、一つの制度がどこでも同じ働きをするとは限らない。

ある日の授業で、先生は「法律と学校の規則は同じではありません。しかし、どちらも多くの人が一緒に生活するためのきまりです」と言った。そして、国には憲法や法律があり、市や町にも条例や議会があることを説明した。悠人は、学校の委員会や生徒会も、小さな社会のようなものなのと思った。

生徒会選挙では、候補者がそれぞれの考えを語った。一人は「校内の掲示をもっと分かりやすくしたい」と言い、別の一人は「昼休みに使える場所を増やしたい」と話した。聞いている生徒たちは、ただ人気で選ぶのではなく、その案が本当に学校のためになるかを考えながら投票する必要がある。真央は「投票する側にも責任があるんだね」と言った。

悠人はうなずいた。きまりや制度は、遠い場所にあるものではない。自分たちがどんな学校で過ごしたいのかを考え、話し合い、選ぶことにもつながっている。社会ときまりを学ぶことは、人に命令されるためだけではなく、自分たちでよりよい生活を作るための方法を学ぶことでもある。

投票用紙に記す一票は短い。しかし、その前には案を読み、事実を確かめ、何を優先するかを考える時間がある。票の数で結論が決まっても、少数の意見が誤りになるわけではない。決定後も理由を説明し、必要なら見直すことが自治を支える。

「きまりを守る人は、きまりを考え直す社会の一員でもある。」

七 文章の中で考えよう（問い）

本文を根拠にして答えなさい。

(1) 本文中から、「多くの人を守るように決められたきまり」という意味で使われている熟語を抜き出さない。

(2) 「トウヒョウ」を漢字二字で書きなさい。

(3) 本文中の「憲法」の意味として最も近いものを選びなさい。

- ア 図書室で本を借りるための紙。
- イ 国の基本となるきまり。
- ウ 相手に仕事をまかせること。
- エ 発表で相手を攻撃すること。

(4) 本文中の「きまりは人々の生活をよくするために作られ、必要に応じて改められるものでもある」とは、どのようなことか。

- ア きまりは一度作ったら、どれだけ不便でも絶対に変えてはいけないということ。
- イ きまりは人を困らせるためだけにあるので、理由を考える必要はないということ。
- ウ きまりには生活を整える働きがあり、状況に合わない部分は話し合ってみ直すこともあるということ。
- エ きまりは守る必要がなく、すべて個人の気分で決めてよいということ。

(5) 本文で、投票する側にも責任があるとされる理由を 45～55 字で説明しなさい。

(6) 「規則」「自治」の二語を用い、社会のきまりを学ぶ意味を 70～90 字でまとめなさい。

三 漢字の働きを考えよう

- | | |
|--------------------------------------|----------------------------------|
| (1) ア きまりや、物事を行うためのやり方 | (4) ウ 多くの人が守るように決められたきまり。 |
| (2) ウ 社会の中で守るべきものとして定められたきまり。 | (5) ア あることが成り立つために必要な事柄。 |
| (3) ア 社会や学校などを動かすために決められたしくみ。 | (6) ウ 相手に何かをするように言いつけること。 |

四 熟語を広げよう

- | | |
|--------|---------|
| (1) 法律 | (8) 条件 |
| (2) 法則 | (9) 憲法 |
| (3) 制度 | (10) 法令 |
| (4) 制限 | (11) 政府 |
| (5) 規則 | (12) 省庁 |
| (6) 原則 | (13) 自治 |
| (7) 条文 | (14) 議会 |

使い分けを確かめよう：法律は国が定める社会全体のきまりに使いやすく、規則は学校・団体・場所などで守るきまりにも広く使いやすい。

五 似た語を使い分けよう

(1) **イ** 法律は国が定める社会全体のきまりに使いやすく、規則は学校・団体・場所などで守るきまりにも広く使いやすい。

例：国の法律／学校の規則

(2) **ウ** 制度は物事を動かすためのしくみ、制限は範囲や数などを決めておさえることに使いやすい。

例：教育制度／人数を制限する

(3) **エ** 条件はあることが成り立つために必要な事柄、条文は法律や規則などを一つ一つの文として書いたものに使いやすい。

(4) **ア** 政治は国や地域を治める働き全体を表し、自治は自分たちの地域や集団のことを自分たちで治めることに使いやすい。

例：国の政治／地域の自治

(5) **ウ** A＝法律、B＝規則。(1)の使い分けを参照。

(6) **エ** A＝政治、B＝自治。(4)の使い分けを参照。

六 短文で使ってみよう

(1) 方法	(11) 政策
(2) 規律	(12) 国家
(3) 条約	(13) 市役所
(4) 制御	(14) 議論
(5) 憲章	(15) 票数
(6) 規模	(16) せいとう
(7) 命令	(17) かいぎ
(8) 府県	(18) とうひょう
(9) 反省	(19) こくみん
(10) 官庁	(20) ぐんぷ

七 文章の中で考えよう

(1) **規則** 本文中では「規則」と表されている。

(2) **投票**

(3) **イ** 国の基本となるきまり。

(4) **ウ** きまりには生活を整える働きがあり、状況に合わない部分は話し合って見直すこともあるということ。

(5) **解答例** (47 字)

人気だけで選ばず、候補者の案が学校生活へどんな影響を与えるかを考えて一票を使う必要があるから。

見る点：本文中の判断と、その理由を結びつけていること

(6) **解答例** (77 字)

規則は上から命じられるだけのものではなく、共に生活する人が理由を話し合い、必要なら改めるものである。自分たちで選び、少数意見も確かめる経験が自治を支える。

見る点：指定語を用いたこと／本文の具体と結論を結んだこと

第十一回

責任と約束

権限と責任、謝罪と償いを切り離さずに考える。

今日の中心漢字

務 権 契 雇 罪 罰 償 賠

いっしょに覚える漢字

役	司	監	督	管	営
職	労	税	債	勤	署

任務・権限・契約・賠償などの違いを確かめたあと、失敗を認め、損害に向き合い、次へつなぐ責任を考えます。

意味の芯 → 熟語 → 使い分け → 短文 → 文章

一 今日の中心漢字の芯

字	主な読み	意味の芯／熟語	字	主な読み	意味の芯／熟語
務	ム・つとめる	つとめ／しなければならない仕事 務める・任務・義務・業務	罪	ザイ・つみ	法や道徳に反する悪い行い 罪・犯罪・罪悪・謝罪
権	ケン・おもり	何かをすることが認められた力 権利・権限・人権・主権	罰	バツ・ばつする	悪い行いに対するこらしめ 罰・処罰・罰則・刑罰
契	ケイ・ちぎる	約束を結ぶ 契る・契約・契機・契印	償	ショウ・つぐなう	失ったものや悪い行いをつぐなう 償う・償金・弁償・補償
雇	コ・やとう	人をやとう 雇う・雇用・解雇・雇主	賠	パイ	損害をつぐなう 賠償・損害賠償

二 いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の方向／熟語	字	主な読み	意味の方向／熟語
役	ヤク	受け持つ仕事 役目・役割・市役所	職	ショク	仕事 職業・職員・職場
司	シ・つかさどる	取りしきる 司会・司書・司令	労	ロウ・ろうする	はたらく／骨を折る 労働・苦労・労力
監	カン	見張る／取りしめる 監督・監視・監査	税	ゼイ	公のために納める金 税金・納税・消費税
督	トク	見てうながす 監督・督促	債	サイ	返すべきもの 借金・債務・負債
管	カン・くだ	受け持って扱う 管理・管轄・保管	勤	キン・つとめる	仕事につく 勤める・勤務・通勤
営	エイ・いとなむ	続けて行う 営む・経営・運営	署	ショ	役所／名を書く 署名・警察署・税務署

三 漢字の働きを考えよう

次の問いに答えなさい。

(1) 「義務」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア 自分の好きなときだけしてよい遊び。
- イ しなければならないつとめ。
- ウ 相手を強くにくむ気持ち。
- エ ものの数がふえること。

(2) 「権利」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア 悪い行いに対して与えられるこらしめ。
- イ 相手から物を一時的に借りること。
- ウ 詩を声に出して読むこと。
- エ 人に認められている、何かをしたり求めたりできる力。

(3) 「契約」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア 理由を考えずに相手を非難すること。
- イ 守るべき内容を決めて、約束を結ぶこと。
- ウ 意見を言わず、すべてを相手に任せること。
- エ 大きな声で歌をうたうこと。

(4) 「雇用」の意味として最も近いものを選びなさい。

- ア 人を学校まで案内すること。
- イ 人に賞を与えること。
- ウ 人の名前を隠しておくこと。
- エ 人をやとって、仕事についてもらうこと。

(5) 「処罰」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア よい行いをほめて賞を与えること。
- イ 悪い行いや規則違反に対して、罰を与えること。
- ウ 資料を二つ比べて確かめること。
- エ 仕事の内容を人に説明すること。

(6) 「賠償」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア 相手から受けた恩に感謝すること。
- イ 心配ごとを静かに考えること。
- ウ 目標に向かって努力すること。
- エ 与えた損害を金銭などでつぐなうこと。

四 熟語を広げよう

次の文に合う熟語を、語群から選んで書きなさい。

【語群】 任務 義務 業務 権利 権限 契約 雇用 解雇 犯罪 処罰 弁償 補償 賠償 謝罪

(1) 図書委員には、本を整理し、利用者を助ける
() がある。

(8) 重大な規則違反が続くと、職を失う () につながることもある。

(2) 学校のきまりを守ることは、生徒としての ()
の一つである。

(9) 人の物を盗むことは、明らかな () である。

(3) 職場体験では、店の人が毎日行っている () を
見学した。

(10) 規則に反する行いには、内容に応じた () が行われる。

(4) だれもが安心して学ぶ () を持っている。

(11) 友人の本を破ってしまったので、同じ本を買って () した。

(5) 委員長には、会議の進行を決める一定の () が
ある。

(12) 事故で受けた損失をおぎなうため、一定の ()
が行われた。

(6) 働く時間や内容を確認してから、正式に () を
結ぶ。

(13) 他人に損害を与えた場合、 () を求められることがある。

(7) 会社が人をやとって仕事についてもらうことを
() という。

(14) 相手を傷つけたことに気づき、すぐに () した。

五 似た語を使い分けよう

それぞれの語の違いとして、最も適切なものを選びなさい。

(1) 「任務」と「業務」の違いとして最も自然なものを選びなさい。

- ア 業務は与えられた役目や果たすべきつとめ、任務は仕事として日常的・継続的に行う内容に使いやすい。
- イ 任務は「窓口の（ ）」だけに、業務は「救助の（ ）」だけに使う。
- ウ 「救助の（ ）」と「窓口の（ ）」では、任務と業務を意味の違いなく入れ替えられる。
- エ 任務は与えられた役目や果たすべきつとめ、業務は仕事として日常的・継続的に行う内容に使いやすい。

(2) 「権利」と「権限」の違いとして最も自然なものを選びなさい。

- ア 権利は人に認められている利益や自由、権限は役目や立場に応じて何かを決めたり行ったりできる範囲に使いやすい。
- イ 権限は人に認められている利益や自由、権利は役目や立場に応じて何かを決めたり行ったりできる範囲に使いやすい。
- ウ 権利は「担当者の（ ）」だけに、権限は「教育を受ける（ ）」だけに使う。
- エ 「教育を受ける（ ）」と「担当者の（ ）」では、権利と権限を意味の違いなく入れ替えられる。

(3) 「弁償」と「賠償」の違いとして最も自然なものを選びなさい。

- ア 賠償は壊した物や失わせた物を金品などでつぐなうことに使いやすく、弁償は損害全体を法的・広い意味でつぐなう場合にも使いやすい。
- イ 弁償は壊した物や失わせた物を金品などでつぐなうことに使いやすく、賠償は損害全体を法的・広い意味でつぐなう場合にも使いやすい。
- ウ 弁償は「損害を（ ）する」だけに、賠償は「壊した品を（ ）する」だけに使う。
- エ 「壊した品を（ ）する」と「損害を（ ）する」では、弁償と賠償を意味の違いなく入れ替えられる。

(4) 「謝罪」と「償い」の違いとして最も自然なものを選びなさい。

- ア 償いは悪かったことを認めてあやまること、謝罪は損害や苦しみに対して行動や金品などでつぐなおうとすることに使いやすい。
- イ 謝罪は「行動で償う」だけに、償いは「非を認めて（ ）する」だけに使う。
- ウ 謝罪は悪かったことを認めてあやまること、償いは損害や苦しみに対して行動や金品などでつぐなおうとすることに使いやすい。
- エ 「非を認めて（ ）する」と「行動で償う」では、謝罪と償いを意味の違いなく入れ替えられる。

(5) A・Bに入る語の組合せとして、最も適切なものを選びなさい。A「壊した品を（A）する」 B「損害を（B）する」

- ア A=弁償／B=賠償 イ A=賠償／B=弁償
- ウ A=弁償／B=弁償 エ A=賠償／B=賠償

(6) A・Bに入る語の組合せとして、最も適切なものを選びなさい。A「救助の（A）」 B「窓口の（B）」

- ア A=業務／B=任務 イ A=任務／B=業務
- ウ A=任務／B=任務 エ A=業務／B=業務

六 短文で使ってみよう

A カタカナを漢字に直しなさい。

- | | |
|-------------------------------|--------------------------------|
| (1) 自分の過ちにザイアク感を抱き、正直に謝った。 | (9) 長時間のロウドウを減らす制度が導入された。 |
| (2) すべての人のジンケンを守ることが社会の基本である。 | (10) 支払期限を過ぎたため、会社からトクソク状が届いた。 |
| (3) 違反した場合のバツソクを、事前に確認した。 | (11) 借りた資金を返すサイムが残っている。 |
| (4) 一冊の本との出会いが、研究を始めるケイキになった。 | (12) 駅員は交代で夜間キンムに当たった。 |
| (5) 契約違反に対するショウキンの額が定められた。 | (13) 父は小さな店を長くケイエイしている。 |
| (6) ヤトイヌシは、安全な職場を整える責任を負う。 | (14) 図書館のシショに、資料の探し方を教わった。 |
| (7) 班の中で自分のヤクメを確かめた。 | (15) 防犯カメラで入口をカンシしている。 |
| (8) 将来就きたいショクギョウについて調べた。 | |

B 次の熟語の読みを書きなさい。

- | | | | | |
|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| (16) 司会 | (17) 監督 | (18) 管理 | (19) 税金 | (20) 警察署 |
| () | () | () | () | () |

七 文章の中で考えよう

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

破れた本のその後

生徒会選挙が終わり、新しい役員が決まった。悠人は図書委員として、これからも図書室の活動を手伝うことになった。ある日、委員会では「役目を引き受けるとはどういうことか」という話になった。先生は、「役目には、できることが増える面と、果たすべき務めが増える面があります」と言った。

先生は、日常の約束が社会では契約になる場合を説明した。雇用契約では、働く人は定められた職務を勤勉に行い、雇う側は労働条件を守る。司書、施設を管理・運営する職員、仕事を監督する人には、それぞれ異なる権限と責任がある。

【約束を確かめる要素】だれとだれの約束か／何をするか／期限はいつか／費用や税はだれが負担するか／署名は必要か／守れないときどうするか

委員長には、会議を進めたり、活動の方針を決めたりする権限がある。しかし、その権限は好き勝手に命令するためのものではない。みんなが安心して活動できるように考え、必要な説明をし、約束を守る責任とつながっている。真央は、「権利や権限は、責任と切り離して考えられないんだね」と言った。

その週、図書室で小さな問題が起きた。貸し出した本の一冊が破れたまま返ってきたのだ。最初はだれが破ったのか分からず、何人かの生徒が疑われそうになった。けれど、あとで一人の生徒が、自分がうっかり破ってしまったと申し出た。その生徒はすぐに謝罪し、同じ本を買って弁償したいと言った。

先生は、その生徒を強く責めるのではなく、「正直に申し出たことは大切です。ただ、借りたものを大切に扱う責任も忘れてはいけません」と話した。罪や罰という言葉は重い。しかし、悪いことをしたときに必要なのは、ただ罰を受けることだけではない。何が悪かったのかを認め、相手に与えた損害をできる形で償い、次に同じことをくり返さないようにすることも大切なのだと、悠人は思った。

損害賠償や債務という語は難しく見えるが、約束によって生じた負担にどう向き合うかを表す。壊した本を弁償すれば、謝罪が不要になるわけではない。反対に、謝るだけで物の損害が元へ戻るわけでもない。

委員会は、破損を隠さず申告できる用紙を作り、責めるためではなく修理方法を選ぶために使うと明記した。責任を問う仕組みと、正直に申し出やすい仕組みを両立させることも、同じ失敗を防ぐ営みなのである。

七 文章の中で考えよう（問い）

本文を根拠にして答えなさい。

(1) 本文中から、「役目や仕事として果たさなければならないこと」という意味で使われている語を抜き出
しなさい。

(2) 「ケンゲン」を漢字二字で書きなさい。

(3) 本文中の「謝罪」の意味として最も近いものを選びなさい。

ア 人に仕事をまかせること。

イ 相手を強く攻撃すること。

ウ 悪かったことを認めてあやまること。

エ 資料を二つ比べて確かめること。

(4) 本文中の「権利や権限は、責任と切り離して考えられない」とは、どのようなことか。

ア 権限を持つ人は、どんな命令をしても責任を負わなくてよいということ。

イ 責任を考えるなら、権利はすべてなくしたほうがよいということ。

ウ 権利と責任はまったく関係がないということ。

エ 何かをする力や認められた立場には、それを正しく使う責任もともなうということ。

(5) 権限と責任を切り離して考えられない理由を、45～55 字で説明しなさい。

(6) 「謝罪」「償い」の二語を用い、失敗後に必要な行動を 70～90 字でまとめなさい。

三 漢字の働きを考えよう

- | | |
|--|-------------------------------------|
| (1) イ しなければならないつとめ。 | (4) エ 人をやとって、仕事についてもらうこと。 |
| (2) エ 人に認められている、何かをしたり求めたりできる力。 | (5) イ 悪い行いや規則違反に対して、罰を与えること。 |
| (3) イ 守るべき内容を決めて、約束を結ぶこと。 | (6) エ 与えた損害を金銭などでつぐなうこと。 |

四 熟語を広げよう

- | | |
|--------|---------|
| (1) 任務 | (8) 解雇 |
| (2) 義務 | (9) 犯罪 |
| (3) 業務 | (10) 処罰 |
| (4) 権利 | (11) 弁償 |
| (5) 権限 | (12) 補償 |
| (6) 契約 | (13) 賠償 |
| (7) 雇用 | (14) 謝罪 |

使い分けを確かめよう：任務は与えられた役目や果たすべきつとめ、業務は仕事として日常的・継続的に行う内容に使いやすい。

五 似た語を使い分けよう

(1) **エ** 任務は与えられた役目や果たすべきつとめ、業務は仕事として日常的・継続的に行う内容に使いやすい。

例：救助の任務／窓口の業務

(2) **ア** 権利は人に認められている利益や自由、権限は役目や立場に応じて何かを決めたり行ったりできる範囲に使いやすい。

例：教育を受ける権利／担当者の権限

(3) **イ** 弁償は壊した物や失わせた物を金品などでつぐなうことに使いやすく、賠償は損害全体を法的・広い意味でつぐなう場合にも使いやすい。

例：壊した品を弁償する／損害を賠償する

(4) **ウ** 謝罪は悪かったことを認めてあやまること、償いは損害や苦しみに対して行動や金品などでつぐなおうとすることに使いやすい。

例：非を認めて謝罪する／行動で償う

(5) **ア** A＝弁償、B＝賠償。(3)の使い分けを参照。

(6) **イ** A＝任務、B＝業務。(1)の使い分けを参照。

六 短文で使ってみよう

(1) 罪悪	(11) 債務
(2) 人権	(12) 勤務
(3) 罰則	(13) 経営
(4) 契機	(14) 司書
(5) 償金	(15) 監視
(6) 雇主	(16) しかい
(7) 役目	(17) かんとか
(8) 職業	(18) かんり
(9) 労働	(19) ぜいきん
(10) 督促	(20) けいさつしょ

七 文章の中で考えよう

- (1) **務め** 本文中では「務め」と表されている。
- (2) **権限**
- (3) **ウ** 悪かったことを認めてあやまること。
- (4) **エ** 何かをする力や認められた立場には、それを正しく使う責任もともなうということ。
- (5) **解答例** (46 字)

何かを決めて行う力は、関わる人へ説明し、約束を守り、結果に向き合う務めと結びついているから。

見る点：本文中の判断と、その理由を結びつけていること

- (6) **解答例** (78 字)

失敗したときは、非を認めて謝罪するだけでなく、相手に与えた損害をできる形で償い、原因を確かめて再発を防ぐ必要がある。正直に申し出やすい仕組みも責任を支える。

見る点：指定語を用いたこと／本文の具体と結論を結んだこと

第十二回

人と集団

「みんな」の中にいる、一人一人の違いを見失わない。

今日の中心漢字

個 群 衆 族 盟 派 閥 僚

いっしょに覚える漢字

皆	他	己	我	互	彼
夫	妻	婦	祖	孫	兄

個人・群衆・家族・同盟などを使い分けたあと、全体と個人の両方を見ながら集団を捉える文章を読みます。

意味の芯 → 熟語 → 使い分け → 短文 → 文章

一 今日の中心漢字の芯

字	主な読み	意味の芯／熟語	字	主な読み	意味の芯／熟語
個	コ	一つ一つ／一人一人 個人・個性・個別・個体	盟	メイ	かたい約束で結びつく 同盟・盟友・盟約・連盟
群	グン・むれる	多く集まったもの 群れ・群集・群像・群島	派	ハ	考えや立場を同じくする一団 派・学派・流派・党派
衆	シュウ・おおい	多くの人々 衆人・大衆・民衆・公衆	閥	バツ	利害や出身などで結びついた集まり 派閥・財閥・学閥・門閥
族	ゾク	血縁や共通点でつながる集まり 家族・親族・民族・部族	僚	リョウ	同じ仕事や役目を持つ仲間 同僚・官僚・閥僚・僚友

二 いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の方向／熟語	字	主な読み	意味の方向／熟語
皆	カイ・みな	みんな 皆・皆無・皆勤	夫	フ・おっと	おっと／成人男性 夫・夫婦・夫妻
他	タ・ほか	ほか 他人・他者・他校	妻	サイ・つま	つま 妻・夫妻・妻子
己	コ・おのれ	自分 自己・利己・克己	婦	フ・よめ	成人女性 婦人・主婦・夫婦
我	ガ・われ	自分たち／自分 我・我々・自我	祖	ソ	先の世代 祖父・祖母・祖先
互	ゴ・たがい	たがいに 互い・相互・互助	孫	ソン・まご	子の子／受けつぐ者 孫・子孫・孫弟子
彼	ヒ・かれ	あの人／あちら 彼・彼女・彼方	兄	ケイ・あに	年上の男きょうだい 兄・兄弟・父兄

三 漢字の働きを考えよう

次の問いに答えなさい。

(1) 「個人」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア 同じ考えを持つ人だけを集めた組織。
- イ かたい約束で結ばれた国どうし。
- ウ 集団ではなく、一人の人。
- エ 古い家に伝わる道具。

(2) 「群衆」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア 多くの人が一か所に集まったもの。
- イ 一人の人が持つ、その人らしさ。
- ウ 同じ仕事をする仲間。
- エ 家族の中で年上の男きょうだい。

(3) 「大衆」の意味として最も近いものを選びなさい。

- ア 血のつながりがある親せき。
- イ 相手の意見を強く否定すること。
- ウ 特別な少数の人ではなく、多くの一般の人々。
- エ 仕事の責任を引き受けること。

(4) 「親族」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア 血縁や結婚などによってつながる人々。
- イ 同じ職場で働く人々。
- ウ 考え方が対立している相手。
- エ 国どうしの争い。

(5) 「同盟」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア 人を一人ずつ別々に扱うこと。
- イ 大勢の人が同じ場所に集まっていること。
- ウ 共通の目的のために、かたい約束を結んで協力すること。
- エ 親から子へ物を受けつぐこと。

(6) 「派閥」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア 組織の中で、考えや利害によって分かれた集まり。
- イ 家族の中での役割。
- ウ 同じ仕事をする仲間。
- エ 多くの人に向けて発表する文章。

四 熟語を広げよう

次の文に合う熟語を、語群から選んで書きなさい。

【語群】 個人 個性 個別 群衆 群れ 大衆 民衆 家族 親族 民族 同盟 学派 派閥 同僚

(1) 集団で話し合うときも、一人一人の（ ）の考えを大切にしたい。

(8) 食事の時間に、（ ）でその日の出来事を話した。

(2) 同じ作文でも、言葉の選び方にはその人の（ ）が表れる。

(9) 祖父の家には、正月になると多くの（ ）が集まる。

(3) 困っている生徒には、全体説明だけでなく（ ）に声をかける必要がある。

(10) 言語や文化を共有する人々を、（ ）と呼ぶことがある。

(4) 駅前には、発表を聞こうとする（ ）が集まっていた。

(11) 二つの国は、共通の目的のために（ ）を結んだ。

(5) 空を見上げると、鳥の（ ）が夕方の空を横切っていった。

(12) ある考え方を受けつぐ研究者の集まりを（ ）ということがある。

(6) 新聞やテレビは、広く（ ）に向けて情報を伝えている。

(13) 組織の中に強い（ ）ができると、自由な意見が出にくくなることもある。

(7) 歴史の中では、（ ）の声が政治を動かすこともあった。

(14) 職場で同じ仕事をする（ ）と、資料の確認をした。

五 似た語を使い分けよう

それぞれの語の違いとして、最も適切なものを選びなさい。

(1) 「個人」と「個性」の違いとして最も自然なものを選びなさい。

- ア 個性は一人の人そのものを表し、個人はその人らしい性質や特徴を表しやすい。
- イ 個人は一人の人そのものを表し、個性はその人らしい性質や特徴を表しやすい。
- ウ 個人は「豊かな（ ）」だけに、個性は「（ ）の意見」だけに使う。
- エ 「（ ）の意見」と「豊かな（ ）」では、個人と個性を意味の違いなく入れ替えられる。

(2) 「群衆」と「大衆」の違いとして最も自然なものを選びなさい。

- ア 大衆は実際に一か所に集まった多くの人を表しやすく、群衆は社会の中の多くの一般の人々を広く表しやすい。
- イ 群衆は「（ ）向けの雑誌」だけに、大衆は「駅前の（ ）」だけに使う。
- ウ 群衆は実際に一か所に集まった多くの人を表しやすく、大衆は社会の中の多くの一般の人々を広く表しやすい。
- エ 「駅前の（ ）」と「（ ）向けの雑誌」では、群衆と大衆を意味の違いなく入れ替えられる。

(3) 「家族」と「親族」の違いとして最も自然なものを選びなさい。

- ア 親族は一緒に生活したり近い関係にあったりする身近なまとまりを表し、家族は血縁や結婚による広いつながりを表しやすい。
- イ 家族は「（ ）が集まる」だけに、親族は「（ ）と暮らす」だけに使う。
- ウ 「（ ）と暮らす」と「（ ）が集まる」では、家族と親族を意味の違いなく入れ替えられる。
- エ 家族は一緒に生活したり近い関係にあったりする身近なまとまりを表し、親族は血縁や結婚による広いつながりを表しやすい。

(4) 「同盟」と「派閥」の違いとして最も自然なものを選びなさい。

- ア 同盟は共通の目的のために約束して協力する結びつき、派閥は組織の中で利害や立場によって分かれた集まりに使いやすい。
- イ 派閥は共通の目的のために約束して協力する結びつき、同盟は組織の中で利害や立場によって分かれた集まりに使いやすい。
- ウ 同盟と派閥は意味の違いがなく、どの文でもそのまま入れ替えられる。
- エ 同盟は派閥の改まった言い方にすぎず、指す内容や使う場面は同じである。

(5) A・Bに入る語の組合せとして、最も適切なものを選びなさい。A「(A)と暮らす」 B「(B)が集まる」

- ア A=親族／B=家族 イ A=家族／B=家族
- ウ A=家族／B=親族 エ A=親族／B=親族

(6) A・Bに入る語の組合せとして、最も適切なものを選びなさい。A「駅前の(A)」 B「(B)向けの雑誌」

- ア A=大衆／B=群衆 イ A=群衆／B=群衆
- ウ A=大衆／B=大衆 エ A=群衆／B=大衆

六 短文で使ってみよう

A カタカナを漢字に直しなさい。

- | | |
|-------------------------------|------------------------------|
| (1) 同じ種でも、コタイごとに模様が少し違う。 | (9) 町には当時の建物がカイクで、写真だけが残る。 |
| (2) 困難なときも支え合った彼は、生涯のメイユウだった。 | (10) タニンの失敗を笑わず、自分の問題として考えた。 |
| (3) 駅前に大きなグンシュウが集まり、道が混雑した。 | (11) 式典には、そのフサイがそろって出席した。 |
| (4) 師から受け継いだリュウハの技を、舞台上で披露した。 | (12) 古い案内文では、成人女性をフジンと表していた。 |
| (5) シュウジンの前で責めず、本人と静かに話した。 | (13) 二つの地域は、ソウゴに助け合う協定を結んだ。 |
| (6) 近代化の過程で、大きなザイバツが形成された。 | (14) 植物は種を通じてシソンを残す。 |
| (7) 山地では、独自の文化を持つブゾクが暮らしている。 | (15) 年の離れたキョウダイが、同じ学校へ通っている。 |
| (8) 制度を動かすカンリョウの役割を学んだ。 | |

B 次の熟語の読みを書きなさい。

- | | | | | |
|---------|---------|---------|---------|---------|
| (16) 自己 | (17) 我々 | (18) 彼女 | (19) 夫婦 | (20) 祖父 |
| () | () | () | () | () |

七 文章の中で考えよう

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

「みんな」の中の一人

生徒会選挙が終わってしばらくすると、学校では「昼休みの過ごし方」について、全校アンケートを取るようになった。図書室を静かに使いたい生徒もいれば、友人と話したい生徒もいる。運動場で遊びたい生徒、教室で休みたい生徒、先生に質問したい生徒もいる。真央は、「学校って、一つの集団だけど、中にはいろいろな個人がいるんだね」と言った。

先生は、駅前の群衆、目的で結ぶ同盟、組織の派閥を例にした。同僚でも意見は一致しない。「己」「我々」「彼ら」と呼び分けるうち、境界が固まることもある。

【アンケートを読むときの注意】 多数と少数を見る／似た回答の理由を比べる／無回答を「意見なし」と決めつけない

アンケート結果を見ると、意見は一つにまとまらなかった。ある群れのように同じ方向へ動いているように見える生徒たちも、よく見ると考えていることは少しずつ違う。悠人は、全体を「みんな」とまとめてしまうだけでは、見えなくなるものがあると思った。皆のためと言いながら、だれかの声を消してしまうこともあるのかもしれない。

一方で、個人の希望だけをすべて通せばよいわけでもない。学校は、多くの人が同じ場所で過ごす社会である。互いに場所や時間を分け合い、他の人の立場も考えなければならない。生徒会では、意見の近い人たちが集まって案を出す場面もあったが、特定の派だけで決めるのではなく、異なる立場の生徒の意見も聞くことになった。

話し合いの最後に、先生は「集団を考えるときは、全体と個人の両方を見ることが大切です」と言った。悠人は、家族や委員会や学校も、それぞれ違う形の集団なのだと思った。人は一人で考えることもできるが、他者と関わる中で、自分の意見を確認めたり変えたりすることもある。集団とは、個人を消すものではなく、個人どうしがどう関わるかを考える場でもあるのだ。

家族にも、夫婦・夫妻、祖父母と孫、兄弟など多様な関係がある。「父母と子」だけを当然とすれば、別の暮らしを見落とす。婦人、妻、夫という呼び名の響きも、時代や場面で異なる。

悠人は、全体を見ることと個人を見することは反対ではないと思った。互いの違いが見えるからこそ、共通の約束を調整できるのだ。

七 文章の中で考えよう（問い）

本文を根拠にして答えなさい。

(1) 本文中から、「一人一人の人」という意味で使われている熟語を抜き出さない。

(2) 「タガイ」を漢字二字で書きなさい。

(3) 本文中の「他者」の意味として最も近いものを選びなさい。

ア 同じ家に住む家族だけ。

イ 必ず敵になる相手。

ウ 自分の心の中の願い。

エ 自分以外の人。

(4) 本文中の「皆のためと言いながら、だれかの声を消してしまうこともある」とは、どのようなことか。

ア 全体のためと言っても、少数の人や一人一人の意見を見落としてしまう場合があるということ。

イ 皆のために考えると、必ず全員の意見が同じになるということ。

ウ 個人の意見はどれも集団には関係がないということ。

エ 全体のことを考えるときは、話し合いをすることはいけないということ。

(5) 全体を「みんな」とまとめるだけでは不十分な理由を 45～55 字で説明しなさい。

(6) 「個人」「集団」の二語を用い、両者の関係を 70～90 字でまとめなさい。

三 漢字の働きを考えよう

(1) **ウ** 集団ではなく、一人の人。

(4) **ア** 血縁や結婚などによってつながる人々。

(2) **ア** 多くの人が一か所に集まったもの。

(5) **ウ** 共通の目的のために、かたい約束を結んで協力すること。

(3) **ウ** 特別な少数の人ではなく、多くの一般の人々。

(6) **ア** 組織の中で、考えや利害によって分かれた集まり。

四 熟語を広げよう

(1) 個人

(8) 家族

(2) 個性

(9) 親族

(3) 個別

(10) 民族

(4) 群衆

(11) 同盟

(5) 群れ

(12) 学派

(6) 大衆

(13) 派閥

(7) 民衆

(14) 同僚

使い分けを確かめよう：個人は一人の人そのものを表し、個性はその人らしい性質や特徴を表しやすい。

五 似た語を使い分けよう

(1) **イ** 個人は一人の人そのものを表し、個性はその人らしい性質や特徴を表しやすい。

例：個人の意見／豊かな個性

(2) **ウ** 群衆は実際に一か所に集まった多くの人を表しやすく、大衆は社会の中の多くの一般の人々を広く表しやすい。

例：駅前の群衆／大衆向けの雑誌

(3) **エ** 家族は一緒に生活したり近い関係にあったりする身近なまとまりを表し、親族は血縁や結婚による広いつながりを表しやすい。

例：家族と暮らす／親族が集まる

(4) **ア** 同盟は共通の目的のために約束して協力する結びつき、派閥は組織の中で利害や立場によって分かれた集まりに使いやすい。

(5) ウ A=家族、B=親族。(3)の使い分けを参照。

(6) エ A=群衆、B=大衆。(2)の使い分けを参照。

六 短文で使ってみよう

(1) 個体	(11) 夫妻
(2) 盟友	(12) 婦人
(3) 群集	(13) 相互
(4) 流派	(14) 子孫
(5) 衆人	(15) 兄弟
(6) 財閥	(16) じこ
(7) 部族	(17) われわれ
(8) 官僚	(18) かのじょ
(9) 皆無	(19) ふうふ
(10) 他人	(20) そふ

七 文章の中で考えよう

- (1) **個人** 本文中では「個人」と表されている。
- (2) **互い**
- (3) **エ** 自分以外の人。
- (4) **ア** 全体のためと言っても、少数の人や一人一人の意見を見落としてしまう場合があるということ。
- (5) **解答例** (47 字)

同じ集団にいる人も希望や理由が異なり、多数だけを見れば少数の声や個人の事情を消してしまうから。

見る点：本文中の判断と、その理由を結びつけていること

- (6) **解答例** (81 字)

集団は個人の違いを消して一つにするものではない。一人一人の希望や事情を知り、互いに場所や時間を分け合える約束を考える場であり、その関わりの中で個人の考えも深まる。

見る点：指定語を用いたこと／本文の具体と結論を結んだこと

第十三回

時間と時期

一秒から季節まで、言葉が切り取る時間の幅を見る。

今日の中心漢字

秒 暦 頃 暫 瞬 旬 晩 暁

いっしょに覚える漢字

春	夏	秋	冬	季	昨
翌	未	既	昔	暗	明

瞬間・時期、暫定・未定などの違いを確かめたあと、予定としての時間と経験される時間を考える文章を読みます。

意味の芯 → 熟語 → 使い分け → 短文 → 文章

一 今日の中心漢字の芯

字	主な読み	意味の芯／熟語	字	主な読み	意味の芯／熟語
秒	ピョウ	ごく短い時間の単位 秒・秒針・秒速・秒読み	瞬	シュン・またたく	またたくほど短い時 瞬間・一瞬・瞬時・瞬発
暦	レキ・こよみ	日・月・年を数えるもの 暦・西暦・旧暦・暦年	旬	ジュン	十日間／ちょうどよい時期 上旬・中旬・下旬・旬
頃	ケイ・ころ	ある時期／ちょうどよい時 頃・日頃・年頃・頃合い	晩	バン	夜／時期のおそいころ 晩・今晚・晩年・早晩
暫	ザン・しばらく	しばらく／少しの間 暫く・暫時・暫定・暫定的	暁	ギョウ・あかつき	夜明け／物事が実現した時 暁・払暁・暁天・成功の暁

二 いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の方向／熟語	字	主な読み	意味の方向／熟語
春	シュン・はる	はる 春・春分・青春	翌	ヨク	次の時 翌日・翌年・翌朝
夏	カ・なつ	なつ 夏・夏季・初夏	未	ミ・いまだ	まだそうでない 未来・未定・未熟
秋	シュウ・あき	あき 秋・秋分・晩秋	既	キ・すでに	すでにそうである 既に・既成・既読
冬	トウ・ふゆ	ふゆ 冬・冬季・越冬	昔	セキ・むかし	以前の時 昔・昔話・昔日
季	キ	時期の区切り 季節・四季・季語	暗	アン・くらい	くらい／はっきり見えない 暗い・暗記・暗示
昨	サク	一つ前の時 昨日・昨年・昨今	明	メイ・あかり	あかるい／はっきりする 明るい・明日・説明

三 漢字の働きを考えよう

次の問いに答えなさい。

(1) 「秒」に共通する意味として最も近いものを選びなさい。

- ア 季節を表す言葉。
- イ まだ決まっていない予定。
- ウ 昔から続く物語。
- エ ごく短い時間の単位。

(2) 「暦」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア 人の意見をまとめるための会議。
- イ 日・月・年などを数え、時期を知るためのもの。
- ウ あるものを強く攻撃すること。
- エ ものを借りて返すこと。

(3) 「頃合い」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア 物事がまだ終わっていないこと。
- イ 暗くて何も見えないこと。
- ウ 自分の考えを相手に訴えること。
- エ 時間や時期がちょうどよいこと。

(4) 「暫定」の意味として最も近いものを選びなさい。

- ア 長い年月をかけて受けつがれてきたもの。
- イ 最終決定ではなく、しばらくの間だけ決めておくこと。
- ウ 過去の出来事をすべて忘れること。
- エ 相手に仕事を任せること。

(5) 「一瞬」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア 一年の終わり。
- イ 季節が一回りすること。
- ウ 明るい場所へ移ること。
- エ とても短い時間。

(6) 「下旬」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア 一か月の初めの十日ごろ。
- イ 一か月の終わりの十日ごろ。
- ウ 一か月の中ごろの十日ごろ。
- エ 一年の最初の月。

四 熟語を広げよう

次の文に合う熟語を、語群から選んで書きなさい。

【語群】 秒針 秒速 秒読み 西暦 旧暦 日頃 頃合い 暫定 瞬間 一瞬 上旬 中旬 下旬 晩年

(1) 時計の（ ）が、静かな教室で小さく動いていた。

(8) まだ全員の意見がそろっていないので、今回は（ ）の案として出した。

(2) 風の速さを表すとき、（ ）何メートルという言い方をすることがある。

(9) 名前を呼ばれた（ ）、教室の空気が少し変わった。

(3) 発表の開始まで残りわずかとなり、準備は（ ）に入った。

(10) 強い風が吹き、掲示の紙が（ ）だけ大きく揺れた。

(4) 歴史の年を表すとき、（ ）を使って説明することが多い。

(11) 四月の（ ）に、新しい委員会が始まる。

(5) 昔の行事には、（ ）にもとづいて日を決めるものがある。

(12) 五月の（ ）には、学校祭の準備が本格的になる。

(6) （ ）から本を読んでいる人は、文章を読む速さも少しずつ上がる。

(13) 六月の（ ）までに、発表原稿を完成させる予定だ。

(7) 質問する（ ）を見て、先生に声をかけた。

(14) その作家は（ ）になってからも、多くの作品を書き続けた。

五 似た語を使い分けよう

それぞれの語の違いとして、最も適切なものを選びなさい。

(1) 「瞬間」と「時期」の違いとして最も自然なものを選びなさい。

- ア 時期はとても短い一つの時を表し、瞬間はある程度の幅を持つところを表しやすい。
- イ 瞬間は「成長する（ ）」だけに、時期は「決定の（ ）」だけに使う。
- ウ 「決定の（ ）」と「成長する（ ）」では、瞬間と時期を意味の違いなく入れ替えられる。
- エ 瞬間はとても短い一つの時を表し、時期はある程度の幅を持つところを表しやすい。

(2) 「暫定」と「未定」の違いとして最も自然なものを選びなさい。

- ア 暫定はしばらくの間だけ仮に決めておくこと、未定はまだ決まっていないことを表しやすい。
- イ 未定はしばらくの間だけ仮に決めておくこと、暫定はまだ決まっていないことを表しやすい。
- ウ 暫定は「日時（ ）」だけに、未定は「（ ）の予定」だけに使う。
- エ 「（ ）の予定」と「日時は（ ）」では、暫定と未定を意味の違いなく入れ替えられる。

(3) 「昨年」と「翌年」の違いとして最も自然なものを選びなさい。

- ア 翌年は今年の一つ前の年、昨年はある年の次の年を表す。
- イ 昨年は今年の一つ前の年、翌年はある年の次の年を表す。
- ウ 昨年は「（ ）の計画」だけに、翌年は「（ ）の記録」だけに使う。
- エ 「（ ）の記録」と「（ ）の計画」では、昨年と翌年を意味の違いなく入れ替えられる。

(4) 「暗い」と「未明」の違いとして最も自然なものを選びなさい。

- ア 未明は光が少ない様子を広く表し、暗いは夜が明けきらないころの時刻を表しやすい。
- イ 暗いは「（ ）に出発する」だけに、未明は「部屋が（ ）」だけに使う。
- ウ 暗いは光が少ない様子を広く表し、未明は夜が明けきらないころの時刻を表しやすい。
- エ 「部屋が（ ）」と「（ ）に出発する」では、暗いと未明を意味の違いなく入れ替えられる。

(5) A・Bに入る語の組合せとして、最も適切なものを選びなさい。A「決定の（A）」 B「成長する（B）」

- ア A＝瞬間／B＝時期 イ A＝時期／B＝瞬間
- ウ A＝瞬間／B＝瞬間 エ A＝時期／B＝時期

(6) A・Bに入る語の組合せとして、最も適切なものを選びなさい。A「（A）の記録」 B「（B）の計画」

- ア A＝翌年／B＝昨年 イ A＝昨年／B＝翌年
- ウ A＝昨年／B＝昨年 エ A＝翌年／B＝翌年

六 短文で使ってみよう

A カタカナを漢字に直しなさい。

- | | |
|------------------------------|--------------------------------|
| (1) 警報を聞くと、係員はシュンジに扉を閉めた。 | (9) 祖母から土地に伝わるムカシバナシを聞いた。 |
| (2) 会計は、一月から十二月までのレキネンで集計する。 | (10) 同じ場所でも、キセツによって景色は変わる。 |
| (3) 進路について考え始めるトシゴロになった。 | (11) 年号をアンキするだけでなく、出来事のことを考えた。 |
| (4) コンバンは冷えそうなので、早めに帰宅する。 | (12) キノウ読んだ記事の内容を、友人に説明した。 |
| (5) 雨が弱まるまで、ザンジこの軒下で待った。 | (13) アシタの発表に備え、資料を最終確認した。 |
| (6) 調査隊はフツギョウに宿を出て、山頂へ向かった。 | (14) セイシュン時代の迷いや喜びを描いた小説を読んだ。 |
| (7) 技術が変えるミライの暮らしを想像した。 | (15) 雨が降ったヨクジツ、川の水位を調べた。 |
| (8) トウキは積雪のため、峠の道が閉鎖される。 | |

B 次の熟語の読みを書きなさい。

- | | | | | |
|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| (16) 春分 | (17) 夏季 | (18) 晩秋 | (19) 翌朝 | (20) 既読 |
| () | () | () | () | () |

七 文章の中で考えよう

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

五分を組み立てる

学校祭の準備が始まったのは、五月の中旬だった。生徒会では、展示や発表の日程を決めるために、暦を見ながら予定を立てていた。六月の月上旬にはテーマを決め、中旬には各班の準備を進め、下旬には発表原稿を完成させる。そう考えると、まだ時間はあるようにも見えたが、先生は「日頃の準備が大切です」と言った。

【準備の見通し】春に企画／夏までに資料収集／秋に発表／冬に記録整理／昨年の資料を参照／翌年の委員へ引き継ぐ

計画を立てた晩には、未定の部分がまだ多かった。それでも、既に決まった期限を暦へ書き、季節ごとの区切りを置くと、先の作業が少し明るく見えた。長い一年も、旬や月に分ければ、今日することへ近づいてくる。

悠人の班は、図書室での活動を発表することになった。最初に作った予定は暫定のものだったが、話し合いを重ねるうちに、少しずつ形がはっきりしていった。真央は「発表の時間は五分だから、一秒一秒を大事にしないとね」と言った。悠人は笑ったが、実際に練習してみると、五分は思ったより短かった。

発表の練習中、悠人は一瞬だけ言葉に詰まった。すると、教室が暗くなったように感じた。しかし、次の瞬間、真央が小さくうなずいたのが見えた。その合図で、悠人は落ち着きを取り戻した。時間は、長さだけで決まるものではないのかもしれない。たった一秒でも、心が大きく動くことがある。

発表が終わった翌日、悠人はノートに振り返りを書いた。昔の出来事を調べるときにも、未来の予定を立てるときにも、時間を表す言葉は欠かせない。けれど、秒、旬、頃、暁のように、同じ時間でも言葉によって見ている幅や感じ方が違う。言葉を選ぶことは、時間のどの部分を見つめるかを選ぶことでもあるのだ。

発表の前日は、夜明け前の暁まで練習したわけではない。早めに切り上げ、翌朝に確認する余白を残した。時間を大切にすることは、すべてを急いで詰め込むことではなく、休む時期も含めて順序を組み立てることだった。

一瞬の沈黙は長く感じられ、楽しい五分は短く感じられる。時計が測る長さと、人が経験する長さは同じではない。悠人は、秒や頃だけでなく、暗い未明、明るい朝といった表現が、時間に情景まで与えることに気づいた。

七 文章の中で考えよう（問い）

本文を根拠にして答えなさい。

(1) 本文中から、「一か月の中ごろの十日ごろ」という意味で使われている熟語を抜き出しなさい。

(2) 「ザンテイ」を漢字二字で書きなさい。

(3) 本文中の「一瞬」の意味として最も近いものを選びなさい。

ア とても短い時間。

イ 一年の終わり。

ウ 昔から続く行事。

エ まだ決まっていない予定。

(4) 本文中の「まだ時間はあるようにも見えた」とは、どのようなことか。

ア 発表の準備はすでに完全に終わっていたということ。

イ 予定を見ると、発表まで日数が残っているように感じられたということ。

ウ 暦を見ても、日程は何も分からなかったということ。

エ 六月の下旬は、五月の中旬より前だということ。

(5) 本文が、時間には異なる捉え方があると示す例を 45～55 字で説明しなさい。

(6) 「瞬間」「時期」の二語を用い、時間を表す言葉の働きを 70～90 字でまとめなさい。

三 漢字の働きを考えよう

(1) **エ** ごく短い時間の単位。

(4) **イ** 最終決定ではなく、しばらくの間だけ決めておくこと。

(2) **イ** 日・月・年などを数え、時期を知るためのもの。

(5) **エ** とても短い時間。

(3) **エ** 時間や時期がちょうどよいこと。

(6) **イ** 一か月の終わりの十日ごろ。

四 熟語を広げよう

(1) 秒針

(8) 暫定

(2) 秒速

(9) 瞬間

(3) 秒読み

(10) 一瞬

(4) 西暦

(11) 上旬

(5) 旧暦

(12) 中旬

(6) 日頃

(13) 下旬

(7) 頃合い

(14) 晩年

使い分けを確かめよう：瞬間はとても短い一つの時を表し、時期はある程度の幅を持つころを表しやすい。

五 似た語を使い分けよう

(1) **エ** 瞬間はとても短い一つの時を表し、時期はある程度の幅を持つことを表しやすい。

例：決定の瞬間／成長する時期

(2) **ア** 暫定はしばらくの間だけ仮に決めておくこと、未定はまだ決まっていないことを表しやすい。

例：暫定の予定／日時は未定

(3) **イ** 昨年は今年の一つ前の年、翌年はある年の次の年を表す。

例：昨年の記録／翌年の計画

(4) **ウ** 暗いは光が少ない様子を広く表し、未明は夜が明けきらないころの時刻を表しやすい。

例：部屋が暗い／未明に出発する

(5) **ア** A＝瞬間、B＝時期。(1)の使い分けを参照。

(6) **イ** A＝昨年、B＝翌年。(3)の使い分けを参照。

六 短文で使ってみよう

(1) 瞬時	(11) 暗記
(2) 暦年	(12) 昨日
(3) 年頃	(13) 明日
(4) 今晚	(14) 青春
(5) 暫時	(15) 翌日
(6) 払暁	(16) しゅんぶん
(7) 未来	(17) かき
(8) 冬季	(18) ばんしゅう
(9) 昔話	(19) よくあさ
(10) 季節	(20) きどく

七 文章の中で考えよう

- (1) **中旬** 本文中では「中旬」と表されている。
- (2) **暫定**
- (3) **ア** とても短い時間。
- (4) **イ** 予定を見ると、発表まで日数が残っているように感じられたということ。
- (5) **解答例** (50 字)

時計では同じ一秒でも、発表中に言葉へ詰まった瞬間は長く感じられ、心の動きによって経験の長さが変わる。

見る点：本文中の判断と、その理由を結びつけていること

- (6) **解答例** (77 字)

瞬間はごく短い一点を示し、時期はある程度の幅を持つことを示す。目的に合う言葉を選べば、出来事の順序だけでなく、準備の見通しやその場で感じた時間まで表せる。

見る点：指定語を用いたこと／本文の具体と結論を結んだこと

第十四回

自然の変化

現象を言い分け、変化の前後にある条件をたどる。

今日の中心漢字

雲 霧 露 雷 震 凍 凝 乾

いっしょに覚える漢字

湿	暖	寒	暑	涼	煙
炎	災	害	砂	粉	泥

雲・霧・露、凍結・凝固などを使い分けたあと、自然現象を記録し、変化の道筋を読み取る文章を読みます。

意味の芯 → 熟語 → 使い分け → 短文 → 文章

一 今日の中心漢字の芯

字	主な読み	意味の芯／熟語	字	主な読み	意味の芯／熟語
雲	ウン・くも	空に浮かぶ細かな水滴や水の集まり 雲・雲海・雲行き・暗雲	震	シン・ふるう	ゆれ動く 震える・地震・震動・震源
霧	ム・きり	空気中の細かな水滴が地表近くをおおうもの 霧・濃霧・霧雨・五里霧中	凍	トウ・こおる	こおる／こごえる 凍る・冷凍・凍結・解凍
露	ロ・つゆ	空気中の水分が物の表面についたもの 露・朝露・露天・結露	凝	ギョウ・こる	一つに集まる／固まる 凝る・凝固・凝結・凝視
雷	ライ・かみなり	雲の中などで起こる電気による光や音 雷・雷雨・雷鳴・落雷	乾	カン・かわく	水分がなくなる 乾く・乾燥・乾季・乾杯

二 いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の方向／熟語	字	主な読み	意味の方向／熟語
湿	シツ・しめる	水分を含む 湿る・湿気・湿度	炎	エン・ほのお	燃え上がる火 炎・火炎・炎上
暖	ダン・あたたか	あたたかい 暖かい・暖気・暖房	災	サイ・わざわい	人を苦しめる出来事 災い・災害・防災
寒	カン・さむい	さむい 寒い・寒気・寒波	害	ガイ	傷つける／損なう 害・被害・有害
暑	ショ・あつい	気温が高い 暑い・猛暑・残暑	砂	サ・すな	細かな石の粒 砂・砂浜・砂漠
涼	リョウ・すずしい	ほどよく冷たい 涼しい・涼風・清涼	粉	フン・デシメートル	細かな粒 粉・粉末・花粉
煙	エン・けむる	物が燃えて出る気体 煙・煙突・喫煙	泥	デイ・どろ	水を含んだ土 泥・泥水・泥沼

三 漢字の働きを考えよう

次の問いに答えなさい。

(1) 「雲」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア 空に浮かぶ細かな水滴や氷の粒の集まり。
- イ 地表近くの空気にだけ含まれる砂の集まり。
- ウ 物が燃えたあとに残る灰だけを集めたもの。
- エ 地面の水分が完全になくなった状態。

(2) 「濃霧」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア 強い日差しによって地面が乾くこと。
- イ 空高く浮かぶ大きな雲の集まり。
- ウ 濃く立ちこめ、遠くが見えにくくなる霧。
- エ 雷が落ちて地面が大きく揺れること。

(3) 「朝露」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア 朝、草や葉などの表面についた水滴。
- イ 朝の空に浮かぶ黒い雲。
- ウ 朝早くから降り続く強い雨。
- エ 夜の間に地面へ積もった砂。

(4) 「雷鳴」の意味として最も近いものを選びなさい。

- ア 地面が大きく揺れること。
- イ 強い風によって木が折れること。
- ウ 雷によって聞こえる大きな音。
- エ 水が冷えて固まること。

(5) 「凍結」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア 液体などが冷えて、こおり固まること。
- イ 水分が熱によって蒸発すること。
- ウ 細かな粒が空中に飛び散ること。
- エ 物の表面に水滴がつくこと。

(6) 「凝固」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア 固体が熱によって液体になること。
- イ 雲が風に流されて消えること。
- ウ 液体などが固まった状態になること。
- エ 地面の砂が水をすべて吸い込むこと。

四 熟語を広げよう

次の文に合う熟語を、語群から選んで書きなさい。

【語群】 雲海 濃霧 朝露 雷鳴 地震 凍結 凝固 乾燥 湿度 暖冬 寒波 猛暑 涼風 煙突

(1) 山頂から見下ろすと、雲が海のように広がる
() が見えた。

(8) 空気が () する季節には、火の扱いに注意する
必要がある。

(2) 朝から () が立ちこめ、遠くの建物が見えにく
かった。

(9) 空気中に含まれる水分の割合を () という。

(3) 草の葉についた () が、朝日に照らされて光っ
ていた。

(10) 冬になっても気温の高い日が続く年を () とい
う。

(4) 空が急に暗くなり、遠くから大きな () が聞こ
えてきた。

(11) 強い冷たい空気が広い範囲へ流れ込むことを
() という。

(5) 大きな () に備えて、学校では避難訓練を行って
いる。

(12) 夏に非常に暑い日が続くことを () という。

(6) 気温が低くなり、道路の水分が () して滑りや
すくなった。

(13) 木々の間を吹き抜ける () が、汗ばんだ体に心
地よかった。

(7) 液体を冷やすと、しだいに () して固体になる
ものがある。

(14) 工場の () から、白い煙のようなものが上がっ
ていた。

五 似た語を使い分けよう

それぞれの語の違いとして、最も適切なものを選びなさい。

(1) 「雲」と「霧」の違いとして最も自然なものを選びなさい。

- ア 霧は空に浮かぶ水滴や氷の集まり、雲は地表近くの空気中に広がる細かな水滴の集まりを表しやすい。
イ 雲は空に浮かぶ水滴や氷の集まり、霧は地表近くの空気中に広がる細かな水滴の集まりを表しやすい。
ウ 雲は「地表に（ ）が出る」だけに、霧は「空に（ ）が浮かぶ」だけに使う。
エ 「空に（ ）が浮かぶ」と「地表に（ ）が出る」では、雲と霧を意味の違いなく入れ替えられる。

(2) 「凍る」と「凝固する」の違いとして最も自然なものを選びなさい。

- ア 凝固するは主に水分を含むものが冷えて固まること、凍るは液体などが固体になる変化を広く表しやすい。
イ 凍るは「液体が（ ）」だけに、凝固するは「水が（ ）」だけに使う。
ウ 凍るは主に水分を含むものが冷えて固まること、凝固するは液体などが固体になる変化を広く表しやすい。
エ 「水が（ ）」と「液体が（ ）」では、凍ると凝固するを意味の違いなく入れ替えられる。

(3) 「乾燥する」と「枯れる」の違いとして最も自然なものを選びなさい。

- ア 枯れるは水分が少なくなること、乾燥するは植物が水分や生命力を失った状態になることに使いやすい。
イ 乾燥するは「草木が（ ）」だけに、枯れるは「空気が（ ）」だけに使う。
ウ 「空気が（ ）」と「草木が（ ）」では、乾燥すると枯れるを意味の違いなく入れ替えられる。
エ 乾燥するは水分が少なくなること、枯れるは植物が水分や生命力を失った状態になることに使いやすい。

(4) 「暑い」と「暖かい」の違いとして最も自然なものを選びなさい。

- ア 暑いのは気温が高く不快さを感じる場合にも使い、暖かいのはほどよく心地よい温度を表す場合に使いやすい。
イ 暖かいのは気温が高く不快さを感じる場合にも使い、暑いのはほどよく心地よい温度を表す場合に使いやすい。
ウ 暑いのは「（ ）部屋」だけに、暖かいのは「蒸し（ ）日」だけに使う。
エ 「蒸し（ ）日」と「（ ）部屋」では、暑いと暖かいを意味の違いなく入れ替えられる。

(5) A・Bに入る語の組合せとして、最も適切なものを選びなさい。A「水が(A)」 B「液体が(B)」

- ア A=凝固する／B=凍る イ A=凍る／B=凍る
ウ A=凍る／B=凝固する エ A=凝固する／B=凝固する

(6) A・Bに入る語の組合せとして、最も適切なものを選びなさい。A「蒸し(A)日」 B「(B)部屋」

- ア A=暖かい／B=暑い イ A=暑い／B=暑い
ウ A=暖かい／B=暖かい エ A=暑い／B=暖かい

六 短文で使ってみよう

A カタカナを漢字に直しなさい。

- | | |
|-------------------------------|------------------------------|
| (1) 計画の先行きにアンウンが垂れ込めた。 | (9) 南から暖かなダンキが流れ込み、気温が上がった。 |
| (2) 大型車が通るたび、床に小さなシンドウが伝わった。 | (10) 急にサムケがして、早めに休むことにした。 |
| (3) 朝から細かなキリサメが降り続けている。 | (11) 大雨によるヒガイの範囲を地図に示した。 |
| (4) 残った料理は、すぐにレイトウして保存した。 | (12) 九月になってもザンショの厳しい日が続いた。 |
| (5) 星空を眺めながら入るロテン風呂は格別だった。 | (13) 森の中には、セイリョウな空気が満ちていた。 |
| (6) 空気中の水蒸気が冷え、細かな水滴ヘギョウケツした。 | (14) 健康のため、室内でのキツエンは禁止されている。 |
| (7) 激しいライウが通り過ぎ、停電が起きた。 | (15) 車のはねたドロミズで、服が汚れた。 |
| (8) 長いカンキには、農作物へ水を運ぶ必要がある。 | |

B 次の熟語の読みを書きなさい。

- | | | | | |
|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| (16) 火炎 | (17) 災害 | (18) 砂浜 | (19) 粉末 | (20) 湿気 |
| () | () | () | () | () |

七 文章の中で考えよう

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

朝の記録が語るもの

学校祭が終わり、季節が秋から冬へ移ろうとしていた。理科の授業で、悠人たちは一週間、毎朝の気温や湿度、空の様子を記録することになった。先生は、「晴れや雨とだけ書くのではなく、見えた変化をできるだけ正確な言葉で残してください」と言った。

【一週間の観測メモ】 暖かい朝／暑い昼／涼しい夕方／乾いた風／窓の結露／水の凝固／雷雨後の泥／校庭に舞う砂と粉じん

別の日には、理科室で水蒸気が冷えて水滴へ凝結する様子も見た。乾燥した空気と湿った空気では、同じ温度でも感じ方が違う。目に見えない水分の量が、霧や露の現れ方を左右していた。

最初の朝、校庭には濃い霧が立ちこめていた。遠くの校舎はかすんで見え、草の葉には細かな朝露がついていた。真央は「霧も露も、空気の中にあった水分からできるんだね」と言った。先生によると、霧は細かな水滴が地表近くの空気中に浮かんできたもので、露は水分が草や物の表面に集まったものだという。

別の日には、空を厚い雲が覆った。午後になると雷鳴が響き、窓ガラスが小さく震えた。雨がやんだあとには寒気が流れ込み、翌朝には校庭の水たまりが凍結していた。前の日まで液体だった水が、気温の低下によって固まったのである。

一週間の記録を並べると、自然の変化は何の前触れもなく起こっていたわけではないことが分かった。霧が出た朝には湿度が高く、水が凍った朝には気温が大きく下がっていた。目に見える出来事の前後には、温度や水分などの条件の変化があったのだ。

悠人は、自然について書くときも、ただ「天気が悪くなった」とまとめるだけでは足りないと思った。雲、霧、露、雷、凍結という言葉は、それぞれ異なる場所や状態の変化を表している。現象を正確な言葉で捉えることで、何がどのように変化したのか、その道筋も見えやすくなるのだ。

校庭の隅には、以前の火災で黒くなった板が保存されていた。乾いた草に炎が移り、煙が広がった記録である。自然災害だけでなく、人の不注意が害を大きくすることもある。現象を知ることは、安全な行動を選ぶ準備にもなる。

雨の後の泥、風で運ばれる砂、空気中の細かな粉まで記録すると、天気は空だけの出来事ではないと分かった。暖寒、乾湿、熱と冷えが地面や建物へ影響し、目に見える変化として現れていた。

七 文章の中で考えよう（問い）

本文を根拠にして答えなさい。

(1) 本文中から、「濃く立ちこめ、遠くが見えにくくなる霧」という意味で使われている熟語を抜き出さない。

(2) 「トウケツ」を漢字二字で書きなさい。

(3) 本文中の「湿度」の意味として最も近いものを選びなさい。

ア 地面に含まれる砂の量。

イ 空気中に含まれる水分の割合。

ウ 雷が聞こえるまでの時間。

エ 風が吹く方向。

(4) 本文中の「自然の変化は何の前触れもなく起こっていたわけではない」とは、どのようなことか。

ア 自然の変化はすべて人の力によって起こされているということ。

イ 記録を見ても、天気が変わった理由は何も分からなかったということ。

ウ 自然の変化には、温度や湿度など、起こる前から変わっていた条件があるということ。

エ 霧や凍結は、気温や水分とは関係なく突然起こるということ。

(5) 一週間の記録から、自然の変化について分かったことを 45～55 字で説明しなさい。

(6) 「湿度」「凍結」の二語を用い、記録が果たす役割を 70～90 字でまとめなさい。

三 漢字の働きを考えよう

- | | |
|----------------------------------|---------------------------------|
| (1) ア 空に浮かぶ細かな水滴や氷の粒の集まり。 | (4) ウ 雷によって聞こえる大きな音。 |
| (2) ウ 濃く立ちこめ、遠くが見えにくくなる霧。 | (5) ア 液体などが冷えて、こおり固まること。 |
| (3) ア 朝、草や葉などの表面についた水滴。 | (6) ウ 液体などが固まった状態になること。 |

四 熟語を広げよう

- | | |
|--------|---------|
| (1) 雲海 | (8) 乾燥 |
| (2) 濃霧 | (9) 湿度 |
| (3) 朝露 | (10) 暖冬 |
| (4) 雷鳴 | (11) 寒波 |
| (5) 地震 | (12) 猛暑 |
| (6) 凍結 | (13) 涼風 |
| (7) 凝固 | (14) 煙突 |

使い分けを確かめよう：雲は空に浮かぶ水滴や氷の集まり、霧は地表近くの空気中に広がる細かな水滴の集まりを表しやすい。

五 似た語を使い分けよう

(1) **イ** 雲は空に浮かぶ水滴や氷の集まり、霧は地表近くの空気中に広がる細かな水滴の集まりを表しやすい。

例：空に雲が浮かぶ／地表に霧が出る

(2) **ウ** 凍るは主に水分を含むものが冷えて固まること、凝固するは液体などが固体になる変化を広く表しやすい。

例：水が凍る／液体が凝固する

(3) **エ** 乾燥するは水分が少なくなること、枯れるは植物が水分や生命力を失った状態になることに使いやすい。

例：空気が乾燥する／草木が枯れる

(4) **ア** 暑いのは気温が高く不快さを感じる場合にも使い、暖かいはほどよく心地よい温度を表す場合に使いやすい。

例：蒸し暑い日／暖かい部屋

(5) **ウ** A＝凍る、B＝凝固する。(2)の使い分けを参照。

(6) **エ** A＝暑い、B＝暖かい。(4)の使い分けを参照。

六 短文で使ってみよう

(1) 暗雲	(11) 被害
(2) 震動	(12) 残暑
(3) 霧雨	(13) 清涼
(4) 冷凍	(14) 喫煙
(5) 露天	(15) 泥水
(6) 凝結	(16) かえん
(7) 雷雨	(17) さいがい
(8) 乾季	(18) すなはま
(9) 暖気	(19) ふんまつ
(10) 寒気	(20) しっけ

七 文章の中で考えよう

- (1) **濃霧** 本文中では「濃霧」と表されている。
- (2) **凍結**
- (3) **イ** 空気中に含まれる水分の割合。
- (4) **ウ** 自然の変化には、温度や湿度など、起こる前から変わっていた条件があるということ。
- (5) **解答例** (48 字)

霧や凍結の前には湿度や気温の変化があり、目に見える現象にはそれを生じさせる条件と道筋があること。

見る点：本文中の判断と、その理由を結びつけていること

- (6) **解答例** (80 字)

毎日の気温や湿度を同じ方法で記録し、霧や凍結が起きた前後と照らせば、現象を生む条件が見えてくる。自然を具体的な言葉で分けることは、安全な行動を選ぶ準備にもなる。

見る点：指定語を用いたこと／本文の具体と結論を結んだこと

第十五回

からだと状態

漠然とした不調を、場所・感覚・変化に分けて伝える。

今日の中心漢字

胃 腸 肺 脳 臓 膜 筋 肝

いっしょに覚える漢字

肩	腕	指	首	頭	毛
皮	息	呼	吸	疲	痛

内臓・臓器、疲労・痛みなどの違いを確かめたあと、体の状態を具体的に捉え、必要な助けへつなぐ文章を読みます。

意味の芯 → 熟語 → 使い分け → 短文 → 文章

一 今日の中心漢字の芯

字	主な読み	意味の芯／熟語	字	主な読み	意味の芯／熟語
胃	イ	食べ物を一時的にたくわえ、消化する器官 胃・胃腸・胃液・胃痛	臓	ゾウ・はらわた	体の内部にある大切な器官 臓器・内臓・心臓・臓物
腸	チョウ・はらわた	消化や吸収に関わる長い器官 腸・腸内・大腸・小腸	膜	マク	物の表面や内部をおおう薄い層 膜・粘膜・鼓膜・網膜
肺	ハイ	呼吸によって空気を取り込む器官 肺・肺活量・肺炎・肺臓	筋	キン・すじ	体を動かす組織／細長く続くもの 筋肉・筋力・筋道・鉄筋
脳	ノウ・のうずる	考えたり、体の働きを調整したりする器官 脳・頭脳・脳裏・脳波	肝	カン・きも	体内の器官／物事の大切なところ 肝臓・肝心・肝要・肝胆

二 いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の方向／熟語	字	主な読み	意味の方向／熟語
肩	ケン・かた	腕と胴をつなぐ部分 肩・肩幅・肩書	皮	ヒ・かわ	物や体の表面をおおうもの 皮・皮膚・表皮
腕	ワン・うで	肩から手まで／能力 腕・腕力・腕前	息	ソク・いき	呼吸する空気／休むこと 息・休息・吐息
指	シ・ゆび	手足の先の細長い部分 指・指先・指紋	呼	コ・よぶ	声をかける／息を出す 呼ぶ・呼吸・呼応
首	シュ・くび	頭と胴をつなぐ部分／中心 首・首筋・首都	吸	キュウ・すう	中へ取り入れる 吸う・吸収・吸引
頭	トウ・あたま	体の上の部分／最初 頭・頭痛・先頭	疲	ヒ・つかれる	力が弱る 疲れる・疲労・疲弊
毛	モウ・け	体や物の表面に生える細いもの 毛・毛髪・羽毛	痛	ツウ・いたい	体や心がつらく感じる 痛い・頭痛・苦痛

三 漢字の働きを考えよう

次の問いに答えなさい。

(1) 「胃腸」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア 呼吸によって空気を取り込む器官。
- イ 食べ物の消化や吸収に関わる胃と腸。
- ウ 考えたり、体の働きを調整したりする器官。
- エ 体の表面をおおう皮膚。

(2) 「肺活量」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア 胃の中に入る食べ物の量。
- イ 筋肉を動かす力の強さ。
- ウ 体内にある臓器の数。
- エ 大きく息を吸ったあとに吐き出せる空気の数。

(3) 「頭脳」の意味として最も近いものを選びなさい。

- ア 肩から指先までの部分。
- イ 考えたり判断したりする知的な働き。
- ウ 食べ物を消化する働き。
- エ 体をおおう薄い膜。

(4) 「臓器」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア 体の表面に生えている毛。
- イ 運動したあとに感じる疲れ。
- ウ 息を吸ったり吐いたりする動きだけ。
- エ 体の中にあり、それぞれの働きを受け持つ器官。

(5) 「粘膜」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア 骨と骨をつないでいる固い部分。
- イ 口や鼻、胃腸などの内側をおおう、湿り気のある膜。
- ウ 体の外側に生えている毛。
- エ 体を動かすために縮んだりゆるんだりする組織。

(6) 「肝心」の意味として最も近いものを選びなさい。

- ア 体の中にある肝臓と心臓。
- イ 体が疲れて動けなくなること。
- ウ 相手の話を聞かずに判断すること。
- エ 物事の中で、特に大切なこと。

四 熟語を広げよう

次の文に合う熟語を、語群から選んで書きなさい。

【語群】 胃腸 胃痛 腸内 肺活量 肺炎 頭脳 脳裏 臓器 内臓 粘膜 筋肉 筋力 肝臓 肝心

(1) 食べすぎると、() に負担がかかることがある。

(8) 胃や肺、心臓などは、それぞれ異なる働きを持つ() である。

(2) 緊張したときに、急な() を感じる人もいる。

(9) 体の内部にある器官をまとめて() と呼ぶ。

(3) () の環境は、食生活などによって変わることがある。

(10) 鼻や口の内側は、湿り気のある() でおおわれている。

(4) 体育の授業で、息をどれくらい吐き出せるかを調べる() の測定を行った。

(11) 運動すると、体を動かす() が縮んだりゆるんだりする。

(5) 細菌やウイルスなどによって肺に炎症が起こる病気を() という。

(12) 荷物を持ち上げるためには、腕や足の() が必要になる。

(6) 複雑な問題を解くために、班の() を集めて考えた。

(13) () は、体の中でさまざまな物質を処理する大切な器官である。

(7) 昔見た景色が、今でも() に浮かぶ。

(14) 練習の量を増やすことより、正しい方法で続けることが() だ。

五 似た語を使い分けよう

それぞれの語の違いとして、最も適切なものを選びなさい。

(1) 「内臓」と「臓器」の違いとして最も自然なものを選びなさい。

- ア 臓器は体の内部にある器官をまとめて表しやすく、内臓は一定の形と働きを持つ一つ一つの器官を表しやすい。
イ 内臓は「一つの（ ）」だけに、臓器は「（ ）を調べる」だけに使う。
ウ 「（ ）を調べる」と「一つの（ ）」では、内臓と臓器を意味の違いなく入れ替えられる。
エ 内臓は体の内部にある器官をまとめて表しやすく、臓器は一定の形と働きを持つ一つ一つの器官を表しやすい。

(2) 「筋肉」と「筋力」の違いとして最も自然なものを選びなさい。

- ア 筋肉は体を動かす組織、筋力は筋肉が力を出す能力を表しやすい。
イ 筋力は体を動かす組織、筋肉は筋肉が力を出す能力を表しやすい。
ウ 筋肉は「（ ）を鍛える」だけに、筋力は「（ ）を動かす」だけに使う。
エ 「（ ）を動かす」と「（ ）を鍛える」では、筋肉と筋力を意味の違いなく入れ替えられる。

(3) 「息」と「呼吸」の違いとして最も自然なものを選びなさい。

- ア 呼吸は吸ったり吐いたりする空気やその様子を身近に表し、息は空気を吸って吐く体の働きをまとまりとして表しやすい。
イ 息は吸ったり吐いたりする空気やその様子を身近に表し、呼吸は空気を吸って吐く体の働きをまとまりとして表しやすい。
ウ 息は「深く（ ）する」だけに、呼吸は「（ ）を整える」だけに使う。
エ 「（ ）を整える」と「深く（ ）する」では、息と呼吸を意味の違いなく入れ替えられる。

(4) 「疲労」と「痛み」の違いとして最も自然なものを選びなさい。

- ア 痛みは体や心の力が弱った状態を表し、疲労は体や心に苦しさや刺激を感じる状態を表す。
イ 疲労と痛みは意味の違いがなく、どの文でもそのまま入れ替えられる。
ウ 疲労は体や心の力が弱った状態を表し、痛みは体や心に苦しさや刺激を感じる状態を表す。
エ 疲労は痛みの改まった言い方にすぎず、指す内容や使う場面は同じである。

(5) A・Bに入る語の組合せとして、最も適切なものを選びなさい。A「（A）を整える」 B「深く（B）する」

- ア A=息／B=呼吸 イ A=呼吸／B=息
ウ A=息／B=息 エ A=呼吸／B=呼吸

(6) A・Bに入る語の組合せとして、最も適切なものを選びなさい。A「（A）を動かす」 B「（B）を鍛える」

- ア A=筋力／B=筋肉 イ A=筋肉／B=筋力
ウ A=筋肉／B=筋肉 エ A=筋力／B=筋力

六 短文で使ってみよう

A カタカナを漢字に直しなさい。

- | | |
|-----------------------------|---------------------------------|
| (1) 食べ物を分解するイエキが、胃の中で分泌される。 | (9) 上着を選ぶため、肩から肩までのカタハバを測った。 |
| (2) 運動の前後で、シンゾウの鼓動を確かめた。 | (10) 皮膚の最も外側をヒョウヒという。 |
| (3) ダイチョウでは、水分の吸収が行われる。 | (11) 重い荷物を運ぶには、かなりのワンリョクが要る。 |
| (4) 大きな音でコマクを傷めないよう注意する。 | (12) 鳥の声にコオウするように、森の奥から鳴き声が返った。 |
| (5) 古い医学書では、肺をハイゾウと呼ぶ例がある。 | (13) 人口と政治の中心となる都市をシュトと呼ぶ。 |
| (6) 説明のスジミチを整えると、結論が伝わりやすい。 | (14) 植物の根は、土から水分をキュウシュウする。 |
| (7) 検査でノウハを測り、脳の活動を調べた。 | (15) 朝からズツウが続いたため、無理をせず休んだ。 |
| (8) 体調を整えるには、十分な睡眠がカンヨウだ。 | |

B 次の熟語の読みを書きなさい。

- | | | | | |
|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|
| (16) 指紋 | (17) 毛髪 | (18) 休息 | (19) 疲労 | (20) 苦痛 |
| () | () | () | () | () |

七 文章の中で考えよう

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

体の合図を言い分ける

冬のある日、体育の授業で持久走が行われた。悠人たちは運動場を何周か走り、走る前と走ったあとの体の変化を記録することになった。先生は、「速さだけでなく、呼吸や筋肉の状態にも注意してください」と言った。

先生は人体図を示した。頭の中の脳、臓器を包む膜、曲げ伸ばしする腕や指、重い頭を支える首。体の表面には皮膚があり、細かな毛も生えている。外から見える部分と見えない部分は別々ではなく、呼吸や運動の中で結びついている。

【体調を伝える四つの手がかり】場所＝どこか／感覚＝重い・鋭い・熱いなど／経過＝いつからどう変わったか／行動＝休むと軽くなるか

走り終わった悠人は、肩で大きく息をしていた。呼吸は速くなり、足の筋肉には重い疲労を感じた。真央は、「疲れた、とだけ書くより、どこがどのような状態なのかを書いたほうが分かりやすいね」と言った。悠人は、息が速いこと、ふくらはぎが重いこと、少し休むと楽になったことを順に記録した。

授業のあと、保健室の先生が体の仕組みについて説明した。肺は呼吸によって空気を取り込み、体に必要な酸素を受け渡す。胃や腸、肝臓などの内臓も、目には見えないところでそれぞれの働きを続けている。筋肉だけでなく、さまざまな臓器の働きが合わさることで、人は走ったり考えたりできるのだという。

そのとき、一人の生徒が足に鋭い痛みを感じると言った。先生は、ただの疲労だと決めつけず、運動を止めて状態を確かめた。「疲れ」と「痛み」は似ているようでも同じではない。無理を続ければよいわけではなく、自分の体がどんな合図を出しているのかを見分けることが肝心なのだ。

悠人は、体について考えるときにも、正確な言葉が必要なのだと思った。「具合が悪い」「疲れた」だけでは、相手に十分伝わらないことがある。呼吸、胃痛、頭痛、筋肉の疲労など、場所や状態を分けて表すことで、自分の体を理解し、必要な助けを求めやすくなるのだ。

体の合図を細かく言うことは、病名を自分で決めることではない。胃が痛むのか、胸が苦しいのか、息が浅いのかを伝えれば、周囲は次に何を確かめるべきか考えやすい。分からない部分を分からないまま伝えることも大切である。

悠人は、無理をする強さより、状態の変化に気づいて助けを求める力を覚えておきたいと思った。肝心なのは、我慢の長さを競うことではなく、自分の体を守りながら動き続ける方法を知ることだった。

七 文章の中で考えよう（問い）

本文を根拠にして答えなさい。

(1) 本文中から、「体の内部にある器官をまとめたもの」という意味で使われている熟語を抜き出しなさい。

(2) 「コキュウ」を漢字二字で書きなさい。

(3) 本文中の「筋肉」の意味として最も近いものを選びなさい。

- ア 食べ物を一時的にたくわえる器官。
- イ 空気を吸ったり吐いたりする器官そのもの。
- ウ 体を動かすために、縮んだりゆるんだりする組織。
- エ 体の表面に生えている毛。

(4) 本文中の「『疲れた』とだけ書くより、どこがどのような状態なのかを書いたほうが分かりやすい」とは、どのようなことか。

- ア 体の状態を伝えるときは、感じたことを何も書かないほうがよいということ。
- イ 疲れを感じたら、必ず重い病気だと考えるべきだということ。
- ウ 運動の記録では、速さ以外のことを書いてはいけないということ。
- エ 体のどの部分に、どのような変化が起きたかを具体的に表すほうが、状態を正確に伝えられるということ。

(5) 疲労と痛みを分けて確かめる必要がある理由を 45～55 字で説明しなさい。

(6) 「呼吸」「状態」の二語を用い、体調を伝える方法を 70～90 字でまとめなさい。

三 漢字の働きを考えよう

(1) **イ** 食べ物の消化や吸収に関わる胃と腸。

(4) **エ** 体の中にあり、それぞれの働きを受け持つ器官。

(2) **エ** 大きく息を吸ったあとに吐き出せる空気の量。

(5) **イ** 口や鼻、胃腸などの内側をおおう、湿り気のある膜。

(3) **イ** 考えたり判断したりする知的な働き。

(6) **エ** 物事の中で、特に大切なこと。

四 熟語を広げよう

(1) 胃腸

(8) 臓器

(2) 胃痛

(9) 内臓

(3) 腸内

(10) 粘膜

(4) 肺活量

(11) 筋肉

(5) 肺炎

(12) 筋力

(6) 頭脳

(13) 肝臓

(7) 脳裏

(14) 肝心

使い分けを確かめよう：内臓は体の内部にある器官をまとめて表しやすく、臓器は一定の形と働きを持つ一つ一つの器官を表しやすい。

五 似た語を使い分けよう

(1) **エ** 内臓は体の内部にある器官をまとめて表しやすく、臓器は一定の形と働きを持つ一つ一つの器官を表しやすい。

例：内臓を調べる／一つの臓器

(2) **ア** 筋肉は体を動かす組織、筋力は筋肉が力を出す能力を表しやすい。

例：筋肉を動かす／筋力を鍛える

(3) **イ** 息は吸ったり吐いたりする空気やその様子を身近に表し、呼吸は空気を吸って吐く体の働きをまとまりとして表しやすい。

例：息を整える／深く呼吸する

(4) **ウ** 疲労は体や心の力が弱った状態を表し、痛みは体や心に苦しさや刺激を感じる状態を表す。

(5) **ア** A＝息、B＝呼吸。(3)の使い分けを参照。

(6) **イ** A＝筋肉、B＝筋力。(2)の使い分けを参照。

六 短文で使ってみよう

(1) 胃液	(11) 腕力
(2) 心臓	(12) 呼応
(3) 大腸	(13) 首都
(4) 鼓膜	(14) 吸収
(5) 肺臓	(15) 頭痛
(6) 筋道	(16) しもん
(7) 脳波	(17) もうはつ
(8) 肝要	(18) きゅうそく
(9) 肩幅	(19) ひろう
(10) 表皮	(20) くつう

七 文章の中で考えよう

(1) **内臓** 本文中では「内臓」と表されている。

(2) **呼吸**

(3) **ウ** 体を動かすために、縮んだりゆるんだりする組織。

(4) **エ** 体のどの部分に、どのような変化が起きたかを具体的に表すほうが、状態を正確に伝えられるということ。

(5) **解答例** (54 字)

似て見えても原因や必要な対応が異なり、痛みを疲れと決めつけて運動を続けると状態を悪化させるおそれがあるから。

見る点：本文中の判断と、その理由を結びつけていること

(6) **解答例** (82 字)

体調を伝えるときは、呼吸の速さや痛む場所、いつからどう変化したかなど、体の状態を具体的に分けて述べる。分からない点も含めて伝えれば、周囲が必要な助けを判断しやすい。

見る点：指定語を用いたこと／本文の具体と結論を結んだこと

第十六回

生活と物

身近な物から、材料・仕事・流通のつながりをたどる。

今日の中心漢字

皿 杯 箸 箱 袋 札 帳 券

いっしょに覚える漢字

窓	屋	階	館	宿	舎
店	商	品	貨	財	材

皿と食器、札と券、商品と材料などを使い分けたあと、生活の物を支える人や仕組みについて考えます。

意味の芯 → 熟語 → 使い分け → 短文 → 文章

一 今日の中心漢字の芯

字	主な読み	意味の芯／熟語	字	主な読み	意味の芯／熟語
皿	ペイ・さら	食べ物などをのせる平たい器 皿・小皿・皿洗い・灰皿	袋	タイ・ふくろ	物を入れる、やわらかな入れ物 袋・紙袋・手袋・寝袋
杯	ハイ・さかずき	飲み物を入れる器／回数を数える言葉 杯・一杯・乾杯・優勝杯	札	サツ・ふだ	文字などを書いた板や紙片 名札・札・改札・札束
箸	チョ・はし	食べ物をはさんで取る細い道具 箸・菜箸・割り箸・箸置き	帳	チョウ・とばり	紙をとじたもの／記録を書きつけるもの 手帳・通帳・台帳・帳簿
箱	ソウ・はこ	物を入れる、四角い形の容器 箱・箱庭・宝箱・収納箱	券	ケン	一定の権利や資格を示す紙など 入場券・乗車券・商品券・食券

二 いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の方向／熟語	字	主な読み	意味の方向／熟語
窓	ソウ・まど	光や風を取り入れる所 窓・窓口・車窓	店	テン・みせ	品物などを売る所 店・書店・商店
屋	オク・や	建物／店を表す 屋根・屋上・本屋	商	ショウ・あきなう	品物を売り買いする 商売・商業・商人
階	カイ・きざはし	建物の上下の区切り 階段・二階・段階	品	ヒン・しな	形のある物／質 品物・商品・作品
館	カン・やかた	多くの人を使う建物 図書館・会館・旅館	貨	カ・たから	売り買いされる物 貨物・貨幣・百貨店
宿	シュク・やど	泊まる所 宿・宿泊・下宿	財	ザイ・たから	価値のある物 財産・財政・文化財
舎	シャ・やどる	建物 校舎・宿舍・駅舎	材	ザイ	物を作るもと 材料・木材・人材

三 漢字の働きを考えよう

次の問いに答えなさい。

(1) 「食器」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア 商品を運ぶための大きな車。
- イ 建物の上り下りに使う階段。
- ウ 食事のときに使う皿・茶わん・箸など。
- エ 泊まるために用意された建物。

(2) 「乾杯」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア 祝いなどのとき、杯を上げて飲むこと。
- イ 飲み物をすべて乾かしてしまうこと。
- ウ 使った皿を洗って片づけること。
- エ 食事に使う箸を数えること。

(3) 「改札」の意味として最も近いものを選びなさい。

- ア 名前を書いた札を胸につけること。
- イ 古い帳面を新しく作り直すこと。
- ウ 駅などで乗車券を確認することや、その場所。
- エ 店に並ぶ商品の値段を決めること。

(4) 「台帳」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア 大切な事項をまとめて記録する帳面。
- イ 食べ物をのせる大きな皿。
- ウ 旅行に必要な物を入れる袋。
- エ 建物の模型を置く台。

(5) 「商品券」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア 品物を箱に入れて運ぶための紙。
- イ 商品の名前を書くための名札。
- ウ 決められた店などで、商品を買うために使える券。
- エ 店で働く人の予定を書いた手帳。

(6) 「材料」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア 物を作るもとなるもの。
- イ 完成した品物を買うための店。
- ウ 泊まるために使う建物。
- エ 売り買いされた物を記録する券。

四 熟語を広げよう

次の文に合う熟語を、語群から選んで書きなさい。

【語群】 皿洗い 乾杯 割り箸 収納箱 紙袋 名札 改札 手帳 台帳 入場券 乗車券 宿舎 商品 材料

- | | |
|--------------------------------|-------------------------------|
| (1) 食事のあと、使った食器の（ ）を手伝った。 | (8) 忘れないよう、予定を小さな（ ）に書いた。 |
| (2) 大会での成功を祝い、飲み物を手にして（ ）した。 | (9) 図書室では、購入した本を（ ）に記録している。 |
| (3) 弁当には、木でできた（ ）が添えられていた。 | (10) 会場に入る前に、受付で（ ）を見せた。 |
| (4) 使わない道具は、種類ごとに（ ）へ入れた。 | (11) 電車に乗るため、駅の機械で（ ）を買った。 |
| (5) 買った本を店の（ ）に入れてもらった。 | (12) 合宿では、学校が用意した（ ）に泊まった。 |
| (6) 初対面の人にも名前が分かるよう、胸に（ ）をつけた。 | (13) 店には、季節に合わせた新しい（ ）が並んでいた。 |
| (7) 駅の（ ）で切符を機械に通した。 | (14) 木の机を作るために、必要な（ ）をそろえた。 |

五 似た語を使い分けよう

それぞれの語の違いとして、最も適切なものを選びなさい。

(1) 「皿」と「食器」の違いとして最も自然なものを選びなさい。

- ア 食器は食べ物をのせる平たい器を表し、皿は皿・茶わん・箸など食事に使う道具全体を表しやすい。
- イ 皿は食べ物をのせる平たい器を表し、食器は皿・茶わん・箸など食事に使う道具全体を表しやすい。
- ウ 皿は「()を洗う」だけに、食器は「料理を()に盛る」だけに使う。
- エ 「料理を()に盛る」と「()を洗う」では、皿と食器を意味の違いなく入れ替えられる。

(2) 「箱」と「袋」の違いとして最も自然なものを選びなさい。

- ア 袋は比較的形が定まった容器、箱は布や紙などでできた、形を変えやすい入れ物を表しやすい。
- イ 箱は「紙()に入れる」だけに、袋は「木()に収める」だけに使う。
- ウ 箱は比較的形が定まった容器、袋は布や紙などでできた、形を変えやすい入れ物を表しやすい。
- エ 「木()に収める」と「紙()に入れる」では、箱と袋を意味の違いなく入れ替えられる。

(3) 「札」と「券」の違いとして最も自然なものを選びなさい。

- ア 券は文字や印を書いて示す板や紙片を広く表し、札は入場・乗車・購入などの権利を示すものに使いやすい。
- イ 札は「乗車()を買う」だけに、券は「名()を付ける」だけに使う。
- ウ 「名()を付ける」と「乗車()を買う」では、札と券を意味の違いなく入れ替えられる。
- エ 札は文字や印を書いて示す板や紙片を広く表し、券は入場・乗車・購入などの権利を示すものに使いやすい。

(4) 「商品」と「材料」の違いとして最も自然なものを選びなさい。

- ア 商品は売るために用意された品物、材料は物を作るもとになるものを表しやすい。
- イ 材料は売るために用意された品物、商品は物を作るもとになるものを表しやすい。
- ウ 商品と材料は意味の違いがなく、どの文でもそのまま入れ替えられる。
- エ 商品は材料の改まった言い方にすぎず、指す内容や使う場面は同じである。

(5) A・Bに入る語の組合せとして、最も適切なものを選びなさい。A「料理を(A)に盛る」 B「(B)を洗う」

- ア A=食器/B=皿 イ A=皿/B=皿
- ウ A=皿/B=食器 エ A=食器/B=食器

(6) A・Bに入る語の組合せとして、最も適切なものを選びなさい。A「名(A)を付ける」 B「乗車(B)を買う」

- ア A=券/B=札 イ A=札/B=札
- ウ A=券/B=券 エ A=札/B=券

六 短文で使ってみよう

A カタカナを漢字に直しなさい。

- | | |
|-----------------------------|-------------------------------|
| (1) 薬味は小さなコザラに分けて出した。 | (9) 駅前のショテンで、参考書を探した。 |
| (2) 寒い朝は、厚いテブクロを着けて出かける。 | (10) 台風でヤネの一部が壊れ、修理を頼んだ。 |
| (3) 机の上に大きなサツタバが置かれていた。 | (11) 理解のダンカイに合わせて、課題の難しさを変えた。 |
| (4) 鍋の具を取り分けるため、長いサイバシを使った。 | (12) 忘れ物のシナモノを、受付で確認した。 |
| (5) 銀行のカヨイチョウに、入金記録が残っている。 | (13) 放課後はトショカンで、郷土の新聞を調べた。 |
| (6) 小さなハコニワに、山や川の景色を表した。 | (14) 旅行先では、古い旅館にシュクハクした。 |
| (7) 入口の機械でショッケンを買った。 | (15) 祖母は長年、町で小さなショウバイを続けた。 |
| (8) 相談は一階のマドグチで受け付けている。 | |

B 次の熟語の読みを書きなさい。

- | | | | | |
|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|
| (16) 貨物 | (17) 財産 | (18) 木材 | (19) 校舎 | (20) 商業 |
| () | () | () | () | () |

七 文章の中で考えよう

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

一枚の皿の向こう

家庭科の授業で、悠人たちは「生活の中の道具」を調べることになった。先生は教室の机に、皿、杯、箸、紙袋、木箱、手帳、乗車券などを並べた。どれも毎日の生活で見かける物だが、改めて比べてみると、形や材料、使い方は大きく異なっていた。

班は学校の外へ出て、物が置かれる場所も観察した。窓の大きな店、古い商家の屋内、二階の資料室、町の会館、職人が暮らす宿舎。同じ皿でも、売る場所、使う場所、保管する場所によって扱い方が変わる。

【一枚の皿が届くまで】土を材料として選ぶ→成形して焼く→箱へ詰める→貨物として運ぶ→店の商品になる
→家庭や宿舎で使う

悠人は、箱と袋を同じ「物を入れるもの」としてまとめようとした。しかし真央は、「入れる物や使う場面によって、必要な形が違うんじゃないかな」と言った。箱は形を保ちやすく、壊れやすい物を守るのに向いている。一方、袋は軽く、使わないときには小さくたたむことができる。似た働きを持つ物でも、それぞれに長所がある。

次に、先生は名札と入場券を見せた。どちらも小さな紙だが、名札は名前を示すためのもの、入場券は会場へ入る権利を示すためのものである。物の働きは、材料や形だけでは決まらない。そこに何が書かれ、どのような決まりの中で使われるかによっても変わるのだ。

調べた物は、台帳に一つずつ記録した。どこで使うか、何から作られているか、どのように手に入るか。店で商品として売られている物もあれば、施設で貸し出される物もある。木材や布などの材料が加工され、運ばれ、店に並び、ようやく生活の中で使われる品物になる。

悠人は、身の回りにある物は、最初から今の形で存在していたわけではないのだと思った。一枚の皿にも、一冊の手帳にも、材料を選ぶ人、作る人、運ぶ人、売の人が関わっている。生活の物を見ることは、その物を支えている多くの仕事や仕組みを見ることでもあるのだ。

商品の価格には、材料だけでなく、作る技術、運ぶ費用、店を保つ仕事も含まれる。高価な品が必ず生活に適するとは限らないが、安さだけを求めれば、作り手の暮らしや地域の財産が支えられないこともある。

悠人は帰宅後、食卓の皿と杯、箸を改めて見た。いつもの物にも、形を考えた人、材料を整えた人、階段を上って運んだ人がいる。物の向こうにある過程を知ると、生活は多くの人の仕事が変わる場所に見えた。

七 文章の中で考えよう（問い）

本文を根拠にして答えなさい。

(1) 本文中から、「大切な事項をまとめて記録する帳面」という意味で使われている熟語を抜き出しなさい。

(2) 「ニュウジョウケン」を漢字三字で書きなさい。

(3) 本文中の「材料」の意味として最も近いものを選びなさい。

- ア 完成した物を売る場所。
- イ 建物へ入るために必要な券。
- ウ 物の名前を書いた札。
- エ 物を作るもとになるもの。

(4) 本文中の「似た働きを持つ物でも、それぞれに長所がある」とは、どのようなことか。

- ア 箱と袋はどちらも物を入れるが、形や使いやすい場面には違いがあるということ。
- イ 箱と袋は材料も形も働きも完全に同じだということ。
- ウ 物を入れるためには、どんな場合でも箱だけを使えばよいということ。
- エ 袋には物を守る働きがまったくないということ。

(5) 物の働きが材料や形だけでは決まらない理由を 45～55 字で説明しなさい。

(6) 「商品」「材料」の二語を用い、生活の物から見えるつながりを 70～90 字でまとめなさい。

三 漢字の働きを考えよう

- | | |
|------------------------------------|--------------------------------------|
| (1) ウ 食事のときに使う皿・茶わん・箸など。 | (4) ア 大切な事項をまとめて記録する帳面。 |
| (2) ア 祝いなどのとき、杯を上げて飲むこと。 | (5) ウ 決められた店などで、商品を買うために使える券。 |
| (3) ウ 駅などで乗車券を確認することや、その場所。 | (6) ア 物を作るもとになるもの。 |

四 熟語を広げよう

- | | |
|---------|----------|
| (1) 皿洗い | (8) 手帳 |
| (2) 乾杯 | (9) 台帳 |
| (3) 割り箸 | (10) 入場券 |
| (4) 収納箱 | (11) 乗車券 |
| (5) 紙袋 | (12) 宿舎 |
| (6) 名札 | (13) 商品 |
| (7) 改札 | (14) 材料 |

使い分けを確かめよう：皿は食べ物をのせる平たい器を表し、食器は皿・茶わん・箸など食事に使う道具全体を表しやすい。

五 似た語を使い分けよう

(1) **イ** 皿は食べ物をのせる平たい器を表し、食器は皿・茶わん・箸など食事に使う道具全体を表しやすい。

例：料理を皿に盛る／食器を洗う

(2) **ウ** 箱は比較的形が定まった容器、袋は布や紙などでできた、形を変えやすい入れ物を表しやすい。

例：木箱に収める／紙袋に入れる

(3) **エ** 札は文字や印を書いて示す板や紙片を広く表し、券は入場・乗車・購入などの権利を示すものに使いやすい。

例：名札を付ける／乗車券を買う

(4) **ア** 商品は売るために用意された品物、材料は物を作るもとになるものを表しやすい。

(5) **ウ** A＝皿、B＝食器。(1)の使い分けを参照。

(6) **エ** A＝札、B＝券。(3)の使い分けを参照。

六 短文で使ってみよう

(1) 小皿

(11) 段階

(2) 手袋

(12) 品物

(3) 札束

(13) 図書館

(4) 菜箸

(14) 宿泊

(5) 通帳

(15) 商売

(6) 箱庭

(16) かもつ

(7) 食券

(17) ざいさん

(8) 窓口

(18) もくざい

(9) 書店

(19) こうしゃ

(10) 屋根

(20) しょうぎょう

七 文章の中で考えよう

(1) **台帳** 本文中では「台帳」と表されている。

(2) **入場券**

(3) **エ** 物を作るもとになるもの。

(4) **ア** 箱と袋はどちらも物を入れるが、形や使いやすい場面には違いがあるということ。

(5) **解答例** (46 字)

何が書かれ、どんな決まりや場面で使われるかによって、同じ紙や似た形の物でも役割が変わるから。

見る点：本文中の判断と、その理由を結びつけていること

(6) **解答例** (81 字)

生活の物は、材料を選び、加工し、運び、店で商品として売る多くの仕事を経て届く。完成した形だけでなく、その過程や費用をたどると、物を支える人と社会の仕組みが見える。

見る点：指定語を用いたこと／本文の具体と結論を結んだこと

第十七回

技術と作業

設計・道具・人の働きを組み合わせ、役立つ形をつくる。

今日の中心漢字

器 機 械 技 術 製 造 築

いっしょに覚える漢字

工	具	図	型	施	設
備	装	加	編	刻	刷

器具・機械、設計・施工などの違いを確かめたあと、計画と試作を重ねて物をつくる過程を考える文章を読みます。

意味の芯 → 熟語 → 使い分け → 短文 → 文章

一 今日の中心漢字の芯

字	主な読み	意味の芯／熟語	字	主な読み	意味の芯／熟語
器	キ・うつわ	物を入れるもの／役に立つ道具 容器・器具・食器・器量	術	ジュツ・すべ	物事を行う方法やわざ 技術・手術・美術・話術
機	キ・はた	仕組みを持つもの／物事のきっかけ 機械・機器・機会・機能	製	セイ	材料を使って品物を作る 製造・製作・製品・木製
械	カイ・かせ	仕組みによって動く道具 機械・器械・機械化	造	ゾウ・つくる	形あるものを作り上げる 製造・建造・構造・創造
技	ギ・わざ	身につけたわざ 技術・技能・特技・競技	築	チク・きずく	材料を積み上げて作る／積み重ねる 建築・築く・新築・構築

二 いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の方向／熟語	字	主な読み	意味の方向／熟語
工	コウ	作る／手を加える 工事・加工・人工	備	ビ・そなえる	必要なものをそろえる 備える・準備・設備
具	グ・そなえる	そなわる／役立つもの 道具・器具・具体	装	ソウ・よそおう	取りつける／外側を整える 装う・装置・包装
図	ズ・え	形や関係を表す 図・図面・図表	加	カ・くわえる	くわえる 加える・追加・加工
型	ケイ・かた	形のもと／決まった形 型・模型・典型	編	ヘン・あむ	組み合わせてまとめる 編む・編集・編成
施	シ・ほどこす	行う／ほどこす 実施・施工・施設	刻	コク・きざむ	切りつける／時間の区切り 刻む・彫刻・時刻
設	セツ・もうける	作って置く／計画する 設ける・設計・設置	刷	サツ・する	文字や絵を紙などに写す 刷る・印刷・刷新

三 漢字の働きを考えよう

次の問いに答えなさい。

(1) 「器具」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア 建物を作るための土地。
- イ 人が生まれつき持つ感情。
- ウ 社会の中で守るべき法律。
- エ 作業や実験などに使う道具。

(2) 「機械」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア 人の気持ちを言葉で慰めるもの。
- イ いくつかの部分が組み合わさり、力を利用して一定の仕事をするもの。
- ウ 昔の出来事を記録した文章。
- エ 人々が集まって話し合う組織。

(3) 「技術」の意味として最も近いものを選びなさい。

- ア 作業を始める前に休む時間。
- イ 建物の外側に塗る色だけ。
- ウ 物の数や量を減らすこと。
- エ 物事を行ったり作ったりするための知識やわざ。

(4) 「製造」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア 完成した品物を店で売ること。
- イ 原料や部品を使って、品物を作ること。
- ウ 古い品物を人から借りること。
- エ 品物の価値を言葉で説明すること。

(5) 「建築」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア 文章を短くまとめて印刷すること。
- イ 機械の音を聞いて記録すること。
- ウ 道具を箱の中にしまうこと。
- エ 建物を計画し、材料を使って作ること。

(6) 「構築」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア できあがった物を壊して散らすこと。
- イ 必要な部分を組み合わせ、まとまりある仕組みを作り上げること。
- ウ 相手に自分の考えを押しつけること。
- エ 昔の状態へそのまま戻すこと。

四 熟語を広げよう

次の文に合う熟語を、語群から選んで書きなさい。

【語群】 器具 機械 技術 技法 製造 建築 工具 図面 模型 施工 設計 設備 装置 印刷

(1) 理科室で使った () は、決められた場所へ戻した。

(8) 建物を作る前に、形や大きさを示した () を確認した。

(2) 工場では、大きな () が同じ速さで動いていた。

(9) 完成後の姿を確かめるため、小さな () を作った。

(3) 職人は、長い経験を通して高い () を身につけていた。

(10) 計画や図面に従って、実際に工事を行うことを () という。

(4) 絵の具の重ね方には、さまざまな () がある。

(11) 使いやすさや安全性を考え、建物や道具の () を行った。

(5) 工場で部品から製品を作ることを () という。

(12) 学校には、学習や運動に必要な () が整えられている。

(6) 古い寺の () には、昔の人々の知恵が生かされている。

(13) 温度を自動で調整する () が取り付けられていた。

(7) 木を切ったり削ったりするための () を準備した。

(14) 完成した案内文を、全校生徒の分だけ () した。

五 似た語を使い分けよう

それぞれの語の違いとして、最も適切なものを選びなさい。

(1) 「器具」と「機械」の違いとして最も自然なものを選びなさい。

ア 機械は作業や実験に使う比較的単純な道具にも使い、器具は複数の部分が組み合わさって一定の働きをするものに使いやすい。

イ 器具は「複雑な（ ）」だけに、機械は「実験（ ）」だけに使う。

ウ 「実験（ ）」と「複雑な（ ）」では、器具と機械を意味の違いなく入れ替えられる。

エ 器具は作業や実験に使う比較的単純な道具にも使い、機械は複数の部分が組み合わさって一定の働きをするものに使いやすい。

(2) 「技術」と「技法」の違いとして最も自然なものを選びなさい。

ア 技術は物事を行うための知識やわざを広く表し、技法は絵・文章・制作などで用いる具体的な表し方や方法に使いやすい。

イ 技法は物事を行うための知識やわざを広く表し、技術は絵・文章・制作などで用いる具体的な表し方や方法に使いやすい。

ウ 技術は「絵画の（ ）」だけに、技法は「加工（ ）」だけに使う。

エ 「加工（ ）」と「絵画の（ ）」では、技術と技法を意味の違いなく入れ替えられる。

(3) 「製造」と「建築」の違いとして最も自然なものを選びなさい。

ア 建築は原料や部品から品物を作ること、製造は主に建物を計画して作することに使いやすい。

イ 製造は原料や部品から品物を作ること、建築は主に建物を計画して作することに使いやすい。

ウ 製造は「校舎を（ ）する」だけに、建築は「部品を（ ）する」だけに使う。

エ 「部品を（ ）する」と「校舎を（ ）する」では、製造と建築を意味の違いなく入れ替えられる。

(4) 「設計」と「施工」の違いとして最も自然なものを選びなさい。

ア 施工は必要な形や仕組みを考えて図や計画に表すこと、設計はその計画にもとづいて実際に工事や作業を行うことに使いやすい。

イ 設計は「計画どおり（ ）する」だけに、施工は「橋を（ ）する」だけに使う。

ウ 設計は必要な形や仕組みを考えて図や計画に表すこと、施工はその計画にもとづいて実際に工事や作業を行うことに使いやすい。

エ 「橋を（ ）する」と「計画どおり（ ）する」では、設計と施工を意味の違いなく入れ替えられる。

(5) A・Bに入る語の組合せとして、最も適切なものを選びなさい。A「実験（A）」 B「複雑な（B）」

ア A＝器具／B＝機械 イ A＝機械／B＝器具

ウ A＝器具／B＝器具 エ A＝機械／B＝機械

(6) A・Bに入る語の組合せとして、最も適切なものを選びなさい。A「部品を（A）する」 B「校舎を（B）する」

ア A＝建築／B＝製造 イ A＝製造／B＝建築

ウ A＝製造／B＝製造 エ A＝建築／B＝建築

六 短文で使ってみよう

A カタカナを漢字に直しなさい。

- | | |
|----------------------------|-----------------------------|
| (1) 液体はふたの閉まるヨウキに移した。 | (9) 料理に使ったドウグを、洗って片づけた。 |
| (2) けがを治すため、来月シュジュツを受ける。 | (10) 贈り物を紙で丁寧 HouSou した。 |
| (3) 実験に使う精密なキキを、慎重に運んだ。 | (11) 結果をズヒョウにすると、変化が分かりやすい。 |
| (4) 舞台で使う大きな模型をセイサクした。 | (12) 説明が足りない箇所へ、例をツイカした。 |
| (5) 理科室のキカイは、使用後に所定の場所へ戻す。 | (13) この失敗は、確認不足のテンケイである。 |
| (6) 川に新しい橋をケンゾウする工事が始まった。 | (14) 避難訓練は、来週の午後にジッシされる。 |
| (7) 訓練を重ね、救助に必要なギノウを身につけた。 | (15) 古い制度をサッシンし、手続を簡単にした。 |
| (8) 駅の近くに図書館がシンチクされた。 | |

B 次の熟語の読みを書きなさい。

- | | | | | |
|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|
| (16) 加工 | (17) 備品 | (18) 設置 | (19) 彫刻 | (20) 編集 |
| () | () | () | () | () |

七 文章の中で考えよう

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

使う人を想像して作る

冬休みに入る前、図書委員会では、新しく入った本を紹介するための展示台を作ることになった。これまで使っていた台は古く、重い本を置くと少し傾いてしまう。先生は、「せっかくなら、自分たちで使いやすい形を設計してみましょう」と言った。

【展示台の工程表】設計→材料を切断・加工→部品を組み立てる→表面を塗装→紹介文を編集・印刷→刻印を付ける→安全を点検

学校の施設には、照明設備や換気装置など、目立たなくても働き続ける機器がある。展示台は大きな建築物ではないが、置く場所や人の動きを考えずに製造すれば、通路をふさいだり、倒れたりする危険があった。

悠人は、すぐに木の板を切り始めようとした。しかし真央は、「先に大きさを測って、図面を描いたほうがよくないかな」と止めた。二人は、置く本の大きさや台を置く場所を調べ、小さな模型を作った。模型で確かめると、最初の案では本の表紙が見えにくいことが分かり、板の角度を変えることにした。

作業の日には、のこぎりや金づちなどの工具を使った。木材を機械で正確な長さに切り、表面を紙やすりで磨き、部品を組み立てた。紹介文は読みやすい大きさに印刷し、台の前面に取りつけた。機械を使えば早く正確にできる部分もあったが、板が少しずれたところを調整するには、人の手と経験が必要だった。

完成した展示台は、初めに考えていたものよりも安定し、本の表紙もよく見えた。悠人は、技術とは、ただ高性能な機械を使うことではないと思った。何を作るのかを考え、図に表し、材料を選び、道具を正しく使い、途中で確かめながら直していく。その一つ一つの作業が組み合わさって、初めて役に立つ物ができるのだ。

先生は完成した台を見て、「物を作る技術だけでなく、みんなで作業を進める仕組みも構築できましたね」と言った。だれが測り、だれが切り、だれが印刷するかを分けたことで、作業は安全に進んだ。悠人は、技術とは一人の器用さだけではなく、知識や道具や人の働きを組み合わせることでもあるのだと気づいた。

紹介カードには、本の内容を短く編み直した文章を刷った。文字を深く刻む装飾案もあったが、差し替えるくいため採用しなかった。美しさを加える技法と、更新しやすさのどちらを優先するかも、使い方から決める必要がある。

完成後、二人は実際に本を置き、何度も出し入れした。図面どおりでも、手が入りにくい箇所は直す。設計、施工、点検を往復することで、技術は紙の上の計画から、使う人を支える働きへ変わっていった。

七 文章の中で考えよう（問い）

本文を根拠にして答えなさい。

(1) 本文中から、「作る前に形や仕組みを考え、図や計画に表すこと」という意味で使われている熟語を抜き出さない。

(2) 「セイゾウ」を漢字二字で書きなさい。

(3) 本文中の「模型」の意味として最も近いものを選びなさい。

- ア 完成後の形を確かめるために作る、小さな見本。
- イ 木材を切るために使う大きな機械。
- ウ 作業の結果を知らせる文章。
- エ 建物の中に取りつける設備。

(4) 悠人たちが木の板を切る前に図面や模型を作ったのはなぜですか。

- ア 作業を始める時刻を遅らせるため。
- イ 完成する前に、大きさや形、使いやすさを確かめて直すため。
- ウ 工具を使わずに展示台を完成させるため。
- エ 作業をすべて先生に任せるため。

(5) 技術が機械の性能だけでは決まらない理由を 45～55 字で説明しなさい。

(6) 「設計」「調整」の二語を用い、役立つ物を作る手順を 70～90 字でまとめなさい。

三 漢字の働きを考えよう

- | | |
|---|---|
| (1) 工 作業や実験などに使う道具。 | (4) イ 原料や部品を使って、品物を作ること。 |
| (2) イ いくつかの部分が組み合わさり、力を利用して一定の仕事をするもの。 | (5) 工 建物を計画し、材料を使って作ること。 |
| (3) 工 物事を行ったり作ったりするための知識やわざ。 | (6) イ 必要な部分を組み合わせ、まとまりある仕組みを作り上げること。 |

四 熟語を広げよう

- | | |
|--------|---------|
| (1) 器具 | (8) 図面 |
| (2) 機械 | (9) 模型 |
| (3) 技術 | (10) 施工 |
| (4) 技法 | (11) 設計 |
| (5) 製造 | (12) 設備 |
| (6) 建築 | (13) 装置 |
| (7) 工具 | (14) 印刷 |

使い分けを確かめよう：器具は作業や実験に使う比較的単純な道具にも使い、機械は複数の部分が組み合わさって一定の働きをするものに使いやすい。

五 似た語を使い分けよう

(1) **エ** 器具は作業や実験に使う比較的単純な道具にも使い、機械は複数の部分が組み合わさって一定の働きをするものに使いやすい。

例：実験器具／複雑な機械

(2) **ア** 技術は物事を行うための知識やわざを広く表し、技法は絵・文章・制作などで用いる具体的な表し方や方法に使いやすい。

例：加工技術／絵画の技法

(3) **イ** 製造は原料や部品から品物を作ること、建築は主に建物を計画して作ることに使いやすい。

例：部品を製造する／校舎を建築する

(4) **ウ** 設計は必要な形や仕組みを考えて図や計画に表すこと、施工はその計画にもとづいて実際に工事や作業を行うことに使いやすい。

例：橋を設計する／計画どおり施工する

(5) **ア** A＝器具、B＝機械。(1)の使い分けを参照。

(6) **イ** A＝製造、B＝建築。(3)の使い分けを参照。

六 短文で使ってみよう

(1) 容器	(11) 図表
(2) 手術	(12) 追加
(3) 機器	(13) 典型
(4) 製作	(14) 実施
(5) 器械	(15) 刷新
(6) 建造	(16) かこう
(7) 技能	(17) びひん
(8) 新築	(18) せっち
(9) 道具	(19) ちょうこく
(10) 包装	(20) へんしゅう

七 文章の中で考えよう

- (1) **設計** 本文中では「設計」と表されている。
- (2) **製造**
- (3) **ア** 完成後の形を確かめるために作る、小さな見本。
- (4) **イ** 完成する前に、大きさや形、使いやすさを確かめて直すため。
- (5) **解答例** (45 字)

目的に合う形を設計し、材料と道具を選び、途中で確かめて調整する知識や人の経験も必要だから。

見る点：本文中の判断と、その理由を結びつけていること

- (6) **解答例** (75 字)

使う人と置く場所を想像して設計し、模型で形を確かめてから材料を加工する。完成後も実際に使って不便を見つけ、調整を重ねることで、計画は役立つ物へ変わる。

見る点：指定語を用いたこと／本文の具体と結論を結んだこと

第十八回

考えを深める

具体と抽象を往復し、別々の経験を一つの考えへ結ぶ。

今日の中心漢字

理 想 象 徴 普 遍 抽 析

いっしょに覚える漢字

仮	像	素	質	源	客
媒	介	般	専	旨	趣

理論・理想、現象・本質、抽出・分析などを使い分けたあと、具体例と抽象的な考えを往復する文章を読みます。

意味の芯 → 熟語 → 使い分け → 短文 → 文章

一 今日の中心漢字の芯

字	主な読み	意味の芯／熟語	字	主な読み	意味の芯／熟語
理	リ・ことわり	物事を成り立たせる筋道 理由・理解・理論・原理	普	フ・あまねく	広く行き渡る 普通・普及・普遍
想	ソウ・おもう	心の中に思い浮かべる 想像・理想・思想・感想	遍	ヘン・あまねく	広く全体に行き渡る／一回りする 普遍・遍在・一遍・遍歴
象	ショウ・かたどる	目に見える形／心に浮かぶ姿 現象・印象・対象・象徴	抽	チュウ・ひき-	多くの中から取り出す 抽出・抽象・抽選
徴	チョウ・しるし	目じるしとなるもの／特徴として表 れるもの 特徴・象徴・徴候・徴収	析	セキ	分けて明らかにする 分析・解析・析出

二 いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の方向／熟語	字	主な読み	意味の方向／熟語
仮	カ・かり	本当のものと決めず、一時的に置く 仮定・仮説・仮面	媒	バイ・なこうど	二つの間をつなぐもの 媒体・媒介・触媒
像	ゾウ	目や心に映る姿 画像・映像・肖像	介	カイ	間に入る／取り持つ 紹介・仲介・介入
素	ソ・もと	物事を作るもと 要素・素材・素質	般	ハン	広く同じ種類に及ぶ 一般・全般
質	シツ・たち	そのものを成り立たせる中身 本質・性質・物質	専	セン・もっぱら	一つのことに集中する 専門・専用・専念
源	ゲン・みなもと	物事が生まれ出るもと 水源・起源・資源	旨	シ・むね	中心となる考えや目的 要旨・趣旨・本旨
客	キヤク	外から見る立場／訪れる人 客観・来客・乗客	趣	シュ・おもむき	向かうところ／味わい 趣旨・趣味・趣向

三 漢字の働きを考えよう

次の問いに答えなさい。

(1) 「理論」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア 個々の出来事を説明するため、筋道立ててまとめた考え。
- イ 心の中に思い浮かべた、かなえたい姿。
- ウ 物の表面に見える形や色。
- エ ある言葉から受けた最初の感じ。

(2) 「象徴」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア 多くの資料から必要な部分だけを取り出すこと。
- イ 物事を細かく分けて原因を調べること。
- ウ 目に見えない考えや性質を、具体的な物や形によって表すこと。
- エ 自分の意見だけを正しいものとして示すこと。

(3) 「普遍」の意味として最も近いものを選びなさい。

- ア 時代や場所などを越えて、広く当てはまること。
- イ ある人にだけ一時的に当てはまること。
- ウ 特定の場所だけで認められること。
- エ まだ正しいかどうか確かめられていないこと。

(4) 「抽象」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア 一つの出来事を、時間の順に細かく再現すること。
- イ 目に見える形を、そのまま正確に写すこと。
- ウ 複数の具体的な物事から、共通する性質や考えを取り出すこと。
- エ 資料の中の数字を一つずつ数えること。

(5) 「分析」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア 物事をいくつかの要素に分け、関係や特徴を明らかにすること。
- イ まだ起きていないことを心の中で願うこと。
- ウ 多くの人に同じ商品を広めること。
- エ 相手との間に入り、二人を紹介すること。

(6) 「本質」の説明として最も適切なものを選びなさい。

- ア その場で偶然目についた細かな違い。
- イ 物事の表面に一時的に現れた様子。
- ウ そのものを成り立たせている、最も大切な性質。
- エ 文章の中に使われている文字の数。

四 熟語を広げよう

次の文に合う熟語を、語群から選んで書きなさい。

【語群】 理論 理想 現象 象徴 特徴 普及 普遍 抽象 抽出 分析 仮説 本質 媒介 趣旨

(1) 集めた事実を筋道立てて説明するため、一つの（ ）を組み立てた。

(8) 複数の具体例から共通点を取り出し、（ ）的な言葉にまとめた。

(2) だれもが安心して学べる学校を、悠人は一つの（ ）として思い描いた。

(9) 調査結果の中から、必要な数値だけを（ ）した。

(3) 霧や凍結など、自然界で実際に起こる出来事を自然（ ）という。

(10) 利用者数や時間帯を分けて（ ）すると、問題の原因が見えてきた。

(4) 白い鳩は、平和の（ ）として用いられることがある。

(11) まず原因について（ ）を立て、その後に記録を使って確かめた。

(5) 二つの文章を比べ、それぞれの（ ）を整理した。

(12) 見た目の違いだけでなく、その物の（ ）を考える。

(6) 新しい技術が広く社会に行き渡ることを（ ）という。

(13) 言葉は、自分の考えと相手の理解をつなぐ（ ）となる。

(7) 人を尊重するという考えは、時代を越えて問われる（ ）的な問題である。

(14) 文章を読む前に、筆者が何を伝えようとしているのか、その（ ）を考えた。

五 似た語を使い分けよう

それぞれの語の違いとして、最も適切なものを選びなさい。

(1) 「理論」と「理想」の違いとして最も自然なものを選びなさい。

- ア 理想は事実や考えを筋道立てて説明するまとまり、理論はこうありたいと心に描く望ましい姿を表しやすい。
- イ 理論は事実や考えを筋道立てて説明するまとまり、理想はこうありたいと心に描く望ましい姿を表しやすい。
- ウ 理論は「()を描く」だけに、理想は「()を組み立てる」だけに使う。
- エ 「()を組み立てる」と「()を描く」では、理論と理想を意味の違いなく入れ替えられる。

(2) 「現象」と「本質」の違いとして最も自然なものを選びなさい。

- ア 本質は実際に表れて観察できる出来事や状態、現象はそのものを成り立たせる中心的な性質を表しやすい。
- イ 現象は「()を捉える」だけに、本質は「()を観察する」だけに使う。
- ウ 現象は実際に表れて観察できる出来事や状態、本質はそのものを成り立たせる中心的な性質を表しやすい。
- エ 「()を観察する」と「()を捉える」では、現象と本質を意味の違いなく入れ替えられる。

(3) 「普遍」と「一般」の違いとして最も自然なものを選びなさい。

- ア 一般は時代や場所を越えて広く当てはまること、普遍は特別なものではなく広く多くに見られることを表しやすい。
- イ 普遍は「()的な傾向」だけに、一般は「()的な価値」だけに使う。
- ウ 「()的な価値」と「()的な傾向」では、普遍と一般を意味の違いなく入れ替えられる。
- エ 普遍は時代や場所を越えて広く当てはまること、一般は特別なものではなく広く多くに見られることを表しやすい。

(4) 「抽出」と「分析」の違いとして最も自然なものを選びなさい。

- ア 抽出は資料から必要な部分を取り出すこと、分析は取り出した情報などを分けて関係や意味を明らかにすることに使いやすい。
- イ 分析は資料から必要な部分を取り出すこと、抽出は取り出した情報などを分けて関係や意味を明らかにすることに使いやすい。
- ウ 抽出は「関係を()する」だけに、分析は「要点を()する」だけに使う。
- エ 「要点を()する」と「関係を()する」では、抽出と分析を意味の違いなく入れ替えられる。

(5) A・Bに入る語の組合せとして、最も適切なものを選びなさい。A「(A)を観察する」 B「(B)を捉える」

- ア A=本質/B=現象 イ A=現象/B=現象
- ウ A=現象/B=本質 エ A=本質/B=本質

(6) A・Bに入る語の組合せとして、最も適切なものを選びなさい。A「要点を(A)する」 B「関係を(B)する」

- ア A=分析/B=抽出 イ A=抽出/B=抽出
- ウ A=分析/B=分析 エ A=抽出/B=分析

六 短文で使ってみよう

A カタカナを漢字に直しなさい。

- | | |
|------------------------------|--------------------------------|
| (1) 遅れたリユウを、事実に沿って説明した。 | (9) まず条件を単純にカテイして、計算を進めた。 |
| (2) 朝はフツウ列車に乗り、各駅の様子を見た。 | (10) 新聞や動画など、情報を伝えるバイタイは多様である。 |
| (3) 百年後の町をソウゾウして、絵に表した。 | (11) 先生から友人をショウカイしてもらった。 |
| (4) 水は環境のさまざまな場所にヘンザイしている。 | (12) これは特別な例ではなく、イッパンに見られる現象だ。 |
| (5) 初対面のインショウだけで、人柄を決めない。 | (13) 水に溶けるセイシツを、実験で確かめた。 |
| (6) 応募者が多かったため、順番をチュウセンで決めた。 | (14) このはさみは、左利きの人のセンヨウである。 |
| (7) 発熱は感染症のチョウコウの一つである。 | (15) 休日は写真を撮ることをシュミにしている。 |
| (8) 観測データをカイセキし、変化の原因を探った。 | |

B 次の熟語の読みを書きなさい。

- | | | | | |
|---------|---------|---------|---------|---------|
| (16) 映像 | (17) 要素 | (18) 起源 | (19) 客観 | (20) 要旨 |
| () | () | () | () | () |

七 文章の中で考えよう

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

出来事をつなぐ一つの考え

学年の終わりが近づき、先生は悠人たちに、図書室で取り組んだ活動を一枚の発表用紙にまとめるよう求めた。悠人は、ルールの調査、一年生の案内、本の紹介大会、展示台作りを順番に書いた。しかし、出来事を並べるだけでは、活動記録の一覧にしか見えなかった。

【考えを深める往復】 具体像を集める→要素を抽出する→関係を分析する→仮の説明を立てる→客観的な資料で確かめる→別の具体例へ戻す

先生は「理想の学校を語るだけでなく、活動の趣旨を一文で示してみよう」と言った。専門的な語だけでは読み手との間を媒介できず、一つの経験から普遍的な結論を出せば言い過ぎになる。悠人は、具体例と考えを行き来する必要があると気づいた。

真央は記録を机に並べた。ルールを変える前には様子を調べ、案内では相手の行き先を考え、展示台は使う人に合わせて形を直した。二人が出来事を分析すると、「自分の考えだけで決めず、事実と相手の立場を確かめて、よりよい形を作る」という共通の要素が抽出できた。

これは一つ一つを細かく説明する言葉ではないが、活動を結ぶ本質を表している。ただし、抽象的な言葉だけでは中身が伝わらない。「相手を尊重する」と書くなら、一年生を案内した場面へ戻る。展示台の絵も、一年間の学びを表す象徴として添えた。

発表には、記憶だけでなくアンケート、議事録、写真も情報源として用いた。紙や展示台は考えを伝える媒体であり、人と考えを結ぶ媒介にもなる。資料ごとの限界を確かめ、複数を照らせば、見方の偏りを減らせる。

先生は、考える素質は一部の人のものではないと言った。一般に、問いを立て、仮説を資料で確かめ、合わなければ直す手順は練習できる。難しい言葉の使用が目的なのではなく、言葉によって現象の質や関係を見えるようにすることが大切なのである。

「考えるとは、具体的な像から少し離れて考え、また生活へ戻って確かめる往復である。」

七 文章の中で考えよう（問い）

本文を根拠にして答えなさい。

(1) 本文中から、「そのものを成り立たせている、最も大切な性質」という意味に近い熟語を抜き出さない。

(2) 「チュウショウ」を漢字二字で書きなさい。

(3) 本文中の「象徴」の意味として最も近いものを選びなさい。

ア 実際の大きさをそのまま写した模型。

イ 目に見えない考えや学びを、具体的な物によって表すもの。

ウ 調査に使った数字をまとめた記録。

エ 活動の順番を示した予定表。

(4) 本文中の「具体的な出来事から少し離れ、抽象的に捉えた」とは、どのようなことか。

ア 一つ一つの出来事を忘れ、何も考えないようにしたということ。

イ 活動の内容を、実際より難しい言葉に言い換えたということ。

ウ 複数の出来事に共通する性質や考えを取り出してまとめたということ。

エ どの活動にも違いがないと決めつけたということ。

(5) 抽象的な考えと具体例の両方が必要な理由を 45～55 字で説明しなさい。

(6) 「抽出」「分析」「仮説」の三語を用い、考えを深める手順を 70～90 字でまとめなさい。

三 漢字の働きを考えよう

(1) **ア** 個々の出来事を説明するため、筋道立ててまとめた考え。

(4) **ウ** 複数の具体的な物事から、共通する性質や考えを取り出すこと。

(2) **ウ** 目に見えない考えや性質を、具体的な物や形によって表すこと。

(5) **ア** 物事をいくつかの要素に分け、関係や特徴を明らかにすること。

(3) **ア** 時代や場所などを越えて、広く当てはまること。

(6) **ウ** そのものを成り立たせている、最も大切な性質。

四 熟語を広げよう

(1) 理論

(8) 抽象

(2) 理想

(9) 抽出

(3) 現象

(10) 分析

(4) 象徴

(11) 仮説

(5) 特徴

(12) 本質

(6) 普及

(13) 媒介

(7) 普遍

(14) 趣旨

使い分けを確かめよう：理論は事実や考えを筋道立てて説明するまとめ、理想はこうありたいと心に描く望ましい姿を表しやすい。

五 似た語を使い分けよう

(1) **イ** 理論は事実や考えを筋道立てて説明するまとめ、理想はこうありたいと心に描く望ましい姿を表しやすい。

例：理論を組み立てる／理想を描く

(2) **ウ** 現象は実際に表れて観察できる出来事や状態、本質はそのものを成り立たせる中心的な性質を表しやすい。

例：現象を観察する／本質を捉える

(3) **エ** 普遍は時代や場所を越えて広く当てはまること、一般は特別なものではなく広く多くに見られることを表しやすい。

例：普遍的な価値／一般的な傾向

(4) **ア** 抽出は資料から必要な部分を取り出すこと、分析は取り出した情報などを分けて関係や意味を明らかにすることに使やすい。

例：要点を抽出する／関係を分析する

(5) **ウ** A＝現象、B＝本質。(2)の使い分けを参照。

(6) **エ** A＝抽出、B＝分析。(4)の使い分けを参照。

六 短文で使ってみよう

(1) 理由	(11) 紹介
(2) 普通	(12) 一般
(3) 想像	(13) 性質
(4) 遍在	(14) 専用
(5) 印象	(15) 趣味
(6) 抽選	(16) えいぞう
(7) 徴候	(17) ようそ
(8) 解析	(18) きげん
(9) 仮定	(19) きゃっかん
(10) 媒体	(20) ようし

七 文章の中で考えよう

- (1) **本質** 本文中では「本質」と表されている。
- (2) **抽象**
- (3) **イ** 目に見えない考えや学びを、具体的な物によって表すもの。
- (4) **ウ** 複数の出来事に共通する性質や考えを取り出してまとめたということ。
- (5) **解答例** (49 字)

共通する考えだけでは中身が伝わりにくく、具体例だけでは別々の経験を結ぶ性質や意味が見えにくいから。

見る点：本文中の判断と、その理由を結びつけていること

- (6) **解答例** (78 字)

複数の事実から共通する要素を抽出し、違いや関係进行分析して仮説を立てる。その説明を客観的な資料や別の具体例で確かめ、合わなければ直す往復によって考えは深まる。

見る点：指定語を用いたこと／本文の具体と結論を結んだこと